

(別電)

南京 12月5日後発
本省 12月5日後着
第一二二三号

貴翰閱悉露支問題發生以来本国政府ハ終始和平ヲ保持シ露
国側ニ対シ自衛手段以上何等軍事的敵対行為ヲトリタルコ
トナク右ハ事実ノ証明スル所ナリ本国政府ハ支那カ不戦条
約調印国ナルヲ以テ八月二十日各加盟国ニ対シ支那ハ其ノ
領土主權ヲ保持シ外来ノ侵害ヲ防禦スル自衛行動ノ外不戦
条約第二条ノ規定ヲ遵守シ平和的方法ヲ以テ紛争ヲ解決ス
ヘキ旨並維持可能ノ範圍ニ於テ露国政府ト今回ノ紛争解決
ノ商議ヲナス準備ヲ有スル次第ヲ説明シタルカ右声明ハ実
ニ御来示ノ趣旨ト完全ニ符合ス蓋シ支那政府ハ夙ニ該条約
ヲ信シ終始遵奉シテ変ル所ナキヲ以テ重ネテ之ヲ声明ス
云々

313 昭和4年12月(7)日 在南京上村領事より
幣原外務大臣宛(電報)

王正廷が日本の列国共同声明への不参加に懸
念表明について

南京 発
本省 12月7日後着

第一二二二号

七日ノ各新聞ニ依レハ王正廷ハ六日新聞記者団ニ対シ(一)国
民政府ハ曩ニ張學良ニ対シ相当ノ範圍内ニ於テ露国側代表
ト交渉シ差支ナキ旨訓令セルカ現在如何ナル程度迄交渉進
捗シ居ルヤ外交部ニハ未タ報告ナシ(二)英、米、仏、伊等不
戦条約国八ヶ国ハ平和的解決ヲ主張セル電報ヲ寄越セルカ
新聞報道ニ依レハ日本ハ之ニ参加スルコトヲ欲セサル趣ニ
シテ自分ハ甚タ氣遣ニ思フ尚最近佐分利公使逝去モ不思議
ト思フ旨語リタル趣ナリ

支、上海、奉天、哈爾濱へ転電セリ

四 済南事件解決交渉(含南京・漢口両事件解決交渉)

314 昭和4年1月5日 在南京岡本領事より
田中外務大臣宛(電報)

中国側は済南事件解決交渉再開を希望する旨
の周外交部第二司長の談話について

南京 1月5日後発
本省 1月6日前着

*第七号

上海発閣下宛電報第一号ニ関シ

本五日他用ヲ以テ周龍光ニ面会シタル際周ハ本官ニ対シ一
日王部長ヨリ上村領事ニ話シタル事項ハ其ノ儘貴国政府ヘ
報告セラルルコト勿論差支ナキモ之カ為王部長カ恰モ日支
懸案交渉ヲ打壞シ引テ田中内閣ノ倒レムコトヲ希望シ居レ
ルカ如ク誤解セラレテハ王部長トシテ甚タ迷惑スル旨語リ
タル後抑々支那側トシテハ曩ニ王部長矢田総領事間ニ将来
ノ保障ノ点ニ付談合纏リ居ル事実ニ鑑ミ既ニ保障問題解決
スル以上撤兵ハ不可能ニアラスト諒解シ居ル処其ノ後貴国

政府ヨリハ此ノ点ニ関シ何等反対ノ意思表示ヲセラレス從
テ保障問題ノ関スル限り貴国側ニハ御異存ナキモノト承知
シ居レルニ拘ラス撤兵問題ニ関シ今以テ何等御申出ナキハ
不思議ト言フヘク即チ撤兵ノ誠意ナキニアラスヤト疑フ次
第ニシテ仮ニ右王矢田間ノ談合ニ満足セラレサルニ於テハ
支那側トシテ此ノ点ニ関シ正式、非公式ヲ問ハス再ヒ交渉
ヲ開始シ而シテ撤兵時期ヲ決定スルコトト致シ差支ナキ次
第ニシテ此ノ点特ニ政府ニ報告サレタク王部長モ自分ニ対
シ何等日本側ヨリ申出ナキヤト再三尋ネタリ即チ将来ノ保
障問題解決ニ依リ撤兵時期ヲ決定シ後細目協定ニ入ルノ段
取りトナシタキ意嚮ニシテ之以外ノ方途ニ出テ能ハサル破
目トナレル次第ナリ

右ハ支那側カ曩ニ矢田総領事王正廷間ニ談合纏マリタル保
障問題ノ交渉カ其ノ後帝國政府ノ御訓令ニ依リ立消トナリ
タル事情ヲ知ラサルニ依リ誤解ニ基クモノト認メラルモ
本官ハ勿論單ニ聞流スニ止メタリ何等御参考迄

315 昭和4年1月8日 田中外務大臣より
在上海矢田(七太郎)総領事宛(電報)

濟南事件解決交渉の再開方訓令

本省 1月8日後8時発

*第七号

貴電第一号及第五号ニ関シ王正廷ノ言動ハ実ニ言語同断^(通カ)ニシテ一国ノ外交部長カ他国ノ代表者ニ対シテ為シタル言動トシテハ殆ト信スヘカラサル程度ノモノナレハ之レニ基キ王正廷乃至国民政府ノ責任ヲ問フコト敢テ差支無シト信スル程ナルモ凡テ誤解ニ基ク暴言ナレハ本大臣ハ日支關係ノ重大ナルニ顧ミ此際最モ慎重ナル態度ニ出ルノ必要ヲ認メ先ツ出来得ル限り彼ノ誤解ヲ解キ我真意ヲ彼ニ徹底セシムルニ努メムトス

抑モ王正廷等近時ノ不穩当ナル言動ハ日本ニ関スル幾多ノ誤レル観測ニ基クコトハ既ニ御氣付ノ通ナルカ其ノ中主ナルモノハ日本カ撤兵スルノ誠意ナシト感シ居ルコト其一内政上ノ理由ヨリ即時撤兵ヲ餘儀ナクセラルルカ若ハ現内閣更迭スルカ如キコトアルヘシト豫想シ居ルコト其二欧米諸国ト支那トノ条約カ凡テ締立セラレタル今日日本トシテハ

確ニ言明シタル次第ナレハ右ノ如キ變更有ルヘシトノ支那側ノ期待ハ全然裏切ラレタル次第ニテ又近ク政府ノ更迭有ルヘシト想像スルカ如キハ全ク日本ノ政局ヲ知ラサルノ結果ニ外ナラス

最后ニ欧米諸国ト支那トノ利害關係ハ何レモ到底日本ト支那トノ如キ緊密重大ナルモノニアラサルハ言フヲ俟タサルトコロナルヲ以テ仮令支那ト欧米諸国トノ条約締立サルモ日本トシテハ独自ノ立場ニヨツテ進退セサルヘカラサルハ勿論ニテ敢テ欧米諸国ニ追従スルノ謂レナク王正廷カ欧米諸国トノ条約締立ヲ頼ンテ日本ヲ屈服セシメムトスルモ右ハ全ク見当違ヒナリ

支那側カ右ノ如キ誤解若ハ観測違ヒニ立脚シテ最近ノ如キ無法ナル態度ニ出テ勢ノ赴クトコロ日支ノ關係ヲシテ遂ニ取り返しノ付カヌ状態ニ導キ入ルルコトハ本大臣トシテ東洋平和ノ大局ヨリ頗ル憂慮ニ堪ヘストスルトコロナリ

王正廷ノ最モ重キヲ置ケル濟南事件ニツイテハ居留民保護ノ目的ニテ派遣セル軍隊ハ濟南事件其ノモノノ解決モ出来ス從テ日本人ノ感情モ疎隔ヲ来シ居ル山東今日ノ情勢ニテハ同事件ノ解決ト離レテ直チニ撤兵シ若ハ撤兵ノ期日ヲ明

凡テ泣寝入リトナラサルヲ得サルヘシトノ観測ヲ為シ居ルコト其ノ三ナリ

王正廷カ上村ニ対シ「三月十五日ノ全国代表大会ヲ期シ動乱勃発シ国民政府ノ崩壊アルヘシト期待シ撤兵問題モ其ノ後ノ形勢ニ依リ態度ヲ決セムトシ居ルモノナリ」ト云ヘルカ如キ(貴電第一号)將又周龍光カ岡本ニ対シ「支那側トシテハ曩ニ王部長矢田總領事間ニ將來ノ保障ノ点ニ付談合纏リ居ル事実ニ鑑ミ既ニ保障問題解決スル以上撤兵ハ不可能ニアラスト諒解シ居ル処其後貴国政府ヨリハ此点ニ関シ何等反対ノ意思表示ヲセラレス從テ保障問題ノ關スル限リ貴国側ニハ御異存ナキモノト承知シ居レルニ拘ラス撤兵問題ニ関シ今以テ何等御申出ナキハ不思議ト云フヘク即チ撤兵ノ誠意ナキニアラスヤト疑フ次第ナリ云々」ト述ヘ居ルカ如キ(南京發本大臣宛第七号)何レモ日本ノ誠意ヲ疑ヒ居ルモノナルカ共ニ甚シキ誤解ナルハ申迄モ無シ

次ニ支那側ハ日本ノ政客浪人等ノ言動ニ依リ或ハ床次氏支那視察ノ結果トシテ政府ノ對支方針變更有ルヘシト期待シタルコトアリシナラムモ本大臣ハ床次氏トノ会见ニ於テ明カニ政府ノ對支方針ニハ何等ノ變更ヲモ加ヘサルコトヲ明

示スルコトハ不可能ナルモ日本ハ濟南事件ハ公正ナル基礎ノ上ニ成ルヘク速カニ之ヲ解決セムコトヲ希望シ居ルモノナルヲ以テ周ノ岡本領事ニ語リタルカ如ク保障問題解決ニ依リ撤兵時期ヲ決定シ後細目協定ニ入ルト云フカ如キ二段ノ方法ヲ執ラス此際一氣ニ事件其ノモノヲ解決シテ撤兵ヲ実行スルノ方針ヲ選フコト却ツテ急速ナル解決ヲ齎ス所以ナリト信ス

若シ支那側ニ於テ濟南事件ノ交渉ニ応スルノ意アルニ於テハ此際帝國政府ハ直チニ交渉ヲ開始セムコトヲ欲スルモノナリ(尤モ政府ハ第一回南京ニ於ケル貴官ト王正廷トノ談合ヲ認メス更ニ新ナル基礎ニ於テ本件ヲ交渉スヘキ旨訓令(客年南京宛往電第一〇三号及上海宛特第五号)シタルモ當時實地ノ状況ヨリ政府ノ意思カ支那側ニ通セラレ居ラサル為メ支那側ニ於テハ周龍光カ岡本ニ対シテ為シタル談話(南京發第七号)ノ如キ誤解ヲ抱キ居ルモノト認メラレ右ハ日本ノ誠意ヲ疑フ根本ヲナシ居ルヤニ認メラルルニ付貴官ト王正廷トノ第一回南京會議ノ際ニ於ケル濟南事件ノ意見交換ハ何等政府ノ訓令ニ基キタルモノニアラス為メニ當時政府ヨリ会谈ノ結果ヲ承認セサル旨電報アリタル次第王

正廷ニ充分説明シ置カルコト必要ナリ）就テハ貴官ハ至急王正廷ニ面会セラレ本大臣ノ訓令ニ依ル趣ヲ前提シ上述ノ次第ヲ適宜説明ノ上嚴肅ニ王ノ反省ヲ求メラレ此際一方ニハ撤兵実行ノ前提トシテ公式若ハ非公式ニ濟南事件ノ解決交渉ヲ開始スルコトトシ他方ニハ関税ノ一方的徴収ヨリ生スル極メテ危険ナル事態ノ発生ヲ防止スル為メ既ニ打合セ濟ノ公文交換ヲ直チニ実行セシムル様御措置アリ度

316 昭和4年1月9日 在上海矢田總領事より
田中外務大臣宛（電報）

濟南事件に関する王外交部長とのこれまでの交渉経緯確認について

上海 1月9日後発
本省 1月9日後着

第十九号

南京発閣下宛往電第七号ニ関シ

右周龍光ノ為セル談話ハ本官ノ腑ニ落チサル節アル処濟南事件ニ関スル本官、王正廷トノ話合ハ客年南京発往電第五七七号前段ヲ以テ御報告ノ通十月二十日午後三時ノ会見ニ

非違等ニ関シ「モスト・エンバラツシング・クエスションズ」ヲ提起シテ其ノ回答ヲ求メ同時ニ其ノ事実ヲ発表シ内外各国ノ輿論ニ訴ヘ之ヲ背景トシテ交渉ヲ開始スル覚悟ナリ

若シ他ノ人來ラムカ日本政府ハ国民政府カ貴官ナレハコソ蔡公時ノ問題モ提起セサル事実ヲ能ク了解セラレ右ノ趣旨ヨリ謂ハハ一度本件解決ヲ他ノ者ニ代ラシメテ總テヲ破壊シタル後結局貴官トノ間ニ妥結スルコト最上策ニ非サヤト述ヘ翌二十二日ノ会見ニ於テ本官ハ双方委員ノ面前ニ於テ濟南事件ニ関スル貴下トノ一切ノ交渉ハ拋棄スルコトヲ明言シタルニ（本官ハ「クリーン、スレイト」ナル文字ヲ用ヒタリ）王ハ之ニ対シ承知ノ旨ヲ答ヘタリ前記談話ハ迎賓館ノ別室ニテ兩人限リニテ為シタルモノナルニ付周龍光ハ或ハ承知シ居ラサルヤモ計ラレサルモ王自身ニ於テハ誤解無キ筈ナリ尚右ノ次第ハ岡本領事六日夜來滬セルニ付同官ニ対シ為念注意シ置キタリ

317 昭和4年1月9日 在上海矢田總領事より
田中外務大臣宛（電報）

於テ王ニ対シ「曩ニ周龍光ニ手交シ置キタル私案ハ貴下ト

討議ノ便宜上全然本官限リノ考ニテ作成シタルモノナルニ依リ何等日本政府ヲ拘束スルモノニ非サルコトヲ御承知アリタシ」ト述ヘ念ヲ押シ其ノ後南京宛貴電第一〇三号ヲ以テ濟南事件ニ関スル今日迄ノ論議ハ單ニ貴官ノ私見ニ過キスシテ政府ノ承認ヲ得ル事能ハサリシ旨ヲ告ケテ撤回スヘシトノ御訓令ニ接シタル処當時ノ空氣ニ鑑ミ直ニ之ヲ執行スルコトハ全体ニ悪影響アリト認メタルノミナラス本官近々再ヒ來寧スヘキニ付右訓令執行ハ其ノ機會ニ讓ル事トシタキ旨電稟シテ上海ニ引揚ケタルカ

同月末第三次南京訪問ニ方リテハ南京發往電第六三二号王正廷トノ会見ニ於テ王ハ日本政府ヨリ山東撤兵ノ時期明示ニ関スル訓令ハ來ラサルヤト問ヘルニ付本官ハ未タ是ヲ接手セス又其ノ見込モ無シト答ヘタルニ王ハ何故ナリヤト反問セルニ付本官ハ濟南事件ニ関スル本官ノ今日迄ノ所言ハ政府ノ承認ヲ得サリシヲ以テナリ自分ハ濟南事件解決ノ衝ニ当ラサルヘシト応シタルニ王正廷ハ若シ貴官以外ノ者來ルナラハ自分トシテハ全然態度ヲ改メ先ツ一、出兵ノ抗議二、蔡公時ノ虐殺其ノ他日本軍ノ山東ニ於テ為シタル陰謀

崔士傑による王外交部長の濟南事件解決交渉
案申入れについて

上海 1月9日後発
本省 1月10日前着

第二〇号

九日午前本官出勤前崔士傑來訪シ王正廷ノ命ヲ受ケタリトテ日支懸案交渉再開ニ付テ王正廷自身ノ案アリト述ヘタルニ付本官ハ王ノ上村領事等ニナシタル如キ言動ニ顧ミ仮令其レカ名案ナリトモ王カ其ノ態度ヲ改メサル限リハ取次キ難シト拒絕シタル処崔ハアノ日ハ王部長ハ大阪毎日ノ記事ヲ見テ日本政府ノ宣伝ナリト誤解シ非常ニ興奮シ酒機嫌モアリ上村領事等ニ対シ氣焰ヲ揚ケタルモノナルカ其ノ後誤解モ解ケ態度モ變リ居レハアノ時ノ王部長ノ脱線ニ対シテハ日本政府カ重キヲ置カサル様希望スト述ヘタルニ付然ラバ試ミニ問ハンカ王氏ノ提案トハ如何ナルモノナリヤト質問セルニ崔ハ其ノ案ハ先ツ王部長ヨリ日本政府ニ宛テ国民政府ハ北伐モ完成シ統一ニモ成功シ秩序モ整ヒタルニ付山東日本居留民ノ生命財産ニ対スル危険去レルヲ以テ撤兵セラレ度ク將來ノ保護ニ付テハ国民政府ニ於テ責任ヲ以テ之

ニ当ルヘキ旨通告シ之ニ対シ日本政府ヨリ国民政府ニ於テ斯ノ如ク居留民保護ニ関シ政府ノ名ニ於テ責任ヲ執ルニ於テハ之ニ信頼シ日本政府ハ何月何日ヨリ撤兵ヲ実行スヘキ旨回答スト云フ案ナリト述ヘタリ依テ本官ハ貴下ノ云フ処ト五日周龍光ノ岡本領事ニ話シタル事トハ相異アリトテ南京發往電第六号ノ周談話ノ趣旨ヲ説明シタルニ崔ハ周カ如何ナル話ヲ為シタルヤ知ラサレトモ王部長ノ考ハ

一、国民政府ニ於テハ済南事件ト撤兵問題トハ別個ノ事件トシテ取扱ヒ居リ

二、日本政府カ撤兵ノ時機ヲ決定シ得サル理由カ我方ノ保障不十分ナリト云フニアルナラハ保障問題ニ付テ日本政府ト更ニ交渉ヲ為スモ可ナリ

三、但シ右ハ済南事件ノ解決トハ別問題ナリト云フニアリト述ヘタリ

依テ本官ハ然ラバ日本政府カ済南事件解決後撤兵ヲ実行ストノ方針ト国民政府カ撤兵時機ノ明示ヲ前提トスト云フ事トハ其ノ間甚タシキ懸隔アリテ結局從來議論ヲ尽シタル処ヲ一步モ出テサルニ非スヤ王部長カ本件ニ全然関係ナキ関税問題ニ付宋子文ト本官トノ間ニ協定セル提案ニ付全然同

コト定マリタル後交換ヲ実行スルコト致シタキニ付右内交渉ハ上海ニ於テナスコト最適当ナルヘシト述ヘタルヲ以テ兎ニ角貴下來訪ノ次第ハ本省ヘ電報スヘシト答ヘ引キ取ラシメタリ

318 昭和4年1月9日 在上海矢田総領事より
田中外務大臣宛（電報）

済南事件解決交渉に關し崔士傑を通じて王外交
部長との会見申入れについて

上海 1月9日後発
本省 1月10日前着

第二号

往電第二〇号崔士傑ト会見後貴電第七号御訓令接到セルニ付崔士傑ヲ招キ午後三時官邸ニ於テ会見ス本官ヨリ先ツ御訓令ニ接シタル旨ヲ告ケ至急王部長ニ会見シ度キ旨ヲ述ヘタル処崔ハ王部長ハ明日夜南京發來滬スヘキモ尚右ノ旨王ニ対シ電報致スヘシトテ其ノ用向ヲ尋ネタルニ付日支交渉再開ニ関スル訓令ナリト答ヘタルニ崔ハ撤兵期日ノ明示ナキ限り済南事件ノ交渉ヲ開始スルコト不可能ナリ何トナ

意ヲ表シ置キ乍ラ其ノ実行ヲ見合セ日本政府ヲシテ撤兵時機ヲ声明セシムル攻道具ニセムトセルカ如キハ最モ王君ニ対スル我等ノ信頼ヲ裏切ルモノナリ自分ハ平素ノ友誼ニ顧ミ王君ニ会見セハ強ク面責セムト考ヘ居ル程ナリ先ツ婦ツテ王君ニ対シ関税ニ関スル公文交換ノ実行カ先決問題ナリ右解決セハ日本政府ハ王氏ノ誠意ヲ認メ撤兵問題ノ解決ニモ或ハ同情アル考慮ヲ加フル事アルヘシト思考セラルル旨伝ヘラレタシ

尚本官特ニ此ノ際王君ニ申入レ置キタキハ将来如何ナル問題ニテモ本官王ト会見ノ場合ニハ南京ハ絶対ニ避ケタク幸ニシテ王部長上海ノ居宅ハ本官邸ノ近傍ニアリ人目ヲ惹カスシテ内密ニ会見ヲナシ得ヘキヲ以テ万事好都合ナリ右ハ昨年嘗メタル苦経験ニ依リ痛切ニ感シタル結果ニシテ日支両国ノ大局ニ顧ミレハ急ヲ要スル時ハ王君自ラ上海ヘ出馬サレテモ差支ナキニ非スヤト述ヘタルニ崔ハ其ノ旨王部長ニ申伝フヘク仮リニ若シ日本政府ニ於テ王氏ノ案ヲ採用セラルルナラハ保障ニ関スル支那側ノ公文ノ内容ニ付テハ充分ニ日本側ノ意見ヲ容レ其ノ満足スル様努ムヘク之ヲ要スルニ交換公文ノ内容ハ豫メ協定シテ双方ニ於テ異議ナキ

レハ済南事件ノ重要ナル解決条件タル損害賠償責任者ノ処罰等ニ付テハ実地調査ヲ經サレハ決定ヲ見ルコト能ハサルヘク實地調査ニ當リテ支那側委員ハ日本軍隊ノ占領地域内ニ他ノ諸懸案ヲ解決セストノ方針確定シ居ルニ付王部長カ貴下ニ面会サルルモ右ト異レル回答ハ出来サルヘシ又貴官ト王正廷トノ済南事件ニ関スル話合ヲ全然廃棄シタリト云フモ支那側トシテハ日本政府カ何人ヲシテ交渉ノ局ニ當ラシムトモ結局貴下ト王部長間ニ進メラレタル趣旨ヲ以テスルヨリ外ナカルヘシ即チアノ交換公文ニ期日ヲ記入サルルニ於テハ即日解決出来ル次第ナリト述ヘタルヲ以テ本官夫レハ不可能ナリト一蹴シタル後兎ニ角貴下ヨリ王部長ニ電報シ上海ニ於ケル会見ニ関シ打合セヲ遂ケ置カレ度シト依頼シ置ケリ

319 昭和4年1月11日 在上海矢田総領事より
田中外務大臣宛（電報）

王外交部長が済南事件解決交渉代表に矢田を
希望並びに撤兵時期明示を交渉再開の条件と
しない旨表明について

第三〇号

上海 1月11日後発
本省 1月12日前着

往電第二八号ニ関シ

王正廷約ニ從ヒ崔士傑同伴十一日午後四時本官ヲ来訪セルニ付本官ハ貴電第七号ノ趣意ヲ詳細説明シ草野ヲシテ通訊セシメタル処王ハ神妙ナル態度ニテ最後迄聞終リタル後口ヲ開キ一日午后ノ会見ハ大阪毎日ノ記事ニ刺戟セラレ一杯機嫌ニテ気焰ヲ吐キタルモノナレハ余リ追究セラレサル様希望ス田中首相ハ自分ニ誤解アリト言ハルルモ自分カ誤解セリト云ハルル事コソ田中首相ノ誤解ナリ併シ自分ハ討論ヲ好マサルヲ以テ各一々ノ点ニ付何等申上グル事ハ差控フヘシ但シ周龍光ノ岡本ニ為シタル談話中貴下ト自分トノ話合成立シ右ニ對シ日本政府ノ反対ノ意思表示ナキヲ以テ異存ナキモノト認メ居ル云々ハ自分ノ諒解セル処ト異ナル自分ハ最后ノ会見ニ於テ濟南事件ニ関スル從來ノ一切ノ話合ヲ一掃（タイプアウト）シタルコトヲ承知シ居レリ又迎賓館ニ於ケル貴下トノ会見モ記憶シ居レリ但シ若シ貴下ト再ヒ濟南事件ヲ討論スルナラハ相手方カ変ラサル以上

明示ニ付テハ崔ヨリ申入レタルカ如キ形式ニテ協定シ置キ直ニ濟南事件交渉ノ會議ヲ開キ双方委員ノ意見一致セル適当ノ時期ヲ選ヒ右交換公文ヲ發表スルコトスルカ若ハ先ツ交渉ヲ開始シテ兩者会合ノ第一ノ議題トシテ撤兵ノ時期、方法ヲ議定シ然ル後賠償等ノ交渉ニ移ル案ハ如何ト述ヘタルニ付右ハ孰レノ案ニ依ルモ撤兵時期明示ヲ前提トスルモノニシテ貴方從來ノ主張ト異ナル処ナキニ非サヤト述ヘタル処

王ハ併シ日本政府ニ於テ真ニ撤兵ノ意アリトセハ右方法ニ依ルモ何等差支ナキニ非サヤトテ「ライン」ニ於ケル仏軍ノ例ヲ引用シ若シ日本政府カ濟南事件解決セサレハ撤兵セストノ方針ヲ飽迄固執セラルルナラハ右事實ヲ全世界ニ発表シテ差支ナキヤ大臣ニ問合セテ請フトテ稍興奮ノ体ナリシニ依リ本官ハ輕ク受流シテ話頭ヲ転シ自分ハ友人トシテ忠告シ度キ事アリ濟南事件ニ引懸ケ同時ニ交渉ヲ開始セル他ノ懸案ノ解決ヲ差止メタルハ尚恕スヘシトスルモ何等之ト關係ナキ新稅率實施協定ニ付宋財政部長ト自分トノ間ニ協定済ノ案件ヲ横合ヨリ奪ヒ去リ其行ヲ差止メテ日本政府ヲ焦ラストハ何事ゾヤト詰問セル処王ハ色ヲ作シテ自分ハ

從來ノ話合ヲ排除スル必要モ無ク又右ト全然異リタル討論ヲ為スコトモ出来サレハ其ノ場合ハ自然或ハ話合ハ復活サセテ然ルヘキモノト思ヒ居タリ尤モ其ノ点モ只今ノ貴下ノ説明ニ依リ明瞭トナレリ乍併全然新シキ事件トシテ濟南事件ノ交渉ニ応スル事ニハ異存ナキモ日本政府ハ何ノ必要アリテ斯ル措置ヲ執ラルルヤ事件ハ同一ナリ兩國政府ノ要求希望モ同様ナリトスレハ何人ヲ其ノ局ニ当ラシムルモ自分ト貴下トノ間ニ進メタル解決方法ヲ逸脱シ得ル筈ナキニ非サヤ而モ此ノ方法ハ世界ニ示シテ恥サル最モ妥当ナルモノナルニ於テオヤ

此ノ点ハ田中總理ニ好ク徹底セシメラルル様願度シ又交渉ノ相手方ニ付テハ自分ハ日本政府カ速ニ且容易ニ本件解決ヲ欲スルナラハ貴下ヲ全權委員ニ任命スル外ナシト信ス尚此ノ点ハ座談的ニ申上ケタルニテハ貴下ニ於テ取次キ難カルヘキニ付改メテ申スヘントテ容ヲ改メテ英語ニテ「本外交部長ハ國民政府ノ名ニ於テ濟南事件ヲ急速且公正ニ解決スル為矢田總領事ヲ全權委員ニ任命セムコトヲ切望ス」ト述ヘ右ハ我方ノ条件トシテ提出致シタキモ条件トシテハ不穩当ナルヘケレハ希望事項トセル次第ナリ次ニ撤兵時期ノ

断ジテ差止メ（ウイズホールド）タル覺ナシ内部ニ於テハ著々其ノ手續ヲ了シツツアリト言放チタルヲ以テ本官ハ現ニ今日迄公文交換ヲ實行セサルニ非サヤト突込ミタルニ草野モ口ヲ揃ヘ一日ニハ關稅問題ノ如キハ小問題ナレハ撤兵時期ヲ明示セサレハ公文交換ヲ為サスト數回明瞭ニ述ヘタルニ非サヤト詰リタルニ王ハ右様ノ意味ヲ述ヘタルコトアルハ記憶シ居ルモ撤兵時期ノ明示ヲ以テ問題解決ノ条件トストノ意味ニ非スト意外ノ言ヲ為シタルニ付茲ニ双方ノ押問答トナリタルカ本官ハ好機逸スヘカラスト存シ兩人ヲ宥ムルト共ニ王ニ向ヒ果シテ貴下ノ言ノ如クナラハ明日ニテモ本官ノ許ニ公文ヲ送達セラルレハ可ナラスヤト迫リタル処王ハ明日ハ事實上問ニ合ハサルモ兩三日中ニハ必ス取計フヘシト明言シタリ依テ本官ハ執拗ニ駄目ヲ押シタル処王ハ名譽ニ懸ケテモ食言セスト威丈高トナリ豪語シタルニ付本官ヨリ其ノ旨直ニ政府ニ電報スヘキ旨ヲ告ケ直ニ「シヤンパン」ヲ取寄せ王モ先ツ一案件解決セリトテ杯ヲ舉ケテ乾杯セリ

320 昭和4年1月12日

田中外務大臣より
在上海矢田總領事宛（電報）

芳澤公使北京帰任の途次上海にて濟南事件交渉にあたる旨王外交部長へ通告方訓令

本省 1月12日後6時50分發
第三号

貴電第三〇号ニ関シ

一時停頓ノ状況ニ在リタル日支交渉ヲ貴官ノ御努力ニ依リ再開ノ緒ニ就カシメ関税問題ニ付テハ兩三日中ニ公文ヲ發送スルコトヲ承諾セシムル迄ニ漕付ケラレタルハ同慶トスル処ナリ就テハ此ノ際取急キ濟南事件等ノ交渉ヲ進ムル要アル処芳澤公使北京帰任ノ途次実状視察旁々堀内書記官帶同本月十七日神戸發上海丸ニテ貴地ニ赴クコトナリタルニ付テハ其ノ際濟南事件等日支懸案ノ解決ニ付王正廷隔意無キ意見ノ交換ヲ遂ケシメ度ニ付右御含ノ上王正廷ニ対シテモ此ノ旨ヲ告ケ公使ノ出張ヲ機會ニ虚心坦懷一切ノ懸案ヲ解決スル様豫メ篤ト申入レ置カレ度シ

事ヲ注意（「レマインド」）サレタシ」ト皮肉ヲ述ヘ

次ニ本官ニ対シ芳澤公使ハ如何ナル条件ヲ以テ来ラルルヤト反問セルニ付本官ハ濟南事件ニ関スル限りハ貴下ト本官トノ交渉ハ全部取消サレタル上芳澤公使ノ齎スヘキ訓令ナルモノカ如何ナルモノナリヤ本官ハ何等関知スル処ナシト答ヘタルニ王ハ更ニ芳澤公使ノ来寧カ懸案ヲ解決スルモノト思フヤト質問セルニ付本官ハ透サス夫ハ本官カ貴下ニ問ハムト欲スル処ナリト応セリ王ハ然ラハ日本政府ニ伝ヘラレタシ芳澤公使ハ日本ノ代表者ナレハ南京ヲ訪問サルレハ自分ハ外交部長トシテ会见スヘシ（I will see him）ト言ヒタルヲ以テ本官ハ夫レニテハ返事ニナラザルニ非スヤト注意セルニ王ハ夫レ以上何モ言フ事ナシト打切りタルニ付本官ハ誤解ヲ避クル為只今貴下カ述ヘタル事ヲ「ノー」ト「ニトリテ与ヘラレタシト言ヘル処之ヲ承諾シ前記ノ趣旨ヲ英語ニテ紙片ニ認メ本官ニ手交セリ

322 昭和4年1月15日

田中外務大臣より
在上海矢田總領事宛（電報）

芳澤公使による濟南事件解決交渉の援助方訓令

321 昭和4年1月14日

在上海矢田總領事より
田中外務大臣宛（電報）

南京において外交部長として芳澤公使と会見する旨の王正廷の言明について

上海 1月14日後發
本省 1月14日後着
第三九号

貴電第一三三号ニ関シ

十四日午後四時草野帶同王部長ヲ外交部駐滬弁事処ニ往訪シ貴電御訓令ノ趣意ヲ篤ト説明シタル処王ハ果シテ芳澤公使カ当地ニ来ル事カ実現スルヤ疑ナキ能ハスト述ヘタルニ付右間違ナキ旨念ヲ押シタルニ王ハ何日頃出發スヘキヤト質問セルニ付十六日東京發十九日頃上海着ノ豫定ナル旨ヲ告ケタルニ王ハ今日ハ十四日ナリト独語シタルノミニテ何モ言ハサルヲ以テ東京へ報告ノ都合アルニ付右ニ対スル貴下ノ意嚮ヲ伺度シト催促シタル処王ハ沈思ノ後英語ニテ「自分ハ何時ニテモ如何ナル日本政府派遣ノ代表ニ対シテモ懸案解決ノ交渉ニ応スル用意アルコトヲ伝ヘラレ同時ニ支那ノ首府ハ北京ニモアラス上海ニモアラス実ニ南京ナル

第一九号

本省 1月15日後5時30分發

貴電第三四号末段ニ関シ

芳澤公使貴地方面ニ立寄ルコトナリタルニ付在支公使タル資格上当然濟南事件其他ノ懸案ニ付交渉ヲ行フコトナリタル儀ナルガ從來ノ経緯ヲ熟知セル貴官ニ於テ公使ノ交渉ヲ補助セラルルコトハ同公使ハ勿論当方ノ一方ナラス便トスルトコロナルノミナラス王正廷ノ希望ニモ副フ所以ト思考スルニ付貴官ハ引続キ公使ヲ援助シテ諸懸案殊ニ濟南事件ノ円満解決ヲ期セラルル様充分御尽力アリ度王正廷ニモ右ノ趣可然伝ヘ置カレ度シ尚貴館々務ニ甚シキ差支無キ限り貴館々員ヲシテ隨時援助セシメラレ度シ

323 昭和4年1月16日

田中外務大臣より
在上海矢田總領事宛（電報）

芳澤公使南京行の予定について

付記一 一月十三日省議決定

懸案交渉方針腹案

二 一月十六日

芳澤公使携帶の濟南事件交渉方針

三 一月十六日付

芳澤公使・南參謀次長會談要旨

四 一月二十一日

田代大佐來談要旨

本省 1月16日後4時20分發

第二三號

往電第一三三號ニ関シ

芳澤公使ハ貴地着後兩三日中ニ南京ニ赴キ外交部長其他要路ヲ訪問スル豫定ナリ御含置アリ度シ

（付記一）

一月十三日省議決定

昭和四年一月十二日稿

懸案交渉方針腹案

第一、先ツ濟南事件解決案全般ニ亘ル豫備的論議ヲ試ミ日本側要求ノ極テ穩當寛容ナルモノナルコトヲ先方ニ諒解セシムル様努ムルコト

第二、濟南事件ノ解決条件ハ左ノ通りトス

キコト）

三、将来ノ保障

國民政府ハ山東在留日本人ノ生命財産ニ関シ完全ニ保護ノ責ニ任ジ右ノ主旨ニ基キ地方官憲ニ対シ適當ナル命令ヲ発スヘキ旨ヲ約スル文書ヲ日本政府ニ送致スルコト而シテ國民政府ハ右命令ヲ即時発令ノ上其ノ旨日本側ニ通知スルコト

四、撤兵

日本政府ハ此上ノ諸条件ヲ含ム協定調印セラレタル上ハ日本政府カ前顯國民政府ノ遺憾表示ノ文書、共同調査支那側委員任命ノ通知並将来ノ保障ニ関スル文書ノ凡テヲ接受シタル時ヨリ起算シ向フ一ヶ月以内ニ日本軍隊ヲ山東ヨリ撤退スヘキ旨ヲ声明スルコト但シ撤兵直後ノ治安維持ニ関シテハ日支専門委員ヲシテ別ニ之ヲ協定セシムルモノトス

五、山東鐵道交通確保並同鐵道整理ノ為日支共同ノ委員會ヲ設ケテ研究措置セシムルコト（但シ已ムヲ得サレハ本件解決ト切り離シテ差支無キモ本件解決ノ機會ニ委員會設置ノコトハ之レヲ確定シ置クコトヲ要ス）

一、陳謝

國民政府ハ濟南事件ノ如キ不幸ナル出来事ノ發生ヲ遺憾トスルモノナル旨ヲ述ヘタル文書ヲ日本政府ニ送致スルコト

若シ支那側ニ於テ相互的提案ヲ為ス等非常ニ強硬ナル態度ヲ示シ他ノ条件ノ協定ヲモ困難ナラシムルカ如キ場合ニハ日本政府ハ濟南事件發生ノ際日本軍隊ノ執リタル措置ハ在留日本人ノ生命財産ノ保護ノ為必要已ムヲ得サリシモノナルコトヲ確信スルモ當時ノ状況上斯ル措置ニ出ツルノ已ムヲ得サリシ事実ニ付テハ残念ニ思考スル旨ヲ記載セル文書ヲ國民政府ニ送致スルコト

二、処罰及賠償

濟南事件關係支那軍隊幹部及加害者ノ処罰ノ問題並同事件ニ依リ蒙リタル日支双方ノ損害賠償ノ問題ハ日支人同数ヨリ成ル共同委員ヲシテ調査セシメタル上之ヲ解決スルコト（但シ論議ノ模様ニ依リテハ右調査ノ結果ハ事実ノ認定困難ナリトノ理由ニテ処罰ニ関シテハ既ニ發表済ノ賀耀祖ノ罷免ヲ以テ満足スルコトトシ又賠償ニ関シテハ彼我双方ノ損害ヲ帳消トナスモ差支ナ

第三、条約改訂問題ニ関シテハ矢田、王間ニ既ニ大体協議

済ミナル案ニ依ル文書交換ニヨリ改訂交渉ヲ開始スルコト但シ右交渉ニハ差当リ関稅自主權承認ト互惠稅率協定方ヲ約セシムルコトニ止メ治外法權其ノ他ノ問題ニ関シテハ他日可成早キ機會ニ於テ交渉ヲ開始スヘキ旨ヲ約スルコト

第四、成ルヘク南京事件及漢口事件ヲ同時ニ解決スルコト（備考）

右一月十三日省議決定ノ「懸案交渉方針腹案」ハ同日大臣ノ決裁ヲ經タル外務省案ニシテ其ノ後芳澤公使ノ意見ヲ參酌シ陸軍トモ協議ノ上右案ニ多少ノ修正ヲ加ヘ別紙「懸案交渉方針」トシ一月十六日芳澤公使ニ交付セリ

（別紙）

昭和四年一月十六日

芳澤公使

一、濟南事件解決方針中豫備的論議ノ模様ニヨリ交渉進行中先ツ濟南城內ノ日本軍隊ヲ撤退シ且濟南青島及鐵道沿線二十支里以内ニ國民政府行政機關ヲ入ルコトニ同意

スルノ件ハ一月十三日省議決定ノ際一応削除セラレタルモ芳澤公使ニ於テ支那側ト折衝ノ結果右ノ案ヲ実行スルコト交渉ヲ纏ムル上ニ極メテ有利ナリトノ見込ヲ得タル場合ニハ改メテ請訓ニ対シテハ本省幹部ニ於テ之ヲ承認スルコトニ極力努力スヘキ旨ノ諒解アリタリ

（付記二）

懸案交渉方針

一月十六日出発上海ニ赴キタル芳澤公使携帯ノモノ

第一、済南事件ノ解決条件ハ左ノ通りトス

一、陳謝

国民政府ハ其ノ軍隊ノ日本人ニ加ヘタル虐殺暴行掠奪（虐殺暴行掠奪ノ辞句ハ残虐行為又ハ其ノ他ノ辞句ニ換フルモ差支ナシ）ニ付キ帝國政府ニ対シ遺憾ノ意ヲ表スル文書ヲ日本政府ニ送致スルコト

若シ支那側ニ於テ相互の提案ヲ為ス等非常ニ強硬ナル態度ヲ示シ他ノ条件ノ協定ヲモ困難ナラシムルカ如キ場合ニハ日本政府ハ済南事件発生ノ際日本軍隊ノ執リタル措置ハ在留日本人ノ生命財産ノ保護ノ為必要已ムヲ得サリ

シ所ナルモ當時ノ状況上斯ル措置ニ出ツルノ已ムヲ得サリシコトヲ残念ニ思考スル旨ヲ記載セル文書ヲ国民政府ニ送致スルコト

二、処罰及賠償

(イ) 済南事件關係支那軍隊幹部及加害者ノ処罰ヲ要求スルコト

(ロ) 済南事件ニヨリ蒙リタル日支双方ノ損害賠償ノ問題ハ日支人同数ヨリ成ル共同委員ヲシテ調査セシメタル上之ヲ解決スルコト

但シ論議ノ模様ニヨリテハ処罰ニ関シテハ既ニ発表済ミノ賀耀祖ノ罷免ヲ以テ満足スルコトトシ又賠償ニ関シテハ彼我双方ノ損害ヲ帳消シト為スモ差支ヘナシ

三、将来ノ保障

国民政府ハ在留日本人ノ生命財産ニ関シ完全ニ保護ノ責ニ任スルコト並ニ排日宣伝ノ嚴重ナル取締方ヲ地方官憲ニ命令スヘキ旨ヲ声明スルカ又ハ文書ヲ以テ日本政府ニ通牒スルコト

四、撤兵

以上ノ諸条件ヲ含ム協定調定調印セラレタル上ハ前頭國

（付記三）

昭和四年一月十六日

芳澤公使

* 済南事件解決方針ニ関シ一月十五日芳澤公使、南參謀次長間懇談ノ結果左ノ通りノ了解アリタリ

(一) 撤兵ニ関シテハ陸軍側ノ意見タリシ撤兵着手前ニ一定期間国民政府行政機關ノ治安維持ニ関スル実績ヲ見ルコトトスル案ニ同意スルコト

(二) 撤兵ノ際日本軍ニ於テ支那側ニ対シ充分好感ヲ示シテ引上クル様軍部ヨリ出先軍憲ヘ特ニ訓令スルコト

(三) 済南事件交渉ノ模様ニヨリ交渉ノ途中ニ於テ済南城內ノ軍隊ヲ先ツ商埠地ニ引揚クルノ案ニ関シテハ芳澤公使ヨリ請訓スル場合ニハ右ハ我軍ノ都合上ヨリスル撤兵準備ノ行動ニ過キストノ了解ナラハ軍部ニ於テ異議ヲ挾マサルヘク出先軍憲ヘモ其ノ趣旨ニヨリ訓令スヘキコト

（付記四）

* 昭和四年一月二十一日參謀本部田代大佐並一課中山ヲ來訪シ

第二、条約改訂問題ニ関シテハ矢田、王間ニ既ニ大体協議済ミナル案ニ依ル文書交換ニヨリ改訂交渉ヲ開始スルコト但シ右交渉ニハ差当リ関稅自主權承認ト互惠稅協定方ヲ約セシムルコトニ止メ治外法權其ノ他ノ問題ニ関シテハ他日可成早キ機會ニ於テ交渉ヲ開始スヘキ旨ヲ約スルコト

第三、南京事件及漢口事件ヲ成ルヘク同時ニ解決スルコト第四、国民党部ノ指導ニ基ク反日行動取締ニ関シ即時有効ナル措置ヲ執ラシムル様交渉スルコト

先般ノ芳澤公使ノ持参シタル訓令ニ関シ参謀本部内ニ軍ノ
統帥權トノ關係ニ就キ議論アリ其ノ趣旨ハ
一、撤兵ハ御允裁ヲ経ル必要アルニ付芳澤公使ニ於テ先般
ノ訓令ニ基キ直チニ調印ヲ了セラレテハ困ルコト
二、二ヶ月以内ニ撤兵スヘシ等期間ヲ明示スルコトハ御允
裁ヲ得ル迄ハ軍ノ統帥權ニ關係スルヲ以テ交渉中芳沢公
使ヨリハ勿論支那側ヨリモ外部ニ発表セシメサルコトヲ
要スルコト

ノ議ナリ

右ニ対シ中山ヨリ

(一)ノ点ハ芳澤公使ノ持参シタルハ正式訓令ト云フ性質ノモ
ノニアラス政府ノ腹ヲ示シタルモノナルヲ以テ其ノ方針
ニテ交渉シ其ノ趣旨ニ合致シタル交渉成立ノ見込アル場
合ニ同公使ヨリ政府ニ請訓シ来ルヘク政府トシテハ其ノ
上ニテ必要ノ手續ヲ採ル餘裕充分アリト思考ス

(二)ニ付テハ陸軍ニ於テ必要ト考ヘラルナラハ為念芳澤公
使ノ注意ヲ喚起スル為電報スルモ可ナルヘシ何レニスル
モ(一)トモ上局ニ経伺スヘシト答ヘ置ケリ

尚此会談芳沢公使ト連絡ヲ取り且撤兵期ニ支那側トノ交替

二、漢口事件ニ付テハ十一日貴下、王部長トノ会見後王部
長ハ上海ニ於テ直ニ漢口交渉員ヘ貴下トノ話合ノ趣旨ヲ
打電セリ漢口事件ノ発展ハ王部長ノ最憂慮シ居ル処ナリ
三、差等税率問題ニ関スル公文發送ニ付テモ之ハ極秘ニ願
度キカ内情ヲ申セハ芳沢公使来寧ノ上日本政府ノ出方ヲ
見定メタル上ニスヘシト議論アリタルモ王部長力貴下ノ
面子ヲ立テル上ヨリ急速解決發送セサルヘカラスト主張
シ英文秘密協定迄嚙吞ニシテ署名セル次第(脱)言ヲ挾
ミテ債務整理ニ関スル公文案ニ付上村等ノ南京行ヲ説明
シ日本政府ノ修正意見ニ王部長同意スルヤ否ヤノ見込ヲ
聞キタルニ崔ハ王部長ノ腹カ一意貴下ノ面子ヲ立テント
スルニアル故同意スヘシト樂觀セリ

325

昭和4年1月(21)日

在上海矢田総領事より
田中外務大臣宛(電報)

山東撤兵期日明示を条件として在留邦人保護

手段を講じる旨の王外交部長声明について

別電 一月二十一日発在上海矢田総領事より田中外

務大臣宛第七四号

等ヲ円滑ナラシムル為メ第三師団及参謀本部ヨリ上海ニ派
員方ニ付テモ話アリタリ

324

昭和4年1月(21)日

在上海矢田総領事より
田中外務大臣宛(電報)

王外交部長が漢口事件解決交渉に憂慮の旨崔

士傑の談話について

上海

発

本省 1月21日後着

*
第七二号

二十一日早朝崔士傑本官ヲ官邸ニ来訪シ芳沢公使ノ齎セル
訓令ノ内容ニ付質問セルニ付未タ公使ト悠々会见スル機
会モ無ク何等知ル処無キ旨ヲ述ヘ置キタルカ其ノ際崔ノ語
ル要点次ノ如シ

一、芳沢公使ニハ未タ面会セサルモ若シ済南方面ノ実情ヲ
知リタシトノ御希望ナラハ伺ヒテ御話シテモ宜シ自分ハ
去ル八月ヨリ上海ニ滞在シ居レルモ王部長ヨリ芳沢公使
接待云云ノ来電ハ接手セス從テ此ノ方ヨリ進ンテ訪問ス
ル意思無シ

王外交部長声明

上海

発

本省 1月21日後着

*
第七三号

南京十九日発路透電ニ依レハ王外交部長ハ日本カ山東ノ撤
兵ヲ明示スレハ直チニ山東在留日本人ノ保護ニ関シ特別手
段ヲ執ルヘキ旨別電第七四号ノ通 official statement ヲ出
シタル趣ナリ

(別電)

Shanghai,

Rec'd Jan. 21st. p. m. 1929.

Gaimudajin, Tokio.

No. 74.

The National Government has consistently
maintained a policy of protection of foreign lives and
property in China. In carrying out its policy the Govern-
ment has spared no effort in seeing to it that adequate
and effective protection is given to all foreign lives and

property, without discrimination, anywhere in China.

In order to dissipate apprehensions on the part of the Japanese, the National Government will exercise particular caution and provide special measures for further ensuring protection to Japanese lives and property in Shantung as soon as the Japanese Government has expressed its readiness actually to withdraw the Japanese troops from there.

~~~~~  
Yada.

326 昭和4年1月22日

在上海矢田總領事より  
田中外務大臣宛(電報)

芳澤公使二十三日南京行の予定について

上海 1月22日後発  
本省 1月23日前着

\*  
第八五号

芳澤公使ヨリ

本使十九日着滬以来各方面ノ人士ト接触シ且ツ裏面的方法ニ依リ支那側ノ態度ヲ観測スルト共ニ彼我ノ意見疏通ニ努

327 昭和4年1月25日

在南京岡本領事より  
田中外務大臣宛(電報)

芳澤公使より王外交部長と会談、濟南事件交渉開始を決定かつ蔣主席と会見の状況報告

南京 1月25日前発  
本省 1月25日後着

\*  
第七〇号

芳澤公使ヨリ

往電第六二号ニ関シ

二十四日午后二時堀内、有野、上村及岡本ヲ從ヘ約ノ如ク王正廷ヲ其ノ官邸ニ訪問シタル処王ハ周龍光及崔士傑ト共ニ極メテ打解ケタル態度ニテ本使ヲ迎ヘタリ席定マルヤ本使ヨリ口ヲ開キ先ツ王ノ最近ニ於ケル外交上ノ成功ヲ祝シ一応ノ挨拶ヲ交換シタル後貴下ハ新聞記者ニ対シテ矢田總領事ニ対シテ迄本使トノ交渉ヲ忌避スルカ如キ口吻ヲ洩シタリトノコトヲ聞キ甚タ意外ニ思ヒ居タリト語リタル処王ハ決シテ左様ノ意味ニハ非ス実ハ切ニ貴公使ノ来寧ヲ待チ居タル次第ナリト弁解シタルヲ以テ本使モ話頭ヲ転シ抑モ今回ノ来寧ハ日本政府力不幸ナル日支間懸案ヲ解決セシメ

メ来レルカ種々ノ情報ヲ綜合スルニ国民政府当局ニ於テ本使ニ対シ相當ノ礼遇ヲ為スヘキ事ニ付テハ大体懸念ナキヤニ思ハルヲ以テ此ノ上ハ直接蔣介石、王正廷等ト会見シ先ツ一般的論議ヲ試ミ交渉ノ端緒ヲ開ク方可ナリト存シ南京宛往電第九五号ノ通明二十三日朝当地発赴寧スルコトシタル次第ナリ尚本使着滬以来支那側ヨリ種々ノ人物來訪シ日本側ノ態度ニ付探リヲ入レ居タルカ今二十二日午前張群午后崔士傑來訪セルニ依リ右兩人ニ対シ從來王正廷カ本使トノ交渉ヲ忌避スルカ如キ口吻ヲ屢漏ラシタル由ナルカ新聞記者ニ対スル談話ハ事實ナラサル場合アルヘキモ責任アル我總領事ニ対シ右様ノ言辞ヲ弄シタルコトハ甚タ不都合ナル旨ヲ述ヘ右蔣介石及王正廷ニ夫々伝達方依頼シ置キタリ右ハ蔣、王等ニ会見前交渉ヲ有利ニ導カントノ見地ニ出テタル次第ナリ

尚崔ハ会谈中例ニ依リ頻リニ撤兵問題ノ先決ト膠濟鐵道沿線地方ニ速ニ国民政府行政機關ヲ入ルルノ必要トヲ反覆力説シ居タリ又同人ハ王部長ヨリ当地ニテ本使接待ノ内命ヲ受ケ居リ明日赴寧ノ際同行スヘキ旨ヲ話レリ

~~~~~

ンカ為特ニ自分ヲ派遣シタル次第ナルヲ以テ互ニ誠意ヲ披瀝シ日支關係ヲ常道ニ引戻スコト刻下ノ急務ナリト思考スル旨ヲ述ヘタルニ王モ全然同感ニシテ速ニ国交ノ円滑ヲ計ルコトハ自分ノ最モ希望スル処ナリト答ヘタリ

依テ本使ハ懸案解決ノ為ニハ自分ノ主張ノミヲ固執セス相手方ノ主張ニモ好意ヲ以テ耳ヲ藉スノ雅量ヲ示ス要アル旨ヲ説キタル上交渉地点ノ問題ニ言及シ南京ニテハ新聞記者ニモ五月蠅ク附キ纏ハレ局外者ニ能ク妨害セラルル懼アリ寧ロ上海ノ方好都合ナルヤニ聞キ居リ矢田總領事ニ対シテモ上海ヲ交渉地トスルコトニ同意セラレタル様承知スト述ヘタル王ハ別ニ異議ナキモ政務ノ都合上永ク上海ニ滞在スルヲ得サルニ付其ノ点御諒解置アリタク只交渉ノ最初ト終リトハ南京ニテ致ス様シタシトノコトナリシニ依リ同意シ自分ハ既ニ上海ニ於テ一戸ヲ借受ケ居ルヲ以テ如何程永ク滞在スルモ差支ナキニ付随時上海南京間ヲ往復シ交渉スルコトト致スヘシト述ヘ交渉ノ用語ハ双方自國語ヲ使用スルコトニ話合ヒ兎モ角第一回ノ商議ハ明二十五日午前十時ヨリ外交部長官邸ニ於テ開催スルコトニ取極メタルカ時既ニ三時トナリタルニ依リ王ハ本使ヲ其ノ自動車ニ招シ一行ヲ

国民軍總司令部ニアル蔣介石ノ下ニ案内セリ
依テ本使ハ蔣ニ対シテモ王ニ対スルと同様日本政府ハ日支
両国間ニ蟠ル不幸ナル懸案解決ノ為特ニ自分ヲ派遣シタル
次第ヲ述ヘ此ノ点ニ付テハ既ニ王部長トモ打合スル所アリ
タルカ解決ヲ要スヘキ懸案中最モ重大ナルハ濟南事件及条
約問題ナルカ幸是等諸懸案解決ノ上ハ更ニ爾余ノ問題ニモ
及フ積リナルニ付貴主席ニ於テモ交渉ノ進行ニ御配慮ヲ請
フト語ヲ結ヒタルニ蔣モ自分ハ貴公使ノ御意見ニ全然同感
ニテ此ノ際諸懸案ヲ一掃シ親善關係ヲ樹立セン事ヲ希望シ
居レリト応シタリ依テ本使ハ態ト王正廷ヲ前ニシテ曩ニ王
部長ニモ述ヘタル通り自分ハ懸案交渉ニ当リテハ貴方ノ主
張ト雖モ道理アル点ニ付テハ傾聴スルニ吝ナラサルヲ以テ
貴方ニ於テモ自説ヲ固持スルコト無ク常ニ妥協的態度ヲ以
テ臨ミ一意解決ニ努メラレン事ヲ希望スト念ヲ押シタルニ
蔣ハ自分モ全然同意ナリト答ヘタルニ依リ本日ハ之以上深
入スルヲ避ケ種々閑談ヲ交ヘ總領事館（^{南京}）辭去セリ

328 昭和4年1月24日 在南京岡本領事より
田中外務大臣宛（電報）

ノ治安維持ノ為ニ支那警察隊ヲ入ルコトハ当然必要ノ措
置ニシテ然モ城内ニ警察隊ヲ入レ依然日本軍隊ヲモ駐屯シ
置ク事ハ却テ事端ヲ惹起セシムルノ懼アルヲ以テ日本軍隊
ヲ城内ヨリ商埠地ニ移スノ必要アルヘシトノ意見ヲ附言シ
居タリ

329 昭和4年1月25日 在南京岡本領事より
田中外務大臣宛（電報）

濟南事件解決交渉第一回会談に関する芳澤公
使報告

南京 1月25日後発
本省 1月26日前着

*第七二号
芳澤公使ヨリ
往電第七〇号ニ関シ

約ノ如ク二十五日午前十時外交部長官邸ニ於テ第一回会見
ヲ為ス我方ハ本使ノ外堀内、上村及有野、先方ハ王正廷ノ
外周龍光及崔士傑出席ス
席定マルヤ王ヨリ口ヲ切り今日迄ノ交渉ノ経過ハ既ニ矢田

濟南・青島への国民政府行政機関受け入れと
日本軍の商埠地への移動につき芳澤公使より
意見具申

南京 1月24日後発
本省 1月25日後着

*第七一号
芳澤公使ヨリ

本使東京出發ニ先立ち懸案交渉方針ニ関シ（^省）商議決定ノ際濟
南、青島及鉄道沿線二十支里以内ニ国民政府行政機関ヲ入
レ濟南城內ノ日本軍隊ヲ商埠地ニ移スノ案ハ一時見合セト
ナリタル処今後交渉進行ニ連レ撤兵問題ニ關聯シ右案ノ実
行モ問題トナルヤニ豫想セラル然ルニ過日上海ニ於テ濟南
特務機關主任佐藤大佐ハ現地ノ状況ヨリ見テ此ノ際右案ヲ
実行シ豫メ国民政府官憲トノ接觸ヲ保チ置ク方撤兵後ノ治
安維持上却テ都合ニシテ且支那側ノ要求ニ応シテ実行ス
ルヨリハ我方ヨリ自発的ニ之ヲ行フ体裁トスル方適當ナル
ヘシトノ意見ヲ述ヘタル次第モアリ旁此ノ際本省ニ於カレ
テモ豫メ右方針御決定置キ相成様致度

尚佐藤大佐ハ濟南ニ支那側行政機関ヲ入ルル以上濟南城內

總領事ヨリ御聴取ノコトト存スト述ヘタルヲ以テ大体ノコ
トハ承知シ居レリト答ヘタルニ然ラハ先ツ自分ト矢田總領
事トノ間ニ談合ヲ遂ケタル事項ニ対スル貴公使ノ御意見ヲ
伺ヒタシト切出シタリ依テ本使ハ客年十月以来貴下ト矢田
總領事トノ間ニハ諸種懸案ニ關スル意見ノ交換アリタルカ
其ノ内濟南事件ニ關スル談合ハ日本政府ノ訓令以上ニ亘リ
タル節アリタル為メ政府ハ同總領事ヲシテ右談合ヲ全部取
消サシメ全然白紙ノ状態ニ在リ就テハ先ツ濟南問題ヨリ討
議ヲ開始スル方適當ナルヘシト述ヘタル処王モ全然同意ナ
リト答ヘタルニ依リ

本使ハ更ニ語ヲ次キ抑濟南事件ハ日支国交ノ大局ニ顧ミ誠
ニ不幸ナル出来事ナリ速ニ之カ解決ヲ計ルノ必要アル事申
ス迄モナシ依テ今回ハ腹藏ナキ意見ノ交換ヲ行ヒ互ニ自説
ヲ固執セス道理アルモノハ耳ヲ藉シ互讓妥協ノ精神ヲ以テ
虚心坦懷ニ一意解決ヲ計ル事ト致シタシトテ先ツ王ノ注意
ヲ喚起シ置キ次ニ王部長ハ矢田總領事ニ対シ撤兵時期ノ明
示ヲ迫リ之無クハ爾餘懸案ノ論議ニ入ラスト云フカ如キ暴
論ヲ吐キタルカ帝國政府ニ於テハ濟南事件ニ關シテハ将来
ニ問題ヲ残ス事ナク本件全体ヲ一併解決セントスル意嚮ニ

シテ今般自分ノ出發ニ當リテモ政府ニ於テハ右方針ヲ更ニ確定シタル次第ナリ他方支那側カ撤兵時期ノ明示ヲ要求スルハ日本ニ撤兵ノ決意アリヤ否ニ付キ疑ヲ抱ク為ナルヘキ所我方ハ茲ニ一定ノ條件ヲ提出シ右條件ニ関スル協定成立シタル上ハ撤兵ヲ断行ストノ意嚮ナルヲ以テ帝國政府ノ撤兵ニ関スル貴方ノ不安ヲ一掃スルニ足ルヘシ

然ラハ一定ノ條件トハ如何

第一ハ國民政府カ其ノ軍隊ノ日本人ニ加ヘタル掠奪其ノ他ノ残虐行為ニ付帝國政府ニ對シ遺憾ノ意ヲ表スルコトナリ

第二ハ濟南事件關係支那軍隊幹部及加害者ノ処罰ヲ実行スルコトナリ

第三ハ日本人ノ損害ニ付テハ日支兩國ヨリ協同委員^{（共カ）}ヲ出シ調査解決セシムル事ナリ

第四ハ國民政府ハ在留日本人ノ生命財産ニ関シ完全ニ保護ノ責ニ任スル事並ニ排日宣伝ノ嚴重ナル取締ヲ地方官憲ニ命スヘキ旨聲明シ右ノ趣日本政府ニ通知スルコトナリ

第五ハ在留日本人ノ保護ヲ一層確實ニ保障スル為山東鐵道交通確保ノ為日支協同^{（共カ）}ノ委員會ヲ設ケテ研究措置セシムルコトナリ

ニ至レハ撤兵スヘキハ當然ノ筋合ニシテ我方ニ此ノ決心アルコトハ既ニ説明シタル処ニ依リ充分諒解セラレタリト思考スト述ヘタルニ王ハ終始傾聴シ居リタルカ聽テ口ヲ開キ貴公使カ本件ヲ速ニ解決セントスル決心ナルヲ知り頗ル欣快トスル次第ナリ

唯茲ニ明カニシ置キ度キ一事アリ即チ先ニ矢田總領事トノ商議ニ於テハ濟南事件ソノモノノ解決方法ニ付凡ユル努力ト考慮トヲ尽シタルモ遂ニ成案ヲ得ル能ハス已ムナク濟南事件自体ノ解決ト撤兵問題トヲ切放サントシタル事之ナリ敢テ当初ヨリ撤兵問題ノ先決ヲ迫リタル次第ニハ非ス而シテ本件ニ関スル貴方ノ言分ハ既ニ矢田總領事ニ於テ言ヒ尽シ之カ答弁モ亦同總領事ニ對シ言ヒ尽シタル経緯アルモ只今貴公使ヨリ再ヒ説明ノ次第アリタルニ依リ自分モ已ムナク之ニ對シ弁駁ヲ試ムヘシトテ先ニ矢田總領事ニ對シ述ヘタルト同様第一ニ日本ノ出兵ニ付陳謝ヲ要求シ國際公法ニ違反ストカ山東出兵ノ為メ北伐ニ一頓挫ヲ來シ政治ノ進行ヲ阻害セラレ数千ノ死傷ヲ生シ財産上ノ損害亦拳テ數フヘカラス為ニ支那國民ノ憤激ハ極度ニ達セリトカ盛ニ弁シ立テ

而シテ右五條件ノ完了シタル後一定期間内ニ全部ノ撤兵ヲ断行スル次第ナリ尤モ損害賠償及山東鐵道ノ交通確保ニ関シテハ單ニ方法サヘ確立セハ可ナリ即チ文書ノ往復完了ヲ以テ可ナリトスル次第ニシテ賠償ヲ支払ヒ或ハ交通確保ノ問題ヲ總テ措置シタル後初メテ撤兵スト云フ意ニハ非ス故ニ今日事件解決ニ関スル文書ヲ接受セハ今日ヨリ起算シテ一定期間内ニハ必ス撤兵スヘシ之ニ依ルモ我方ニ断乎タル撤兵ノ決意アル事ヲ知ルニ足ルヘシト念ヲ押シ更ニ進シテ本使ヨリ尚本件ニ関聯シ自然出兵ノ問題モ話頭ニ上ルヘク王部長ニ於テモ異論アルヲ承知シ居ルニ付此ノ機會ニ於テ一言説明シ置クヘシト前置シ抑々我山東出兵ノ由来ハ一昨年三月ノ南京事件ニ胚胎シ居リ一ニ山東ニ於ケル多數ノ我居留民及淄川炭坑其ノ他我投資事業ヲ保護スル為不祥事件ノ再発ヲ防キテ日支國交ヲ全フセンカ為ニ外ナラス一昨年ノ出兵ハ幸ニシテ事無カリシヲ以テ事件直後ニ撤兵セリ然ルニ昨年ノ出兵ニ於テハ不幸五月三日ノ事件發生シ其ノ結果日支兵ノ衝突トナリ我居留民ハ極度ノ不安ニ驅ラレ居ル為ニ撤兵ヲ断行シ得サル狀態ニ在リ

然レトモ濟南事件ノ解決並ニ將來ノ保障ニ付協定成立スル

尚日本ハ出兵ヲ居留民保護ノ為ナリト云フモ支那國民モ自分モ日本政府ニハ他意アリタルニ非サヤトノ疑問ヲ抱キ居レリ然レ共互ニ議論ヲ固執セハ円満ナル解決ハ到底望ミ難キコト貴公使ノ云ハル通りナルニ依リ自分ハ斯ル議論ハ總テ水ニ流シ何トカ解決方法ヲ見出サムトシ居ル次第ナリ然レ共日本側ニ於テ我方ニ陳謝ヲ要求セラルルニ於テハ我ハ先ツ出兵ニ對スル日本ノ陳謝ヲ求メ更ニ事件其ノモノニ付テハ調査ノ結果日本側ニ責任アリト決定シタル時ハ此ノ点ニ付テモ更ニ日本政府ノ陳謝ヲ求ムル意嚮ナリト述ヘ抑々支那側ノ調査ニ依レハ濟南事件ノ発端ハ日本側ニ責任アリトコトナルカ未タ双方意見ノ一致ヲ見サルニ依リ宜シク共同調査ヲ行ヒ責任支那側ニアルコト分明トナリタル曉ハ支那側ニ於テモ潔ヨク遺憾ノ意ヲ表スヘク若シ又責任日本側ニアリトコトトナラハ日本政府ニ於テ遺憾ノ意ヲ表スヘキ筋合ナリト論シ

処罰ニ付テハ日本カ出兵シタル事夫レ自体力不法ナルノミナラス他國ノ領土ニ侵入シテ恣ニ鐵道沿線二十支里以内ニ支那人ヲ入レシメス剩ヘ二十支里以外ノ地ニ於テサヘ支那人ヲ殺傷セリ斯ノ如キハ國際公法及日支間ノ友誼ヲ無視シ

タル所為ニシテ支那側ヨリ処罰ノ要求ヲ為スコト当然ナリ又賠償ニ付テハ共同調査委員ヲシテ公平ニ調査セシメ日支人ノ損害ニ対シテハ一律平等ノ基礎ニ於テ賠償スヘキ事当然ナリ更ニ日本居留民保護ノ声明ノ如キハ既ニ屢々国民政府ノ宣明シタル処ニシテ省政府ニ対シテモ再三命令スル処アリ之レ以上重ネテ声明スルノ必要ナク排日取締ニ付テモ既ニ極力措置ヲ講シ居ルノミナラス排日ノ原因タル出兵問題解決セハ自然其ノ結果モ除去セラルルニ至ルヘシト曲弁シ最後ニ山東鉄道交通確保問題ニ付テハ委員ノ研究措置スヘキ目的ヲ知ルニ苦シムカ故ニ先ツ研究ノ目的如何ヲ説明セラレタシト応シタリ

依テ本使ハ貴部長ノ云フ処ヲ聞クニ支那側ニハ何等過失ナク日本側ノミ過失ヲ為シタルヤニ聞エ貴部長ノ巧妙ナル弁舌ニハ敬服セサルヲ得スト擲論シタル後只今貴部長ト本使ノ解決セントスル問題ハ五月五日ノ事件ニシテ該事件以外ニハ成ルヘク言及セサルヲ得策ト信スト述ヘ抑モ五月三日事件発生ノ原因ハ貴国政府ノミナラス外国新聞記者ノ一行モ事件ノ直後同地ニ至リ調査セル処ニシテ既ニ世間ニ周知ノ事実ナリ何等分明ヲ缺ク点ナシ飯ヘハ紐育「タイムス」

第七四号

芳澤公使ヨリ

岡本領事閣下宛往電第七二号ニ関シ

二十五日会議後退出ノ際周龍光及崔士傑ハ堀内ト有野ニ対シ済南事件ニ対シテハ国民政府内部及外部ノ空氣頗ル緊張シ居ル為此ノ上議論ノ長引クコトヲ許ササル形勢ニテ今後多クトモ両三日ノ会合ニ依リ解決ノ見込立タルニ於テハ頗ル面倒ナル事態ニ陥ル虞アルヘキ旨ヲ告ケ成ルヘク速ニ非公式ニテモ具体案ノ打合ニ入りタキ由ヲ述ヘタル趣ナルカ同日夕刻崔士傑本使ヲ来訪シ前電我方ノ条件ニテハ曩ニ福田司令官ノ提出セル条件ト殆ト逕庭ナキ為支那ニテハ大イニ憤慨シ居ル処支那側ハ先般王、矢田間ニ話合ヒタル程度ノ条件ニアラサレハ到底纏マル見込ナキモノト思考シ居ルニ付此ノ際日本側ニ於テ右ノ如キ趣旨ニ依リ具体案ヲ提出シ先ツ非公式ニ打合ヲ為シタキ旨ノ希望ヲ申出テ先方ニ於テ頻リニ解決促進方ヲ焦慮シ居ル模様ナリシカ一面当地駐在武官ノ聞込ニ依レハ事態遷延スルニ於テハ中央党部ヨリノ圧迫出ツル形勢アリトノコトニテ前後ノ状況ヨリ察スルニ会議ノ進行如何ニ依リテハ党部方面ノ干渉ニ依リ意外

ノ「アーベント」ノ如キハ当時調査ノ事実ヲ詳細報道シ居レリ即チ云フ迄モナク日本ノ一居留民ノ家屋ニ南兵侵入シテ掠奪ヲ為シタルニ端ヲ発シ日支兵ノ衝突トナリ日本人ノ虐殺セラレタルモノ十数名ニ及ヒ日本人ノ家屋亦掠奪セラレタリ

斯ノ如キハ既ニ議論ナキ処ニシテ而モ自分ハ如何ニモシテ本件ヲ円満解決シタシトノ決心ヲ以テ特ニ來寧シタル次第ナレハ先ニ提出セル五条件ヲ以テ此ノ不祥ナル懸案ヲ一掃セントシ居ル次第ナリト述ヘタルモ時既ニ午後一時トナリタルヲ以テ一先ツ討議ヲ打切り次回二十六日(午後)二時会见スルコトニ取極メタリ

330 昭和4年1月26日

在南京岡本領事より
田中外務大臣宛(電報)

済南事件解決日本側条件は福田司令官提出の
条件と変らずとの中国側不満、崔より表明に
ついて芳澤公使報告

南京 1月26日前発
本省 1月26日後着

ノ困難ヲ惹起スルニアラスヤトモ思ハル右何等御参考迄

331 昭和4年1月27日

在南京岡本領事より
田中外務大臣宛(電報)

済南事件解決交渉第二回会談において王外交
部長陳謝拒否を固執のため交渉打ち切りの旨芳
澤公使報告

南京 1月27日前発
本省 1月27日後着

第七七号

往電第七六号ニ関シ

芳澤公使ヨリ

二十六日午後二時王正廷トノ第二回会見ヲ為シ王ハ前回ニ於ケル本使ノ言葉ヲ捕ヘ貴公使ハ「アーベンド」モ済南事件発生ノ責任支那側ニアリト報道シタル旨述ヘタルカ自分頭初ヨリ日支間ノ事件ハ日支間限リニテ解決セント考ヘ居リ從テ聯盟ニサエ持出スコトヲ敢テセサリシカ貴公使ニ於テ本件解決ニ第三国人ヲ参加セシメントノ意嚮ナルニ於テハ自分モ敢テ反対セスト見当違ノ論ヲ為シタルニ依リ「ア

「ペン」ノ件ハ単ニ濟南事件ノ責任支那側ニアルハ周知ノ事實ナルコトヲ証スル一例トシテ挙ケタル迄ニテ日支間ノ係争問題ニ第三国人ヲ干与セシメントスル次第ニ非ストテ一応王ノ誤解ヲ解キタル後既ニ濟南事件發生ノ責任支那側ニアル事明白ナル以上此ノ事實ヲ基礎トシテ本件解決ノ方法ヲ討議スヘキハ至当ナリト信スト述ヘタルニ

王ハ支那側ノ調査ニ依レハ濟南事件發生ノ責任日本側ニ在ル事疑フノ余地ナシ然レトモ貴公使トノ間ニ於テ斯ル水掛論ヲ為シ互ニ不快ノ言ヲ為スハ好マサル所ナルヲ以テ自分ハ当初ヨリ一步ヲ譲リ事件發生ノ真相ニ就テハ共同調査ヲ行ヒ責任アリト決定シタル側ニ於テ陳謝スヘキヲ主張セリ而モ事件其ノモノニ對スル陳謝ヲ日本側カ言ヒ出ス以上支那側ニ於テハ先決問題トシテ先ツ日本ノ不法ナル出兵其ノモノニ對スル陳謝ヲ要求セサルヲ得ストテ前回ノ議論ヲ蒸返シタルニ依リ本使モ出兵ノ止ムナカリシ事情及五月三日事件發生ノ真相ニ就キ前回同様ノ説明ヲ試ミタルカ王ハ尚日本ニ出兵ノ權利ナシトカ述ヘ三日事件ノ責日本ニアリトカ同シ議論ヲ繰返シ際限ナカリシヲ以テ本使ハ自分ニ於テハ互譲妥協ノ精神ニ基キ本件解決ヲ計ラントスルニ際シ貴

部長ニ於テハ何等讓歩ノ色サヘ示ササルニ非サトテ其ノ反省ヲ促シタルモ王ハ依然調査セスハ責任ノ帰屬明白ナラスト繰返シ讓歩ノ色見エサリシヲ以テ本使ハ一時休憩ヲ提議シ

別室ニ王ヲ拉シテ二人限リトナリ本使ヨリ本件解決ノ為ニハ支那側ニ於テ遺憾ノ意ヲ表スルコトノ絶対ニ必要ナル旨ヲ反覆力説シタルモ少シモ動ク色見エサリシニ依リ然ラハ処罰ニ付テハ貴方ニ於テ讓歩セラレタシト説キタル処王ハ若シ支那側ヨリ陳謝センカ国民政府ハ直ニ倒壊スヘク而シテ後ニ左傾的政府成ルニ於テハ解決ハ全ク不可能ナルヘシ此ノ際寧ろ過去ハ一切葬リ去ルニ如カス抑々濟南事件發生後福田司令官ヨリ陳謝ノ要求アリ當時ハ統一未タ成ラサリシ際ナリシモ之ヲ拒絕セリ況ンヤ国内ノ統一完成セル今日如何ニシテ之ニ応ジ得ヘキヤトテ決心極メテ固キモノアル様見エタルヲ以テ本使ハ已ムナク然ラハ自分モ更ニ一步ヲ譲リ五月三日ノ後ノ事件ニ對シテハ日本側ヨリ残念ニ思考スル旨ノ文書ヲ送ル様考慮スヘキニ付貴方ヨリハ五月三日ノ事件ニ付遺憾ノ意ヲ表スル文書ヲ送付スルコトトシテハ如何ト切出シタルニ双方全然同一ノ字句ヲ用ユル次第ナ

ラハ考慮スヘキモ然ラサレハ考慮ノ余地ナシト答ヘタリ

依テ本使ハ然ラハ交渉ハ全ク行詰マルモノト云ハサルヲ得スト述ヘタルニ王モ其ノ通りナリ此ノ儘ニテハ吾人ノ努力モ失敗ニ歸スヘキ事明カナリト言明シ然ラハ陳謝ハ別トシ

自余ノ四条件ニ對スル意嚮如何ト質シタルニ賠償ハ共同委員ヲ任令シ双方ノ損害ヲ調査シテ公平ニ賠償スルナラハ異議ナシ將來ノ保障ニ就テハ既ニ屢々命令シアルモ山東ニ於ケル外国人ノ生命財産ノ保護ニ関スル命令ハ何月何日発令シタリトノ事ヲ通知スルニ就テハ異存ナシト答ヘ更ニ本使ヨリ山東鐵道交通確保トハ運輸ノ改善カ目的ナリト説明シタルニ張宗昌時代ナラハイザ知ラス国民政府接收ノ後ハ必ス之ヲ改善スヘク特ニ申合セノ必要ナシト述ヘタルカ結局將來ノ保障及鐵道ノ交通確保ニ就テハ交渉ノ余地アル旨仄シタリ然レトモ陳謝ノ一点ニ就テハ絶対ニ考慮ノ余地ナシト断言シ終始一貫其ノ態度ヲ變ヘサリシニ依リ再ビ王ト共ニ元ノ室ニ歸リ一同ト茶菓ヲ共ニシツツ尚懇談ヲ続ケ今回自分ノ來寧スルニ就テハ交渉ニ関シ頗ル広汎ナル権限ヲ与ヘラレ居リ既ニ妥協互譲ノ精神ニ依リ処罰ノ点ニ於テ先ツ讓歩シ次ニ五月三日ノ後ノ事件ニ就テハ我方ヨリモ残念ナ

リトノ文書ヲ送ルノ案ニ就キ考慮スヘシト迄讓リタルノミナラス昨日本使ヨリ言明セル如ク我方ノ要求条件容レラルルニ於テハ直ニ撤兵時期ヲ商議スルノ用意アル事ヲ示シ極メテ妥協的態度ニ出テ居レリ

然ルニ貴部長ハ矢田總領事トノ交渉ノ時ヨリハ一步モ讓歩シ居ラサルニ非サト詰リタルニ王ハ矢田總領事モ陳謝ヲ要求シタルカ自分ハ之ヲ拒絕セリ又処罰モ要求セラレタルニ依リ自分ハ相互ノ基礎ニ於テ福田司令官ノ処罰ヲ要求セリ本日貴公使ハ処罰ノ点ハ賀耀祖ノ罷免ヲ以テ満足スト言ハレタルヲ以テ自分モ福田將軍ニ對スル処罰ノ要求ヲ撤回スヘシ即チ矢田總領事トノ間ニ於テハ討議ヲ尽シ陳謝、処罰及賠償ニ就キテハ解決方法無シト認メラレタルヲ以テ濟南事件ノ解決ハ現地ニ於テ調査ノ上商議スル事トシ撤兵後ノ保障等ノ条件ヲ定メ撤兵問題ヲ議スル事トシタルナリ即チ貴公使今回ノ提案ハ矢田總領事ト自分間ノ話合ヲ一步モ出テストテ事毎ニ矢田總領事トノ話合ヲ引用シ尚貴公使ニ於テ撤兵期間ヲ明示シ得ル権限アリト言フモノハ單ニ撤兵期日ノ問題ニ迄進ミ得ル希望アル事ヲ示スニ過キス何等日本側ノ讓歩トハナラサルナリトテ反省ノ色見エサルニ依リ

本使モ已ムナク既ニ最モ肝要ナル一点ニ就キ意見ノ一致ヲ見サル以上自余ノ条件ニ就キ討議ヲ進ムルモ本件解決ニ就キ効果少シト認メラルルニ依リ当地ニ於テ貴部長トノ会見ハ之ニテ一先ツ打切り一応上海ニ歸リ請訓ノ上政府ノ指図ヲ待ツノ外無シト告ケタルニ王モ聴キタルヲ以テ本使ヨリ王以下外交部員等ヲ二十九日晚餐ニ招待シアリタルヲ二十八日ニ繰上クル事ニ打合セテ辞去セリ

332 昭和4年1月27日 在南京岡本領事より
田中外務大臣宛(電報)

陳謝問題に關し王外交部長態度緩和のため芳澤公使二十九日南京引揚の態度表明について

南京 1月27日前発
本省 1月27日後着

第七八号

芳澤公使ヨリ

今回ノ交渉ニ於テ王正廷カ劈頭ニ撤兵問題ヲ持出シ先ツ以テ之ニ関スル我方ノ言質ヲ取付ケタル上ニ非サレハ濟南事件自体ノ商議ヲ拒否スルノ態度ニ出ツルコトナキヤハ從來

ノ経緯ニ鑑ミ本使ノ東京出發以來最モ懸念シ居リタル点ナル処之カ対策トシテ本使ハ上海着後張群、郭同等等蔣介石派要人ト接觸シ又其ノ他ノ間接ノ方法ニ依リ機会アル毎ニ我方ノ公正ナル態度及本使ノ使命等ニ関シ適宜説明ヲ与ヘ主トシテ蔣介石側ヨリ王ノ右ノ如キ態度ヲ牽制セシムルコトニ努力シ尚当地到着後モ其ノ方針ヲ以テ各方面ト応答シ来リタルカ其ノ結果ニヤ今日迄ノ会合ニ於テ王ハ未タ前頭ノ如キ提議ヲ為スコトナキノミナラス二十五日ノ會議ニ於テ本使カ特ニ王ノ矢田總領事ニ為シタル撤兵時期明示方ニ関スル不穩当ナル態度ヲ指摘シタルニ對シテモ王ハ右ハ敢テ当初ヨリ之カ先決ヲ迫リタル次第ニアラスト弁解シ(往電第七二号参照)別段之迄ノ主張ヲ固執スル模様ナカリシニ見ルモ大体ニ於テ此ノ点ニ付テハ王ノ態度ハ余程緩和シ居ルヤニ觀測セラル尚往電第七七号ノ通り解決条件殊ニ陳謝ニ関シテハ王ノ主張ノ頗ル強硬ニシテ絶対ニ緩和ノ余地ナキヤニ見受ケラルル処若シ本使ノ觀測ニシテ誤リ無クムハ右王ノ態度ハ王ノ説明ノ如ク国民政府ノ倒壊ヲ懼ルルニ非ス彼自身ノ没落ヲ懼ルルカ為メニシテ王トシテハ自限リニシテ陳謝ノ提議ヲ承諾シ難キモ蔣介石辺ヨリノ命令ニ

從ヒ已ムヲ得ス服從シタルモノナリトノ形式ヲ取り度キ底意ナルヤモ計リ難ク旁本使トシテハ往電第七七号報告ノ讓歩ノ外ハ此ノ上一歩モ讓歩シ難シト云フ強硬ナル態度ヲ示シ二十九日一先ツ当地ヲ引上クルコトシ二十七日二十八日兩日間ハ当地ニ在リテ裏面ヨリ蔣介石若ハ適當ト認ムル向ニ對シ王ノ態度緩和方ニ関シ必要ナル努力ヲ為シ又上海引上後モ右ノ趣ニテ努力ヲ試ムル所存ナリ御参考迄

333 昭和4年1月27日 在南京岡本領事より
田中外務大臣宛(電報)

濟南事件交渉局面打開に關する張群との会谈について芳澤公使報告

南京 1月27日後発
本省 1月28日前着

第八三号

往電第七七号ニ関シ

芳澤公使ヨリ

二十六日午前張群ヲ招キ実ハ昨日ノ外交部長トノ會議ニ於テ交渉ハ非常ナル難關ニ遭遇セリトテ其ノ事情ヲ説明シ即

チ他ノ条件ニ就テハ王部長モ考量ノ余地アリト云ヘルカ陳謝ノ件ハ絶対ニ緩和ノ色ヲ示サス依テ本使トシテハ処罰モ讓歩シ又陳謝ノ件ニ就テモ五月三日ノ後ノ出来事ニ就テハ我方ヨリモ公文ヲ發送スト云フ所迄讓歩シタルニ拘ラス王部長ハ全然同文ナラハ兎モ角支那側ヨリ我方ニ送ル公文カ多少トモ異レル意味ヲ以テスルナラバ絶対ニ同意シ難シト云ヘリ然ルニ日本側トシテハ濟南事件ノ解決トハ即チ五月三日ノ事件ノ解決ヲ意味ス我方トシテハ此ノ点カ眼目ナルヲ以テ五月三日ノ事件ニ對シテハ陳謝ノ公文ヲ要求セサルヲ得サル立場ニアリ然ルニ王部長ハ此ノ点ニ就テハ絶対ニ承諾セサル為交渉停頓スルニ至レル次第ナリ

御承知ノ通今回自分カ当地ニ来レルハ此ノ際濟南事件ニ統イテ条約問題ヲモ解決シ日支間ノ国交ニ新紀元ヲ劃シ度キ希望ニ出ツル次第ナルカスカル始末ニテ交渉進捗セサルモノトセハ此ノ当地ニ滞在スルノ必要ナキヲ以テ三十日ノ出發ヲ一日繰上ケ二十九日上海ニ引揚クル積リナリ自分トシテモ寔ニ遺憾ニ堪ヘサル処ナルカ王部長ノ態度余リニ強硬ナル為斯ノ如キ結果ヲ来シタル次第ニテ已ムヲ得サル処ナリ然レト熟々考フルニ王部長ノ立場ヨリ言ヘハ若シ斯ノ如

キ陳謝ノ公文ヲ送ルコトナラハ王部長ハ其ノ地位ヲ保チ得サルコトナルヘキニ付王部長トシテハ絶対ニ反對ノ態度ヲ取ルハ自己ノ立場上已ムヲ得サル次第ト思考セラル然レトモ斯クノ如キハ日支国交上ヨリ云ヘハ寔ニ悲ムヘキコトナリト述ヘタルニ張ハ王部長カスル態度ヲ取レルニ付テハ由來アリ則チ昨年九月自分カ大演習参加ノ為渡日シタル折同月二十九日青山ノ私邸ニ於テ田中總理ト会見シ午前九時ヨリ午后二時迄及同日午後八時ヨリ十一時迄合計八時間ニ亘リ会谈セリ

其ノ際總理ヨリ日支国交ノ全般ニ亘リ説明セラルル処アリタルカ其ノ要領ハ東三省ノ問題ハ日支国交ノ痛ナルヲ以テ之カ解決ヲ計ル事ハ最モ必要ナリ之サヘ解決セハ他ノ問題ハ容易ニ解決シ得ルモノノミナリ即チ条約問題ニ付テハ国民政府ニ於テ第二回ノ通牒ニ對シテハ日本政府ヨリハ支那側カ臨時辦法ヲ實施セサル意向ト了解シタルカ如キ趣意即チ現行条約ハ尚効力ヲ存続スルモノトシテ之カ改訂ヲ為スノ趣旨ニテ回答スルコトトシ然ルヘシ関稅問題ニ付テハ互惠条約ヲ締結シ債務整理ヲ為ス趣意ニテ解決シ濟南問題ニ付テハ兩國相互ニ同様ナル措置ヲ取ル趣意ニテ解決スルコ

自分ノ語レル所ハ其ノ儘貴公使ヨリ田中總理ニ電報セラレシコトヲ希望スト語リタルニ付本使ハ田中總理カ果シテ貴官ニ右ノ如キ談話ヲナサレタリヤ否ヤハ自分ノ承知セサル所ニシテ

自分トシテハ總理ヨリ受ケタル訓令ト權限トニ基キ王部長ト交渉シ居ル次第ナルモ自分ノ王部長ニ對スル交渉ハ即チ田中總理代表セラルル日本政府ノ方針ニ基クモノナル処不幸ニシテ王部長トノ間ニ陳謝問題ニ付意見一致ヲ見ルニ至ラス其ノ結果殆ト右一点ノミニテ濟南問題モ又復此ノ儘未解決ニ附スルコトトナラントスル情勢ナリ実ハ東京出發前外務省幹部列席ノ場所ニテ自分ヨリ總理ニ對シ濟南事件、条約問題解決ノ上ハ帝國政府ノ國民政府ニ對スル態度ヲ一變シ大ニ好感ヲ示サレン事ヲ希望スト述ヘタル処總理モ全然同感ノ意ヲ表サレタル次第ニテ（此ノ点ハ二十六日夜蔣介石夫妻カ本使一行ヲ晚餐ニ招キタル際本使ヨリ王正廷ヲ前ニシテ蔣ニ對シ直接披露シ蔣ノ注意ヲ喚起シタル処蔣ハ自分モ左様ナクテハナラスト信シ居レリト答ヘタリ）從テ右二問題解決ノ上ハ日支關係ノ好転スヘキ事疑ナキ処ナルニ拘ラス陳謝ノ一点ニテ總テ水泡ニ帰セントスルハ甚タ遺

トトセハ是等諸問題ノ解決ハ極メテ容易ナリト述ヘラレタル上當時支那側ニ於テハ十月一日ヨリ臨時辦法實施ノ風説アリタルモ總理ニ於テハ日本ノ懸案解決ニ對スル方針ハ右ノ如キ次第ナルカ故ニ臨時辦法ヲ十月一日ヨリ實施スルコトハ見合ス様至急國民政府ニ發電方依頼サレタルヲ以テ自分ハ直ニ蔣司令ニ對シ其ノ趣電報シタル次第ニテ其ノ結果國民政府ハ臨時辦法實施ヲ見合セタル次第ナリ

又自分ノ渡日ハ大演習參觀ノ為ナリシカ其ノ際特ニ總理ヨリ速ニ歸国シ右ノ趣傳達スル様トノコトナリシヲ以テ自分ハ船便ノ都合モアリ十月四日東京ヲ出發シ歸還シタルカ總理トノ会谈ハ右ノ如ク八時間ニ亘リ總理ノ述ヘラレタルコトハ自分ニ於テ寸毫モ間違ナク之ヲ記憶シ居リ歸寧後委細總司令ニ報告シ總司令ハ直ニ之ヲ王部長ニ告ケタル処王部長ヨリ外交委員會ノ開会ヲ求メ而シテ自分ハ委員ニ非サルモ特ニ出席ヲ求メラレ田中總理ノ談話ヲ該會議ニ於テモ委細披露シタリ其ノ結果蔣總司令モ王部長モ將又國民政府全体モ日本ノ濟南問題ニ對スル結局ノ方針ハ田中總理談話ノ如キモノト諒解シ居レル次第ニテ從テ陳謝問題ニ付キテモ王部長ハ昨日ノ如キ態度ニ出テタルモノト信ス就テハ只今

憾ノ至リナリト述ヘタル処

張ハ自分モ全然貴公使ト同感ナルカ実ハ濟南問題ニ付テハ貴公使ハ五月三日ノ事件ニ重キヲ置カルルカ其ノ五月三日ノ事件ニ付テスラモ支那側ノ有スル報道ニテハ其ノ責日本側ニ在ルモノノ如ク現ニ自分カ東京滯在中確カ五月七、八日頃ノ新聞ト記憶スルカ陸軍省ノ公表文ニ依レハ五月三日ノ事件ノ発端ハ濟南ニ於ケル警備区域以外ノ地ニ於テ日本ノ將校斥候ト支那兵トノ衝突ニ基クモノナリトノ事ニテ旁支那側ニ於テハ其ノ責全然支那ニ在リトハ認メ居ラスト述ヘタルニ付本使ハ右公表文ハ自分モ當時之ヲ一読シタルカ右ニ依レハ日本側ニ於テ責任アリトモ見受ケラレス然ルニ我方ニ於テハ五月三日ノ事件ニ重キヲ置ク理由ハ領事館陸軍ノ報告等ニ基キ其ノ責支那側ニ在リト為スカ故ナリト述ヘタル処張ハ其ノ点ニ日支兩國ノ見解ニ相違アル事ハ誠ニ遺憾ノ次第ナリト述ヘタル上左リ乍ラ日本政府カ特ニ貴公使ヲ此ノ地ニ派シ本問題ヲ解決セシメントセル事ハ誠ニ結構ナルカ故ニ若シ王部長ヨリ貴公使宛公文及貴公使ヨリ王部長宛公文ノ文字ニシテ適當ナル形式ニ之ヲ書綴ル事ヲ得テ兩國政府ノ体面ヲ保持シ得ルニ於テハ夫ニテ此ノ問題モ

解決スル事ヲ得ヘント述ヘタルニ付本使ハ自分一己トシテハ同様ニ考ヘ居ル次第ナルカ政府ニ於テ果シテ同感ナリヤ否ヤ承知セス尤モ自分ニ於テハ文字ノ点ニ付篤ト研究スヘキモ兎ニ角王部長ニシテ今少シク緩和ノ態度ヲ示スニ非サレハ妥協困難ナルカ故ニ何トカ其ノ方面ノ努力願ハレ間敷ヤト述ヘタル処張ハ自分ニ於テ王部長トノ關係親善ナラハ直接注意スル事差支無キモ余リ親善關係ニ非サルカ故ニ自分トシテハ蔣主席ニ話シ主席ノ手ヲ經ルヨリ致方無キ処主席ハ昨夜上海ニ赴キ二十八日朝カ二十九日朝当地ニ歸ルヘキニ付其ノ際主席ニ話シタル上其ノ結果ヲ内報スヘント述ヘ辞去セリ

334 昭和4年1月28日 在南京岡本領事より
田中外務大臣宛（電報）

五月三日事件の責任は日本側にありとの中国側見解について芳澤公使報告

南京 1月28日前発
本省 1月28日後着
* 第八四号

335 昭和4年1月30日 在南京岡本領事より
田中外務大臣宛（電報）

第三回会談において済南事件は東洋平和および両国国交のため頗る遺憾なる意双方表明に同意する旨王外務部長言明に関する芳澤公使報告

南京 1月30日前発
本省 1月30日後着

* 第九〇号

芳澤公使ヨリ

漢口事件ニ関シ貴電第一四号御訓令ノ次第アリ且本使明三十日一応上海ニ引揚クルコトナリ居ルヲ以テ本二十九日午后三時有野岡本帯同王正廷ヲ其官邸ニ訪ヒ同事件ニ関シ反日取締ノ要求ヲ為スニ先チ済南事件ニ言及シ過日来ノ面談中我方要求条件ニ対スル王正廷ノ所説ヲ「コンファーム」シ置ケリ

先ツ本使ヨリ陳謝ニ関シ前回王部長ハ五月三日ノ事件ニ対シ陳謝ノ意ヲ表スルハ絶対ニ同意シ難キモ彼我全然平等ノ原則ノ下ナラハ考慮ヲ加フヘキ旨語ラレタルカ本件ヲ円満

往電第八三号ニ関シ
芳澤公使ヨリ

陳謝問題ニ関シ支那側カ強硬ナル態度ヲ執リ居ルハ五月三日ノ事件ノ責任必スシモ支那側ニ在ラスト考ヘ居ルノミナラス日本側ニテモ結局相互条件ニ依ル解決ニ応スヘントノ見込ヲ付ケ国民政府ノ方針トシテ相互主義ヲ固守スルコトニ決定シ居ルカ為ト観測セラル二十六日ノ会合ニ於テモ王正廷ハ頻ニ支那側ノ調査ニ依レハ五月三日ノ事件ハ日本側ニ責アリト主張シ居リ本使ヨリ若シ証拠アラハ示サレタシト要求シタル処其ノ内容ニ付テハ充分ノ説明ヲ為ササリシカ相当有力ナル記録アルカ如キ口吻ヲ洩ラシタルカ尚聞ク処ニ依レハ先般床次氏一行来訪ノ際上海ニ於テ同氏外邦人数名会合ノ席上南京ニテ床次氏ノ通訳ヲ為シタル南満医学堂出身ノ康明震カ同席シ居タルニ氣付カス済南ヨリ來レル邦人某ハ済南事件ノ発端ハ支那兵ノ掠奪ニ始マルモノニアラス等當時ノ事情ヲ談話シタルカ如キ事実モアリ此等我方ニ不利ナル諸種ノ情報アル処支那側ニ於テモ相当強硬ナル態度ヲ執リ得ルモノト考ヘ居ルニアラスヤト存セラル

ニ解決セシムル見地ヨリ今一步ヲ進メ考慮ヲ加ヘラルコト能ハスヤト質問セシ処王ハ貴公使ニ於ケル事件解決ノ誠意ヲ以テ重ネテ考慮ヲ促サレタルハ感謝ニ堪ヘサル処ナルモ前回モ申上ケタル通去ル五月三日ノ事件ニ対シ陳謝ノ意ヲ表スルカ如キハ絶対ニ不可能ノコトニ属ス唯五月三日及其ノ後ト言フカ如キ前後ノ區別ヲ為サス済南事件ハ東洋平和ノ為將又両国国交ノ為頗る遺憾ナル旨双方ヨリ同趣旨ノ声明書ヲ発スルカ或ハ同様ノ意味ニ於テ公文交換ヲ為スコトナラハ可ナリ尤モ右ノ場合ト雖陳謝等ノ文字ヲ用ユルコトナク例ヘハ惋惜テフ文字ヲ使用スルコトトセハ喜ンデ考慮ヲ加フヘシ本問題ハ之ヲ病人ニ喩フレハ最も高熱ノ状態ニアルカ如キモノニシテ之カ解決ニハ先ツ熱ヲ取去ルノ要アリ我等ハ先ツ此ノ点ニ留意セサルヘカラサル処済南事件ノ病源ハ駐兵ニアリ從テ速ニ撤兵ヲ実行セハ病氣モ自ラ平癒スヘシ在留外人ノ保護ニ関シテハ国民政府ニ於テ屢次声明セシ通切実之カ実行ヲ期シ居リ殊ニ山東ハ特殊ノ情勢ニアルヲ以テ特ニ有効確實ノ方法ヲ以テ之ヲ実現センコトヲ期シ居ルヲ以テ貴公使ニ於テモ此ノ点特ニ御考慮ヲ仰キタシ

濟南問題解決セハ當ニ排日終熄スルノミナラスヨリ好キ親善關係ヲ結ヒ得ヘシト確信スルヲ以テ一日モ速ニ本件ノ円満解決ヲ希望ス解決遷延セハ延イテ面白カラサル事態ヲ招来スヘキヲ懼ルト言ヘリ依テ本使ハ日本政府ニ於テモ迅速円満ニ本件ヲ解決スルノ意嚮ニテ本使ヲ派シテ交渉ノ任ニ當ラシタル次第ニシテ此ノ点全然貴部長ト所見ヲ同シクス而シテ過日部長ハ陳謝ノ問題ハ別トシ爾余ノ諸条件ハ比較の容易ナリト述ヘラレ本使モ満足セル次第ナルカ其ノ節部長ノ御話ニ依レハ賠償問題ハ兩國共同調査委員ヲ任命シ双方損害ノ程度ヲ査定賠償スヘク保障問題ハ山東ニ於ケル外人ノ生命財産ノ安全ヲ保障スル旨ヲ声明スルト共ニ地方官憲ニ命シテ切実之カ実行ヲ期セシメ其ノ旨日本政府ニ通告スルニ異存ナシ又鐵道交通確保ノ問題ハ國民政府ノ治下ニ於テハ當然之ヲ改善シ日本側ニ不利ヲ来サシメストノ御話アリ本使モ本件ハ貴部長所説ノ通ナリト信スルモ之カ確實ヲ期スル為兩國委員ヲ設ケ調査研究シタシト考ヘ居ルモ之ハ追テ御相談致スヘシ差當リ賠償、保障ノ二条件ニ対スル貴見前述ノ通相違ナキヤ承知致シタク以テ帰滬後ノ研究ニ資シタシト述ヘタル処

種ノ協議ヲ為サムトスルモノナルカ本件ハ後日詳細申上クヘシト答ヘタル処
王ハ貴公使ノ説明ニ依リ初メテ御意思判然セリ併シ乍ラ張宗昌時代以前ニ於テ御不満ノ点アリシトハ如何ナル点ヲ指スモノナリヤ事實ヲ示サレ度ク御承知ノ如ク同鐵道ノ問題ハ華府會議ニ於テ決定シ貴國ヨリ運輸、會計兩主任ヲ僱聘スルコトトナリタル次第ニシテ嚴格ニ謂ヘハ右兩主任以外増員ハ華府會議ノ精神ニ違反スル次第ナルノミナラス本問題ハ濟南事件トハ無關係ナリト信ス然ルニ此ノ際斯ノ如キ問題ヲ提起サルハ口実ヲ設ケテ同鐵道ノ管理權ヲ獲得セムト為スモノナリト疑ハルルモ致方ナカルヘシ若シ同鐵道ノ運輸ニ付不満ノ点アラハ承リ度ク即チ日本人ヲ除ク外人ト日本人トノ間ニ運輸上差別待遇アリトカ或ハ又日本人間ニ貨物運送ニ不公平アリ等ノ事實アリヤト問ヘルニ付本使ハ本日ハ陳謝以外ノ条件ニ対スル貴部長ノ御意見ヲ確ムルヲ目的トセル処膠濟鐵道ニ関スル共同委員會ノ目的ニ付テハ單ニ其ノ一端トシテ權限擴張等ノ事項ヲ述ヘタル次第ナルカ我方トシテハ同委員會ノ調査研究ノ結果同鐵道ノ狀態改善ノ方法タニ立タハ満足スル次第ナリ尚本件ト濟南

王ハ保障問題ヲ聲明セハ事足ル訳ニテ強テ通告スル要ナシト考ヘ居ルモ本件ハ外交部ヨリ國民政府ニ申達シ國府ヲシテ省政府ニ命令セシムルモ可ナリ之ヲ要スルニ第一點陳謝ノ問題ハ暫ク措キ第二點処罰ハ貴公使ニ於テ別ニ問題ト為サストノ事ナルハ頗ル満足スル処ナルカ第三點賠償ハ實地調査ノ上双方賠償スヘシト請フニアリ第五交通問題ハ過日モ申シタル如ク膠濟鐵道ノ運輸狀態ハ張宗昌ノ時代以外ニハ大体交通ノ原則ニ拠リ居タルコト御承知ノ通ニシテ今後國民政府治下ニ於テ一層改善サルヘキハ申迄モナク決シテ御心配ニ及ハス過日來委員會設置ヲ唱道セラルルモ抑モ該委員會ニハ如何ナルコトヲ研究調査セシメムトセラルル次第ナリヤト反問セルヲ以テ
本使ハ貴部長ハ山東細目協定ノ際全權トシテ折衝ノ任ニアリ御承知ノ如ク我方ヨリ運輸會計兩主任ヲ派シタル處當ニ張宗昌時代乱脈不正ノ狀態ナリシノミナラス其ノ以前ニ於テモ当初期待セシ通実行セラレズ之畢竟前記兩主任ノ權限充分ナラサルニ基因スト思料セラルルヲ以テ其ノ權限ノ擴張並日本人職員ノ増員ヲ要求セムト欲スル次第ニシテ斯ノ如キハ單ニ一例ニ過キス其ノ他同鐵道ノ運輸經營ニ関シ諸

事件ト關係ナシトノコトナルモ山東居留民保護ノ見地ヨリ同鐵道ノ運輸狀態ノ改善ハ緊要ノコトニ屬ス即チ濟南事件（解決）ノ一条件トシテ提出シタル所以ナリ勿論目的タニ達スルヲ得ハ本件ト切り離シ別ニ委員會ヲ設ケ研究ヲ為スモ可ナリト答ヘタル処
王ハ自分ノ言ハント欲スル処ハ膠濟鐵道ノ運輸改善ハ國民政府當然ノ責務ニシテ内外人ヲ問ハス一律法ニ照ラシ原則ニ依リ待遇スヘキハ言ヲ俟タス本件ニ関シテハ矢田總領事ヨリモ申出ノ次第アリタル処同總領事ノ意見ト貴公使ノ所説トハ些カ相違セル感アリ矢田氏ハ運輸會計兩主任ノ權限ニハ言及セス單ニ日本ノ債權ニ対スル利息不払ニ付述ヘラレタルニ付自分ハ当初利息ノ支払ハ停頓スルコトナカリシモ張宗昌時代トナリテ二、三ヶ月後ヨリ不払ヲ続ケタル次第ナリ張宗昌時代ノ遺口ニ依リ國民政府今後ノ施措ヲ律セラレテハ迷惑ナリト言ヘル処矢田氏ハ爾來本件ニ触レサリシ次第ナリ國民政府ハ膠濟鐵道ノ関スル限リ良局長ヲ任命シ交通確保ハ勿論利息ノ支払モ滞リナク実行スヘキヲ約（脱）御申出ノ如キ委員會ヲ設クルノ要ナシト信スト言ヘ

依テ本使ハ賠償保障交通確保ニ関スル貴部長ノ御意見ハ了解セリ陳謝ノ問題ニ付数日ノ後考慮ノ結果ヲ貴部長ニ申上クヘク其ノ節前述諸条件ニ付テモ論議ヲ重ヌヘシト言ヘル処王ハ承知セリト答ヘタリ尚王正廷ハ二月一日夜行ニテ赴滬スル趣ナルヲ以テ二日本使往訪ノコトニ打合せ置ケリ

336 昭和4年1月30日 在南京岡本領事より
田中外務大臣宛（電報）

陳謝問題に關し蔣主席も強硬につき妥協的解決三案について芳澤公使より上申

別電 一月三十日発在南京岡本領事より田中外務大

臣宛第九二号

将来の国交増進を期する旨の共同声明案

南京 1月30日午前

本省 1月30日後着

* 第九一號

往電第九〇号ニ関シ

芳澤公使ヨリ

陳謝問題ニ関スル王正廷ノ態度ハ依然強硬ナルカ之ヨリ先

本使ハ二十六日第二回会合ニ於テ王カ類ニ該問題ヲ以テ國民政府ノ存立ニ関スト為ス所以ハ実ハ王自身ノ地位ノ動搖ヲ懸念スルニ外ナラストノ印象ヲ得タルヲ以テ此ノ上ハ暫ク交渉ヲ中止シ我方ノ決意鞏固ナルモノアルヲ示スト同時ニ一方裏面ヨリ國民政府最高幹部ヲ動カス様努力スルコト得策ト思考シ先ツ往電第八三号ノ如ク張群ヲ通シテ蔣介石ノ反省ヲ促スト共ニ又松室中佐ヲシテ馮玉祥ヲ説カシメタル処張群ハ今二十九日蔣主席ノ上海ヨリ帰来スルヲ俟チテ面会ノ上本使ヲ来訪シ蔣ノ意見トシテ若シ濟南事件ヲ二分シ五月三日ノ事件ニ付テハ支那側ヨリ陳謝シ其ノ後ノ事件ニ付日本政府ヨリ遺憾ノ意ヲ表スルコトトセハ支那國民ヨリ必ス日本ノ出兵ニ付陳謝ヲ要求スヘシト主張スヘキカ故ニ双方全ク対等ノ形ニ於テ遺憾ノ意ヲ表スルカ又ハ陳謝問題ニ付全然触レザルコトト為スノ外ナシ右ハ既ニ外交委員會ニ於テ決定セル方針ナルヲ以テ本使折角ノ申出乍ラ何トモ致方ナシ田中總理ニモ其ノ旨御伝ヘテ請フト転送セリ斯ノ如ク蔣ノ態度モ陳謝問題ノ解決上新光明ヲ与フルモノト認メ難ク又馮モ松室ニ対シ自分トシテハ交渉カスル難局ニ陥レルコトヲ深ク惜ムモノナルモ何分将来山東方面ニ実

権ヲ握ルヘキ自分ノ立場トシテ此ノ際王ニ対シ指図金シキ処置ニモ出テ兼ネル旨挨拶シタル

趣ナリ將又外交部次長唐悦良ハ二十六日ノ第二回会見後直

ニ當時上海ニアリシ松室中佐ニ打電シテ至急来寧ヲ求め同

中佐ハ二十七日朝到着豫メ本使ト打合せノ上唐ヲ訪問シタ

ル処崔士傑モ同席ノ上先方ヨリ陳謝問題ニテ交渉停頓セル

次第ヲ告ケ其ノ際モ頻リニ五月三日ノ事件ニ支那側ノ責任

ナキコトヲ陳弁シテ日本側ニ於テ陳謝ノ要求ヲ撤回スル様

斡旋方ヲ求め双方論議ノ末結局唐及崔ヨリ一切公表セサル

コトヲ条件トシテ双方ヨリ口頭惋惜スルノ案ナラハ王トモ

相談シ見ルヘシト述ヘタル趣ナリ尚其ノ他外交部方面外交

委員會筋及中央党部方面ノ諸情報ヲ綜合スルニ國民政府部

内ニ於テハ從來濟南事件ニ付國民ニ対シ曲日本ニアル事ヲ

百万宣伝シ来レル事実アル一方往電第八三号第八四号ノ如

キ材料ニ依リ日本側ニ於テモ畢竟寛容ナル態度ニ出ツルモ

ノトノ期待ヲ繋キ解決条件ニ関シテハ相互対等主義ヲ固執

スルコトニ方針ヲ定メ居ルモノナルカ如ク右ハ昨年十月矢

田總領事ニ対シテモ王ノ終始一貫主張セル処ナルハ當時ノ

報告ニモ明カナリ況ンヤ國民政府ノ地位益々固ク往電第八

○号ノ通外交部次長ノ講演中ニモ見ユルカ如ク政府部内ノ鼻息荒キ今日トナリテハ此ノ上支那側ノ反省ヲ促スモ陳謝問題ニ付テハ遺憾乍ラ御訓令ノ趣旨ニ依リ目的ヲ達スルコト到底見込ナキ様存セラル就テハ今後トモ何等カ明案ナキヤ更ニ考慮ヲ廻ラスヘキモ差当リ此ノ際妥協ノ見込アル解決案トシテハ結局左ノ三案ヲ出テサルモノト思ハル

第一、王部長ト本使トノ間ニ相互ニ口頭ヲ以テ遺憾ノ意ヲ表スルコトトシ其ノ口頭陳述ノ内容ハ豫メ打合ノ上議事録ニ記述スルモ双方トモ一切之ヲ公表セサルコト

（此ノ場合ニハ処罰ノ要求ヲ放棄シ賠償ニ付テハ相互主義ノ下ニ共同調査ニ附スルカ又ハ初メヨリ放棄スルコトトス）

第二、五月三日濟南ニ於テ発生セル事ヲ解決センカ為日支双方同数ヨリ成ル共同委員ヲ任命シ現地ニ於テ調査ノ上相互ニ公平ナル辦法ヲ協商スル旨ヲ約スル公文ヲ交換スルコト

（此ノ場合ニハ陳謝、処罰及賠償總テ調査ノ上相互主義ニ依リ解決スルコトナル）

第三、日支兩國政府ハ濟南事件カ兩國國民ノ友誼ニ鑑ミ極

メテ不幸悲痛ノ出来事ナリシコトヲ認ムルモ此ノ際本事件ニ関聯スル諸問題ヲ其ノ記憶ヨリ一掃シ専ラ将来ノ国交増進ヲ期スル旨ノ共同声明ヲ発スルコト

（案文ノ趣旨ハ大体別電第九二二号ニ依ル尚此ノ場合ニハ陳謝、処罰及賠償ノ各要求ヲ全部撤回スルコトナル）

今右三案ノ得失ヲ考フルニ第一案口頭陳謝ノ内容ニ付テハ今日迄交渉ニ依リ得タル印象ニテハ御訓令ノ趣旨ヨリモ余程文句ヲ和ラケ例ヘハ先方ヨリ不幸ナル出来事ニ対シ遺憾ノ意ヲ表スルカ又ハ日本人ノ生命財産ニ対シ与ヘタル損害ニ付遺憾ノ意ヲ表スト言フ程度ニ改メ日本側ノ陳述内容モ例ヘハ日本軍隊カ邦人ノ保護上必要ト認メテ執リタル措置ニ依リ支那人ノ生命財産ニ損害ヲ及ホシタルコトヲ遺憾トスト言フ程度迄譲歩スルニ非サレハ容易ニ纏マラサルヘク

而モ斯ル程度ノ陳謝スラ一切公表セサル条件ヲ以テ行ハルルモノトセハ唯徒ニ惡感情ヲ後日ニ貽スコトナリ果シテ幾何ノ実益アルヘキヤ疑ナキ能ハサル様思考セラル次ニ第二ノ共同調査案ハ昨年十月矢田総領事ヨリ王正廷ニ提議シ仮リニ兩者間ニ談合成レルモノニシテ（昨年往電第五八七

（別電）

南京 1月30日前発

本省 1月30日後着

第九二二号

共同声明案

日支兩國政府ハ一九二八年五月濟南ニ於テ發生シタル事件カ兩國国民伝来ノ友誼ニ鑑ミ極メテ不幸悲痛ナル出来事ナリシコトヲ認ムルモ今ヤ兩國ノ政府及国民ハ友誼ノ増進ヲ望ム事誠ニ切実ナルモノアルニ依リ此ノ際該事件ニ関聯スル諸問題ヲ其ノ記憶ヨリ一掃シ専ラ将来兩國国交ノ益々敦厚ナラムコトヲ期スルモノナル旨茲ニ声明ス

337 昭和4年2月2日

田中外務大臣より
在上海矢田総領事宛（電報）

芳澤公使上申三案のうち第一案第三案併用の

方針につき訓令

付記 二月二日付

上申第三案に第一案の口頭陳謝付加方についての陸軍省意見

号）今回モ王ヨリ提議シタル処ニカカリ此ノ案ナラハ支那側トノ間ニ容易ニ纏マル見込アルモ是畢竟濟南事件自体ノ解決ヲ後ニ残スモノニシテ而モ共同委員会ニ於テハ恐ラク双方ノ意見容易ニ纏マラサルヘク為ニ彼我ノ感情ヲ再ヒ刺戟スルノ虞アルヘキノミナラス支那側ニ於テハ右委員会ノ事業落著ニ至ル迄ハ山東方面ニ於ケル排日会等ヲモ陰ニ残存セシムルコトトナルヤモ測リ難ク折角交渉一段落ヲ告クルモ日支兩國国民ノ関係俄ニ好転セサルヘキヲ虞ル而シテ若シ政府ニ於テ第三ノ共同声明ヲ採用セラルルニ於テハ支那側ニ於テ濟南事件ノ不幸悲痛ナル出来事ナリシコトヲ認容スルコトトナリ而モ帝國政府ハ日支国交ノ大局ニ起見シテ大国民ノ襟度ヲ示シ過去ハ一切葬リ去リ専念将来ノ和親ヲ策スルノ旨意ヲ中外ニ宣明スル所以ニシテ第一案ノ如ク不徹底ナル一片ノ陳謝ヲ以テ自ラ慰メ彼ヲ恨マシメ又第二案ノ如ク不快ナル未了案件ヲ後日ニ貽スニ比シ遙ニ策ノ得タルモノニアラスヤト思考ス本使ハ明三十日一先ツ上海ニ引揚クルコトトセルモ王正廷ハ来月二日朝同地ニ来ル筈ニ付次回ノ会見ニ間ニ合フ様至急前記三案ニ付御詮議ノ上何分ノ儀御回訓相成様致度シ

第七〇号

本省 2月2日後10時20分発

芳澤公使へ

濟南事件解決交渉ニ関シ縷々御申越ノ趣了承、政府ハ日支関係ノ大局ニ顧ミ貴電第九一號所載第三案ニ依リテ解決スルコトニ大体異存無キモ陳謝ニ関シテハ仮令之レヲ公表セサル迄モ一応ノ別目ヲ附ケ置クコト必要ナルニ付右ニツキテハ貴電第九一號所載第一案ニヨリ相互ニ口頭ヲ以テ遺憾ノ意ヲ表シテ之レヲ議事録ニ記述スルノ措置ハ執リ置カル、様致度、要スルニ政府ハ濟南事件ノ解決ニツキテハ貴電第九一號第一案及第三案ヲ併用セムトスルモノナルニ付右御合ノ上然ルヘク御措置アリ度シ

尚ホ陳謝、処罰、損害賠償ノ三点ヲ右ノ如ク解決セムトスル以上其ノ前提トシテ将来ノ保障ニツキ充分国民ヲ安心セシムルタケノ措置ヲ執リ置カサル可ラサルハ勿論トス即チ（一）國民政府ヲシテ山東在留民ノ生命財産ノ保護ニツキ如何ナル方法ヲ講スヘキヤ或ル程度迄具体的ニ明示セシムルコト（二）山東ニ於ケル排日、排貨ヲ終熄セシムルト共ニ将来嚴重ニ之レヲ取締ルヘキコトヲ約束セシムルコト

及ヒ（三）山東鐵道交通確保並ニ同鐵道整理ノ改善方法ヲ講セシムルコトノ必要ナルハ言フ俟タサルノミナラス殊ニ支那側ガ之レ迄日本ニ約束シタル事柄ニシテ履行セラレサルモノ少カラサル現状ニ顧ミ國民政府ノ保障ニ信賴スルヲ得ストスル日本國民ノ不安ヲ輕減スル為山東條約並細目協定等ニ於テ義務ヲ負ヒ而カモ今日迄之レガ履行ヲ怠リ居ルモノヲ此際成ルヘク速カニ実行スヘキコトヲ改メテ日本側ニ約束セシムルコト亦極メテ必要ナリトス依テ貴官ハ右ノ事情篤ト御諒解ノ上此ノ際左記各項ヲ承諾セシムル様精々御努力相成度

（一）國民政府ニ於テ山東在留民ノ生命財産保護ニツキ如何ナル方法ヲ講スル決心ナリヤ或ル程度迄具體的ニ文書ヲ以テ之レヲ明示セシムルコト
（二）山東ニ於ケル排日排貨ヲ終熄セシムルト共ニ將來嚴重ニ之レヲ取締ルヘキコトヲ約束セシムルコト
（三）山東鐵道交通確保及同鐵道整理ノ為日支共同ノ委員會ヲ設置セシムルカ若ハ車輛^補ヲ他線ニ流用セサルコト、不当ノ納付金ヲ政府ヨリ山東鐵道ニ強キサルコト、重要ナル箇所ニ配置スル日本人ノ數ヲ増加スルコト等ヲ此際

主義タケニテモ承認セシムルコト
（四）青島埠頭、青島市政及山東鐵道沿線都市開放ノ如キ山東條約若ハ同細目協定上ノ支那側義務ニシテ今日迄履行セラレサルモノニ對シテハ此際日本側ヨリ其ノ履行ヲ督促シ之レニ對シ國民政府ヲシテ成ルヘク速カニ之レヲ実行スヘキ旨ヲ回答セシムルコト
（五）全國ニ亘ル排日排貨ハ不法ノ甚シキモノニシテ國民政府ノ外國人保護ニ關スル態度トモ矛盾スルノミナラス統一政府トシテノ實力サヘモ疑ハシムルモノアル次第ニ付國民政府ニ於テ直チニ嚴重ニシテ誠意有ル取締ヲ勵行シ遅クトモ日本軍ノ山東撤去ヲ完了スル迄ニ之等ノ排日運動ハ一切之レヲ絶滅セシムヘキコトヲ文書ヲ以テ明確ニスルコト

（付記）

昭和四年二月二日 陸軍省
濟南事件解決方ニ關スル件回答ニ對スル意見

軍部ノ威信ヲ保ツ為ニハ曩ニ芳澤公使ニ訓令セラレシ通り公式ノ陳謝ヲ希望スト雖モ大局上此際日支關係ノ轉換ヲ必

要トスルニ於テハ芳澤公使ノ提案中何レカラ採ルノ外ナカルヘシ

同公使提案中其一ヲ選フトセハ比較的第三案ヲ可トスルモ該案中ニハ濟南出兵其者ノ責任ヲモ肯定スルヤノ誤解ヲ招クヲ虞ルルモノアルヲ以テ此点ヲ為シ得ル限り明瞭ニスルヲ可トセン尚ホ之ニ第一案ノ口約的陳謝ヲ附加スルコトヲ切望ス

338 昭和4年2月3日 在上海矢田總領事より
田中外務大臣宛（電報）

上海における第一回会谈においても王外交部
長陳謝に關し共同声明案を固執につき芳澤公
使報告

別電一 二月三日發在上海矢田總領事より田中外務大

臣宛第一二五号

陳謝に關する中国側交換公文案

二 二月三日發在上海矢田總領事より田中外務大

臣宛第一二六号

中国側共同声明案

三 二月三日發在上海矢田總領事より田中外務大

臣宛第一二七号

我が方交換公文案

上海 2月3日後發

本省 2月3日後着

*第一二四号

往電第一二三号ニ関シ

芳澤公使ヨリ

周及崔ノ來滬ヲ機トシ一日堀内等ヲシテ濟南事件ニ関シ右兩名ト非公式ニ意見ノ交換ヲ為サシメタルカ陳謝ノ問題ニ對スル先方ノ主張ハ依然強硬ニシテ別電第一二五号其ノ他類似ノ案文數個ヲ用意シ來タリ堀内ヨリハ本使東京出發ノ際ノ御訓令ニ基ク案文ヲ提出シ懇談ヲ重ネタルモ此ノ趣旨ノ案文ニテハ妥結ノ見込絶無ナルコトヲ發見シタルニ依リ双方更ニ考慮スルコトトシタルカ翌二日右兩者ハ再び堀内ヲ來訪ノ節先方ヨリ第一二六号ノ案文ヲ示シタルニ付堀内等ヨリ之等ニテハ問題ニナラスト告ケ我案ニ基キテ懇談シ種々ノ修正案ヲ提出シタル末最後ニ別電第一二七号ノ如キ餘程緩和シタル案文ヲ示シタルニモ拘ラス兩名ハ尚對等ニ

陳謝スルノ原則ニ反ストテ頑強ニ反対シタルカ種々説得ノ結果結局先方ノ希望ニ基キ来翰案中「本事件ニ於テ」以下「加ヘタルコトニ付」迄往翰案末段ノ「該事件ニ於テ」以下「加ヘタルコトニ付」迄夫々「本（該）事件ノ不幸ナル發生ニ対シテ」ト仮ニ修正シ更ニ双方ニ於テ考慮スルコトトナリタル趣ナリシニ依リ二日午後五時王正廷ト会見ノ際ハ先ツ本使ヨリ右案ニ対スル王ノ意嚮ヲ尋ネタルニ王ハ原案（別電第一二七号）ノ儘ニテハ口頭ニテ陳述スルノ形式トスルモ考慮ノ餘地ナシ先ツ「本（該）事件ノ不幸ナル發生ニ対シテ」ト訂正スルノ要アリト答ヘタリ依テ本使ハ「本（該）事件ノ不幸ナル發生ニ対シテ」文ニテハ日本政府ノ同意ヲ得ルコト頗ル困難ナリト認メラルルヲ以テ自分トシテモ今暫ク研究考慮シタキ考ナルカ濟南事件ノ如キ難問題ハ双方ヨリ譲歩シ妥協シテ初メテ解決シ得ラルヘキ筋合ナレハ妥協案ニ付テハ日支双方ノ国民ヨリ不満ヲ聞クモ已ムヲ得サル処ナリ依テ自分一己トシテハ大体斯ル趣旨ニテ斯ル形式ノ公文交換ニ依リ本件ノ解決ヲ計ルニ異存ナシト述ヘタルニ王ハ貴公使ノ御意見ニハ至極同感ナリ自分モ本件ノ解決ニ依リ攻撃ヲ受クル事ハ覚悟シ居リスノ如

点ニ全然同意ナル旨」ノ一句アル処右カ支那側陳謝ノ公文ニ同意スルカ如キ誤解ヲ起シ不便ナリトノ事ナルニ於テハ更ニ譲歩シ之ヲモ削除シ単ニ「アツクノレデ」スル文ノ文句トスルモ差支ナシ要スルニ我方ノ主張スル処ハ往翰文ノ形式ニ依リ解決セムトスルニアリト述ヘタル処王ハ字句ノ如キハ全然枝葉ノ問題ナリ根本ハ惋惜ノ公文ヲ日支孰レノ側ヨリ先ニ出スヘキヤノ点ニアリトス若シ支那側カ日本側ヨリ先ニ出スヘント要求スルニ於テハ日本ハ承知セサルヘシ仮令政府ニ於テ承諾スルモ日本国民ハ沈黙セサルヘシ支那ニ於テモ亦同シ仮令自分カ支那側ヨリ先ニ出スノ案ヲ承諾スルモ支那ノ民衆カ之ニ反対スヘキ事ハ明カナリ故ニ陳謝ノ公文ハ孰レヨリ先ニ出スモ不可ナリ此ノ不便ヲ除ク為ニハ双方ヨリ公文ヲ同時ニ出シ孰レヨリモ回答セサル事トスルヨリ外ナシ之双方ノ立場ヲ全然平等ニシ公平ヲ得セシムルモノナリ此ノ点ニ付テハ矢田総領事トモ論議ヲ尽シタル処ニシテ陳謝ノ問題ハ過去半年間自分ノ脳裡ヲ寸時モ離レズ苦心考慮ノ結果到達セル最後案ナリ之以外ニ良案ナシト主張シ譲歩ノ色見エサリシニ依リ本使ハ再ヒ元ノ難関ニ帰着セリト述ヘタルニ然リサレト此ノ難関ハ何トカシテ突

キ事件ヲ双方満足セシムル様解決スルハ不可能ナリ只茲ニ注意スヘキハ互ニ主張ヲ固持スルニ於テハ双方ノ激昂ヲ招クニ過キサルヲ以テ本件ノ円満ナル解決ヲ計ラシカ為ニハ（要カ）平衡ノ原則ニ從ヒ双方ヲ全然平等ノ地位ニ置クノ様アル事之ナリ

故ニ最善解決方法ハ共同声明ナリ支那ヨリ先ツ公文ヲ出シ日本側之ヲ受領シタル後回答ヲ發スルハ既ニ先後ノ差アリ平ヲ失ヒタルモノナルヲ以テ不可ナリ若シ日本ニ於テ共同声明ヲ不便トスル事情アラハ日本案ノ前半即チ惋惜ノ部分丈ヲ切り離シ全然同文ノモノヲ互ニ交換スルコトトシ何レヨリ先ニ出シ何レヨリ回答スト云フカ如キ差別ヲ付ケサル事トセハ後半ノ賠償ニ付テハ先ツ支那側ヨリ申出テ日本側ヨリ回答ヲ發スル事トスルモ差支ナシト述ヘタリ依テ本使ハ共同声明案ニハ賛成シ難シ内容ハ出来ル丈同様ニシ国民政府ノ面目ヲ立ツル様考慮スヘキニ付往復文書ノ形式ニ依リ度尚賠償ヲ切離ス事ニ付テハ強テ反対セサルモ賠償ハ相互平等ニ行フノ趣意ナルヲ以テ之ヲ第二項トシテ挿入スルコトハ第一項ノ陳謝ノ意ヲ緩和シ国民政府ノ面目ヲ立ツル所以ナリト思考セラル尚日本側回答案末段「右御来示ノ諸

破セサルヘカラス如何ナル方法ニ依リ解決スルモ非難セラ

ルハ已ムヲ得ス然レトモ公平ナル妥協案ハ之以外ニナキヲ以テ貴公使ニ於カレテモ此ノ案ニ就キ充分考慮セラレムコトヲ希望ス貴公使ハ支那在任既ニ久シク知己ヲ多ク有セラレ支那ノ事情ニ精通セラルル貴公使ヲ措キテ又誰カ此ノ難問題ヲ解決シ得ヘキ公使ノ御力ニ依リ田中總理ヲ動カサレンコト自分ノ切ニ翼^{（要カ）}フ所ナリト述ヘタリ依テ本使ハ考慮スルコトニ就テハ異存ナキモ斯ル形式ニ依リ本件ノ解決ヲ計ルハ我国内ノ状況ニ顧ミ殆ト望ナカルヘキヲ恐ル思フニ斯ル解決案ニ同意センカ政府ハ非当ナル攻撃ヲ受クルニ至ルヘシ然レトモ何トカシテ此ノ難関ヲ突破センコトハ自分モ均シク切望スル所ナルニ依リ更ニ互ニ考慮スルコトト致度シト述ヘタルニ王モ承知シ月曜（四日）ノ午後五時半更ニ会見スルコトニ取極メタルカ其ノ際王ハ火曜ニ行政院會議アルヲ以テ月曜ノ夜行ニテ帰寧ノ豫定ナルカ本件解決ノ望アルニ於テハ出発ヲ延期スルモ可ナリト附言セリ

（別電一）

第一二五号

（訳文）

中日兩國相互交換照會文

国民政府ハ濟南事件ノ發生カ中日兩國ノ友誼並ニ兩國国民日本国政府ノ民間ノ狀況ニ不良ナル影響ヲ及ホシタルニ鑑ミ深ク之ヲ遺憾ト為ス茲ニ双方ノ政府及国民間ノ友誼親善關係ヲ増進スル為本件ニ依リ發生シタル一切ノ事態ニ對シ日本国民政府ハ特ニ惋惜ノ意ヲ表示致候
此段照會得貴意候 敬具

（別電二）

上海 2月3日後發
本省 2月3日後着

第一二六号

（訳文）

共同声明案

ノ友誼ヲ増進セムト欲スルカ故ニ該事件ヲ速ニ解決スルノ準備ヲ有スルコトヲ声明スルノ光榮ヲ有シ候

茲ニ本部長ハ国民政府ノ名義ヲ以テ本事件ニ於テ其ノ軍隊等ノ行動ニ依リ日本国民ニ損害ヲ加ヘタルコトニ付極メテ誠懇ノ態度ヲ以テ貴国政府ニ向テ遺憾ノ意ヲ表示致候

尚該事件ニ依リ中日両国民ノ受ケタル身体上ノ傷害及財産上ノ損失ニ對シテハ中日両国人同数ヨリ成ル調査委員會ヲ組織シ実地調査ノ上両国民ノ受ケタル損害ニ對シ每件ニ付両国ノ賠償スヘキ数目ヲ査定スヘキ旨提議致候

（二）芳澤公使ヨリ王部長宛往翰案

以書翰啓上致候陳者本日附貴翰ヲ以テ客年五月三日發生セル濟南事件ニ関シ貴国政府ハ日支兩國伝来ノ友誼ヲ増進セムト欲スルカ故ニ該事件ヲ速ニ解決スルノ準備アル旨及該事件ニ於テ其ノ軍隊等ノ行動ニ依リ日本国民ニ損害ヲ加ヘタルコトニ付極メテ誠懇ノ態度ヲ以テ日本国民政府ニ向テ遺憾ノ意ヲ表示スルノ旨並ニ該事件ニ依リ両国民ノ受ケタル身体上ノ傷害及財産上ノ損失ニ對シテハ中日両国人同数ヨリ成ル調査委員會ヲ組織シ実地調査ノ

上海 2月3日後發
本省 2月3日後着

国民政府ハ客年五月中濟南ニ於テ發生シタル事件ニ對シ日本国民政府ハ友誼ヲ増進センコトヲ欲シ等シク速ニ茲ニ中日兩國伝来ノ友誼ヲ増進セムト欲シ等シク速ニ該事件ノ解決ヲ計ラントスル準備ヲ有スルカ故ニ特ニ濟南事件ノ不幸ナル發生ニ関シ之ニ依リ死亡シタル犠牲者ニ對シ兩國政府ハ兩國從來ノ友好關係ニ鑑ミ各誠懇ノ態度ヲ以テ惋惜ノ意ヲ表示スルモノナル事ヲ共同ニテ声明ス本事件ニ依リ中日兩國ノ受ケタル一切ノ損失ニ付テハ直ニ調査委員會ヲ組織シ兩國同数ノ委員ヲ任命シ現地ニ於テ之ヲ力調査ヲ為シ完全ナル調査ノ後双方ニ於テ之ニ基キ賠償ヲ為ス事トス

（別電三）

上海 2月3日後發
本省 2月3日後着

第一二七号

（一）王部長ヨリ芳澤公使宛来翰案

以書翰啓上致候陳者客年五月三日發生セル濟南事件ニ関シ本部長ハ茲ニ特ニ閣下ニ對シ国民政府ハ中日兩國伝来

上両国民ノ受ケタル損害ニ對シ每件ニ付兩國ノ賠償スヘキ数目ヲ査定スヘキ旨御申越諒承致候

本使ハ茲ニ帝國政府ニ於テハ右御来示ノ諸点ニ對シ全然同意ナル旨回答スルト共ニ本事件ニ於テ其ノ軍隊力在留日本国民ノ保護ノ為ト認メテ執リタル措置ニ依リ貴国民ニ損害ヲ与ヘタルコトヲ遺憾トスル旨附言スルノ光榮ヲ有シ候

339

昭和4年2月5日

在上海矢田總領事より
田中外務大臣宛（電報）

上海における芳澤・王第二回会談において陳謝は口頭で同時相互的に行い共同声明は事件に関する不快の感情を一掃する旨とすること
で落着の旨芳澤公使報告

別電一 二月五日發在上海矢田總領事より田中外務大

臣宛第一三四号

陳謝案

二 二月五日發在上海矢田總領事より田中外務大臣宛第一三五号

共同声明案

上海 2月5日前発
本省 2月5日後着

第一三三号

往電第一二四号及貴電第七〇号ニ関シ

芳澤公使ヨリ

四日午後六時ヨリ五日午前四時半迄十時間半ニ亘リ濟南事件ニ関シ王正廷ト討議シ時々議論ヲ戦ハシタル後意見ノ一致ヲ見タル点左ノ通

(一)陳謝ニ付テハ本使ヨリ前回ノ主張ヲ繰返シテ王ノ考慮ヲ求メタルモ先方ニ於テ到底譲歩ノ色無カリシヲ以テ結局口頭ニ依リ同時相互のに行フ事トシ議事録ニハ記載スルモ双方共一切公表セサル事トシ更ニ案文ノ協定ヲ進メタルカ王ハ口頭ニ依ルモ全然同一文句ナラサレハ承知シ難シトテ一步モ譲ラサリシニ依リ已ムナク別電第一三四号ノ如キ案文ニ落着キタリ

(二)共同声明ニ関スル案文ハ別電第一三五号ノ通意見ノ一致ヲ見タリ尤モ損害賠償ニ付テハ王ニ於テ放棄スルヲ肯セサリシニ依リ本使ヨリ帳消シトセム事ヲ提議スルニ於

テハ却テ我方ニ弱味アリト見ラレ面白カラサル結果トナルヘキヲ慮リ態ト執レニテモ差支ナシトテ同意シ共同調査委員会ヲ組織シテ実地調査ノ上日支双方ノ賠償スヘキ数目ヲ査定シ相互公平ニ賠償スルノ原則ヲ定メタルモ案文ハ決定ヲ見ルニ至ラス

(三)山東撤兵後ニ於ケル日本居留民ノ保護ニ関シテハ中央政府ヨリ省政府ニ日本人ノ保護勵行ニ関スル命令ヲ発シ右命令ヲ本使ニ送付スルコト並ニ撤兵前後ヨリノ日本人保護方ニ関シテハ王部長ノ説明ヲ議事録ニ記載スルコトニ取極メタリ

(四)排日及排貨ノ取締ニ付テハ王ニ於テ口頭ニテ誠意ヲ以テ取締ルヘキ旨並ニ中央党部ヨリ地方党部ニ取締ニ関スル密命ヲ発セシムヘキ旨陳述シ右ヲ議事録ニ記載スルコトニ妥結シタルモ案文ハ未タ決定セス

(五)山東鐵道ノ交通確保及同鐵道整理ニ関シ協同委員會設置ノ件ニ付テハ王ニ於テ頑強ニ反対シタルモ結局車輪^(輪カ)ヲ他線ニ流用セサル事及鐵道收入ハ専ラ鐵道自体ノ費用ニ充當シ剩餘ハ利払及元金ノ償還ニ充ツヘキ事ノ二項ヲ内容トスル命令ヲ鐵道部長ヨリ山東鐵道局長ニ發令シ右命

令ノ写ヲ本使ニ送付スルコトニ取極メタリ

(六)山東鐵道ニ於ケル日本人ノ職員ヲ増員スル件ハ王正廷カ同鐵道理事會ノ理事長タル資格ニ於テ之カ実行ヲ引受クル旨ノ陳述ヲ議事録ニ記載スルコトトセリ

(七)山東條約若ハ細目協定上ノ支那側義務ニシテ今日迄履行セラレサルモノニ付國民政府ヲシテ成ルヘク速ニ実行方ヲ約セシムル件ハ濟南事件ノ解決ト引離シ本使王部長間ノ公文交換ニ依リ解決スルコトニ妥結シタルモ案文ハ未タ決定セス

(八)前記各項纏マリタル後王ノ切ナル申出ヲ容レ本使ヨリ敵ニ秘密ヲ守ル様反覆言ヒ含メタル上撤兵期日ヲ明示セリ即チ濟南事件解決ニ関スル各種公文ノ交換、議事録ノ調印、賠償調査委員任命ノ通知等完了ノ時ヨリ起算シ二ヶ月以内ニ撤兵ヲ完了スヘキコト並ニ撤兵前後ニ於ケル措置ニ関シテハ兩國委員ヲ任命シ現地ニ於テ協商并理セシムルコトヲ述ヘタルニ王ハ当初期間ヲ一ヶ月ニ短縮方ヲ求メタルモ結局右案ニ全部賛成シタリ

約二ヶ月内ニ於ケル撤兵ノ実行方法トシテ撤兵ニ関スル準備期間約十日ノ後二週間内ニ全軍ヲ濟南ヨリ青島ニ引

揚ケ殘餘一ヶ月内ニ青島ヨリ引揚ケムコトヲ希望スト述

ヘタルニ付政府ニ傳達スルコトヲ^(ウ)丈ケハ差支ナシト述ヘ置キタル次第ナルニ依リ果シテ右ノ如キ案ノ実行不可能ナルニ於テハ致方ナキモ若シ可能ナルニ於テハ成ルヘク先方ノ希望ヲ容レラレ可然カト思考ス

尚王ハ五日朝赴寧七日頃再ヒ來滬ノ筈ニテ其ノ間周及崔ハ上海ニ留マリ未決定ノ案文ニ付非公式商議ヲ続クルコトニ決定シタリ

委細後電スヘキモ右不取敢

(別電一)

上海 2月5日前発
本省 2月5日後着

第一三四号

本部長(本使)ハ茲ニ國民政府(帝國政府)ノ名義ヲ以テ濟南事件ノ不幸ナル發生ニ対シ誠懇ノ態度ヲ以テ遺憾ノ意ヲ表示ス

本電ト同様転電セリ

(別電二)

上海 2月5日前発

本省 2月5日後着

第一三五号

共同声明案

日支両国政府ハ客年五月三日濟南ニ於テ発生セル事件カ両国民伝来ノ友誼ニ鑑ミ極メテ不幸、悲痛ノ出来事ナルヲ認ムルモ今ヤ両国政府及国民ハ切ニ友誼ノ増進ヲ望ムカ故ニ此ノ際該事件ニ伴フ不快ノ感情ヲ記憶ヨリ一掃シ將又將來両国国交ノ益々敦厚ナラム事ヲ期スル旨茲ニ声明ス

340 昭和4年2月5日

在上海矢田総領事より
田中外務大臣宛(電報)

濟南事件損害賠償に關し王外交部長提案の共同調査案に同意の旨芳澤公使報告

上海 2月5日前発
本省 2月5日前着

第一三六号

往電第一三三号ノ(二)ニ関シ

損害賠償ノ件ニ付テハ一月二十五日ノ会見ニ於テ本使ヨリ

日本側ノ損害ニ付テ日支共同調査員ヲ任命スルノ提議ヲ為シタルモ王ハ他ノ条件ト同様是亦相互主義ニテ兩國ノ損害ニ付共同調査員ノ任命方ヲ固ク主張シタル為之ヲ拒絕スヘキ理由モナキニ依リ同意ヲ表シタル次第ナルカ実ハ日支双方ノ損害額ヲ査定スル場合ハ支那側ノ損害遙カニ我方ニ超越セルコト勿論ノ儀ナルヘキヲ以テ本使ヨリ先以テ双方損害額ノ帳消シヲ提議スルニ於テハ必スヤ王ハ飽ク迄之ニ反對シ共同調査説ヲ主張シタルヘキコト明白ナル次第ニ付若シ幸ニ先方ヨリ帳消説ヲ提議スル場合ニ之ヲ応諾スルノ形式トナス方我方ノ立場上有利ト認メ其ノ含ミニテ応酬シ來レル処二月四日夜ノ會議ニ於テ共同声明及陳謝ノ形式討論ノ際偶々王ヨリ本問題ニ付本使ノ意嚮ヲ確メタルニ付我方トシテハ共同調査ニ異論ナキ次第ナルカ若シ部長ニ於テ帳消シヲ希望スルナラハ是亦異存ナシト答ヘタル処果シテ王ハ濟南事件ニ依リ発生シタル損害ハ莫大ニシテ被害者ヲ救済スルコトハ人道上ヨリ言フモ最モ望マシキ次第ニ付是非共共同調査委員ヲ任命シテ實地ニ就キ査定シタシト申出タルニ依リ本使ハ快ク之ヲ承諾シタル次第ナリ察スルニ支那

側ノ損害額ハ日本側ニ比シ遙カニ多額ニシテ我方ハ寧ロ

「マイナス」ノ地位ニアルコトヲ恐ラク日本人側ヨリ洩レタルモノモ有之ヘク王カ共同調査ヲ固執スルコトモ之等ノ事情ニ基因スルモノナルヘク果シテ然リトセハ我方ヨリ帳消論ヲ提議シテ王ニ拒絕セラレ濟南事件交渉ノ前途ニ對スル我方ノ地位ニ累ヲ及ホスヨリハ寧ロ共同調査論ニ賛成シ置ク方得策ニシテ殊ニ共同調査論ノ如キハ数千ノ支那側被害者ヲ一々取調ヘ最後ノ一人迄損害額ノ実数ヲ計上スルニ非サレハ総額ヲ確定スルコト能ハサルカ故ニ斯ノ如キハ事実ニ於テ徒勞ニ終ルヘキハ明白ノ儀ト思考シタルヲ以テ旁王ノ説ニ同意シ置キタル次第ニ付右ノ事情御含置ヲ請フ

341 昭和4年2月5日

田中外務大臣より
在上海矢田総領事宛(電報)

損害賠償共同調査案は問題を将来に残す故承認し得ざる旨芳澤公使へ訓令

本省 2月5日後5時25分発

第七六号

芳澤公使へ

貴電第一三三号ニ関シ

王部長トノ間ニ大体定メラレタル諸点ハ当方ニ於テモ大体異存ナク貴官御努力ノ程誠ニ多トスルトコロナルモ只損害賠償ノ点ヲ共同調査ニ委セラレタルハ問題ヲ將來ニ残ス所以ニシテ当方トシテハ同意シ難キトコロナリ
元來政府カ貴電第九一号所載第一案及第三案ヲ併用シタル方法ニ於テ本件ヲ解決スルコトニ決意シタルハ本件ヲ此際一氣ニ解決シテ本件ニ關聯スル諸問題ヲ兩國国民ノ記憶ヨリ一掃シ問題ヲ將來ニ残サザラムトスル主旨ニ出テタルモノニシテ賠償ノ点タリトモ之ヲ將來ノ決定ニ委スルハ貴電第一三六号御申越之次第ハアルモ全然此ノ主旨ニ反シ当方トシテハ遺憾ナカラ全然同意シ兼ナルトコロナリ就テハ右ノ次第御含ノ上此際双方ニ於テ処罰及損害賠償ヲ主張セス共同声明ニヨリテ之等一切ヲ解決スル様御交渉アリ度尚ホ本件解決ニ關シテハ其ノ發表方ヲ打合ハセ右以外ニ亘リテ彼是外部ニ説明スルコトハ双方ニ於テ敵ニ之ヲ避クル様御手配置相成度

342 昭和4年2月6日 田中外務大臣より
在上海矢田総領事宛(電報)

濟南事件解決共同声明案につき同声明による
事件解決の趣旨からの修正方芳澤公使へ訓令

本省 2月6日後4時発

*
第七九号

芳澤公使へ

濟南事件解決ニ関シ陳謝ハ双方ニ於テ之レヲ為スモ外部ニハ発表セス別ニ共同声明ヲ発スルコト、為シタルハ陳謝処罰損害賠償ニ付各自ノ主張ハ主張トシテ維持スルモ此ノ際必スシモ其ノ貫徹ヲ期セズ共同声明ニ依リテ淡白ニ一切ヲ解決スルコトヲ外部ニ対シ明カニセムトノ主旨ニ出デタルモノナル処貴電第一三五号共同声明案ハ陳謝、処罰、損害賠償ニ付各々別ニ解決ノ方法ヲ付ケ共同声明ハ単ニ該事件ニ伴フ不快ノ感情ヲ記憶ヨリ一掃スルコトヲ明カニスル建前ヨリ立案セラレタルモノナルヤニ思考セラレ当方ノ考ヘト多少相違スルニ付南京發貴電第九二号ノ案文ニ依ルカ若ハ「該事件」ヨリ「一掃シ」迄ノ部分ヲ「該事件ニ関スル一切ヲ其ノ記憶ヨリ一掃シ」ト改メ共同声明ニ依リテ事件

344 昭和4年2月6日 在上海上村総領事代理より
田中外務大臣宛(電報)

損害賠償共同調査案の否認は困難につき損害

帳消し案で纏めたき旨芳澤公使上申

上海 2月6日後発

本省 2月6日後着

*
第一四六号

芳澤公使ヨリ

貴電第七六号ニ関シ

損害賠償ノ問題ニ関シテハ本使東京出發ニ際シ受領セル御訓令中ニハ第一案トシテ「日支双方ノ損害賠償ノ問題ハ日支人同数ヨリ成ル共同委員ヲシテ調査セシメタル上之ヲ解決スルコト」トアリ但シ論議ノ模様ニ依リテハ彼我双方ノ損害ヲ帳消シト為スモ差支ナシトノ御趣旨ナリシニ付本問題ニ付テハ右何レノ方法ニ依リ解決スルモ政府ノ御方針ニ副フヘキモノト思考シ交渉ノ当初ヨリ往電第一三六号ノ態度ニテ討議ヲ進メタル次第ナリ

而シテ其ノ後南京ヨリノ請訓(往電第九〇号)ニ対シテハ貴電第七〇号ヲ以テ第一案及第三案ヲ併用スヘキ旨御回訓

ヲ解決スルモノナリトノ建前ヲ多少ナリトモ明白ナラシムル様御交渉アリ度シ

343 昭和4年2月6日 田中外務大臣より
在上海矢田総領事宛(電報)

濟南事件と同時に南京・漢口両事件解決方芳

澤公使へ訓令

本省 2月6日後6時25分発

*
第八〇号

芳澤公使へ

南京漢口両事件ニ付テハ客年十月矢田総領事王正廷間ノ交渉ニ於テ大ニ意見ノ接近ヲ見其ノ結果ニ対シテハ客年南京宛往電第一〇一号及第一〇二号並上海宛往電第六号ノ通り回訓シ置キタルハ御承知ノ通りナル処此ノ際濟南事件ノ解決ヲ見ルトセバ大体之ト類似ノ性質ヲ有スル右両事件ヲモ同時ニ解決スルコト日支関係改善ノ為ニモ將又議會等ヘノ説明ノ関係ヨリモ必要ナルニ付濟南事件解決ノ文書交換ト同時ニ右両事件解決ノ文書交換ヲモ行ヒ得ル様御交渉アリ度シ

ニ接シタルヲ以テ当方トシテハ出来得ル限り問題ヲ後日ニ残ササル考ニテ応酬セル次第ナルカ唯我方ニ於テ賠償問題ニ付弱味アルカ如キ態度ヲ示スコトハ極メテ不利ナリト考ヘ結局往電第一三三号ノ通解決シタル次第ナリ

就テハ此際御訓令ニ基ク旨ヲ以テ正面ヨリ之ヲ取消スハ甚タ面白カラサルノミナラス本使ノ得タル情報ニ依レハ支那側内部ニ於テハ双方ノ損害帳消シニ依ル解決案ニハ餘程強キ反対アル模様ニテ当方ノ目的ヲ貫徹スルコト頗ル困難ナル様思考セラルルニ付今後損害ノ共同調査ニ関スル公文案ヲ作成スルニ際シテハ今日迄支那側ハ兩國国民ノ損害ノミナラス公ノ財産ニ対スル損害ヲモ其ノ範圍ニ加ヘタシトノ希望ヲ申出テ居ルニ対シ当方ニ於テハ飽迄モ之ヲ個人ノ損害ニ限定スルコトヲ主張シ右双方ノ意見カ一致セサル場合ニハ本件ヲ帳消シトスルコトニ取纏ムル様努力スヘキモ前記ノ如キ支那側内情及交渉ノ経緯アルニ顧ミ其ノ成功ハ余程困難ト思ハルルニ付御含置キアリタシ

345 昭和4年2月7日 田中外務大臣より
在上海矢田総領事宛(電報)

損害賠償共同調査案には絶対譲歩できない旨
芳澤公使へ訓令

本省 2月7日後3時15分発

第八二号

芳澤公使へ

貴電第一四六号ニ関シ

前段交渉経緯ハ御申越ノ通りナルヘキモ右ハ貴電第九一号御稟請ニヨル新ナル方針ヲ執ル以前ノ交渉ナルヲ以テ此ノ交渉経緯ニヨリテ先方ヨリ束縛セラルコト無カルヘキハ当然ニシテ又賠償問題帳消シヲ主張スルハ我方弱味ヲ示ス虞アリト云フモ帳消シノ主張ハ問題ヲ後日ニ残ササル精神ニ出発セルモノナリトセハ先方ニ対シ堂々之レヲ主張セラレ何等差支ナシト思考ス

損害賠償ヲ共同調査ニ附スルト云フコトニテハ貴電第九一号第三条ノ主旨ハ全然没却セラレ損害賠償ニ関スル論議ハ日本軍カ山東撤去以後ニ残サルコトモナリ解決方法トシテ甚タ面白カラサルノミナラス対内関係ニモ非常ナル影響有ル次第ナレハ当方トシテハ遺憾ヲ讓歩ノ余地無ク若シ先方ニ於テ此ノ点ヲ強調スルニ於テハ当方ニ於テハ陳謝

ニ関シテハ貴官出發前ニ与ヘタル内訓ニ立戻ラサルヲ得サルコトナルヘシ当方ニ於テハ支那側カ陳謝ニ関スル我態度ノ硬化ヲ来シ惹イテ本件全体ノ解決ヲ再ヒ不能ナラシムルカ如キ結果トナルトモ尚損害賠償ニ関スル点ヲ固執スルモノトハ思考セラレス当方ニ於テハ貴官ノ立場ヲ諒トセサルニアラサルモ此点ハ如何ニシテモ譲歩シ兼ヌルニ付貴電第一四六号後段ノ如キ姑息ナル方法ニヨラス正面ヨリ政府ノ所見ヲ披露シテ先方ヲシテ我方主張ニ同意セシムル様御措置アリ度シ

346 昭和4年2月8日

在上海上村総領事代理より
田中外務大臣宛(電報)

芳澤公使南京・漢口事件に関し來滬の王外交

部長と交渉開始について

上海 2月8日後発

本省 2月8日後着

第一五四号

芳澤公使ヨリ

貴電第八二号及第八五号ニ関シ

屢次御來示ノ次第敬承実ハ本使ニ於テモ其ノ後考慮ノ結果本国政府ノ訓令ニ基ク旨ヲ以テ正々堂々賠償相殺案ヲ主張スルコトニ決心シ居レル次第ニ付御安心アリタシ
尚貴電第八〇号南京事件及漢口事件ニ関シテハ本使ニ於テモ濟南事件ニ関スル文書ノ交換若ハ調印ヲ為スニ先立チ交渉ヲ取纏メタキ所存ニテ実ハ先ニ四日ノ会見ニ於テモ王正廷ノ再ヒ來滬スルヲ待チテ更ニ兩三回会見ノ上南京ニ赴ク事ニ打合せ置キタル次第ナルカ王ハ本八日來滬シタルヲ以テ愈本日午後三時ヨリ会見ノ事トセリ不取敢

347 昭和4年2月9日

在上海上村総領事代理より
田中外務大臣宛(電報)

損害帳消し案に対し王外交部長依然相互賠償を

主張し交渉決裂の状況に関する芳澤公使報告

上海 2月9日前発

本省 2月9日前着

第一五六号

往電第一五五号ニ関シ

芳澤公使ヨリ

四日本使ト王正廷トノ間ニ於ケル濟南事件解決ニ関スル話合ニ基キ堀内等ヲシテ六日及七日ノ兩日ニ亘リ周及崔ト案文ノ作成ニ当ラシメ大体下相談ヲ終リタル処八日朝王正廷來滬シタルニ依リ午後三時其ノ私宅ニ於テ会見ス本使ハ先ツ南京及漢口事件ヲモ濟南事件ト同時ニ解決スヘシトノ我方主張ヲ述ヘ濟南事件ノ解決ヲ遷延セサル限リ右兩事件ヲモ討議スヘキ事ニ諒解ヲ遂ケタル後話頭ヲ濟南事件ニ転シ前回ノ会合ニ於テ賠償問題ニ関シテハ本使ハ一応日支共同委員会ヲシテ現地ニ於テ日支兩國国民ノ損害ヲ調査セシメ相互公平ニ賠償スルコトニ賛成シタルカ今般政府ヨリ訓令アリ四日ニ於ケル本使ト貴部長間ノ話合ハ大体政府ノ認ムル処トナリタルニ拘ラス只賠償問題ニ関スル右ノ話合ニハ絶対ニ同意シ難キニ付此ノ際双方ノ損害ヲ帳消トナシ以テ一切ノ解決ヲ了シタル事トスヘシトノ事ナリ從テ賠償ニ関スル話合ヲ変更スル以上共同声明案ノ字句ニ付テモ些少ノ修正ヲ要スル事トナリタリ元來賠償ニ付テハ本使ハ当初日本側ノ損害賠償ヲ要求シタルニ依リ貴部長ヨリ相互的ニ賠償スヘキ旨ノ對案ヲ提出シタルヲ以テ一応異存ナキ旨答ヘ置キタルカ陳謝問題ニテ非常ナル難関ニ陥リ本交渉モ決裂ノ

已ムナキニ至ル虞アリタルヲ以テ我方ニ於テ非常ナル讓歩ヲ為シ陳謝ニ付テハ相互ノ責任問題ニ触レシテ互ニ不幸ナル事件ニ付遺憾トスル旨ヲ表示シ以テ此ノ不幸ナル事件ヲ一氣ニ解決シ速ニ兩國国交ノ障礙ヲ除去セントノ案ヲ立テ政府稟請ノ結果其ノ同意ヲ得タル次第ナリ然ルニ日本政府ニ於テハ損害賠償問題ノミ後日ニ残スコトナラハ賠償スヘキ損害ノ範圍及種類ニ付意見ノ一致ヲ見難ク爭フ後日ニ貽ス虞アルノミナラス理論上ヨリ謂フモ本事件ノ責任ヲ問ハサルコトトシ乍ラ賠償ニ付テノミ日支双方ニ於テ責ヲ負フノ謂レナシ依テ此ノ際ハ互ニ一切ノ問題ヲ水ニ流シ賠償ヲモ為ササルコトトシ共同声明ニ於テモ一切ノ問題ヲ相互ニ其ノ記憶ヨリ一掃スヘキ旨声明スルコト兩國ノ親善關係ヲ増進スル所以ニシテ最良ノ解決案ナリト思考ス右訓令ハ日本政府ノ固ク執テ動カサル処ナルニ依リ貴部長ニ於テモ同意セラレンコトヲ希望スト述ヘタルニ王ハ濟南事件ノ責任ヲ論スルニ於テハ到底解決スルヲ得サルヲ知リタルカ故ニ解決案ニ於テハ責任ニ付一言モ言及セス過去ハ一切忘ルルコトトシタル次第ナルカ賠償ハ事實問題ナリ責任ヲ論セストモ現実ノ損害ハ之ヲ賠償スヘキコト当然ナリ本事件

ノ犠牲者ヲ其ノ儘ニシ置クカ如キハ人道ニ上ヨリモ不可ナリト述ヘタルニ依リ本使ハ責任アルカ故ニ賠償スルモノニシテ既ニ責任ヲ論セサル以上賠償ノ責任ヲモ免ルヘキ筋合ナリ而シテ兩國国民ノ損害ニ對シテハ夫々ノ政府ニ於テ適當ナル措置ヲ採ラハ可ナルヘク斯ノ如キハ兩國随意ニ決定スヘキ問題ナリト弁駁シタルモ王ハ日本政府ノ懸案解決方針ハ常ニ動搖シテ定マル処ナシ茲ニ再ヒ解決不可能ノ狀態ニ陥レリトテ絶望ノ口吻ヲ洩シタルカ一時休憩ノ後本使ハ更ニ賠償ヲ後日ニ残スコトカ理論上ヨリ云フモ事實上ヨリ見ルモ累ヲ後日ニ残ス所以ニシテ採用シ難キ次第ヲ反復説明シタル処王ハ日本政府ハ曩ニ矢田總領事トノ話合ヲ取消シ今又全權タル貴公使トノ話合ヲ取消サムトス一度定マリタル原則ヲ動カスコトハ絶対ニ同意シ難シ況ヤ濟南事件ニ依ル支那側ノ損失ハ遙ニ日本側ニ勝ル外交官タル蔡公時以下死傷頗ル多ク損失莫大ナリ責任ハ問ハサル事トスルモ事實問題トシテ損害賠償ヲ為サシメン事国民政府当初ヨリノ方針ナリ然ルニ今トナリ此ノ原則ヲ覆ス事ハ絶対ニ不可能ナリト述ヘタルニ依リ本使ハ我方ノ訓令ニ依レハ本件ニ付テハ絶対ニ讓歩ノ餘地無キモ貴方ニ於テ再考ノ餘地無キヤト念ヲ

押シタルニ王ハ絶対ニ再考ノ餘地ナシト答ヘタルヲ以テ然ラハ本日ハ兎モ角之ニテ辞去スヘシト述ヘ立上リ新聞記者等ニハ如何ニ發表スヘキヤト相談シタル処王ハ事實ヲ有リノ儘語ラント述ヘタルヲ以テ本使ハ或ハ尚双方ニテ考量セハ此ノ難関ヲ打開スル妙案出テストモ限ラス敢テ交渉決裂ノ發表ヲ急ク要モ無カルヘシ難問題ニ遇ヒ一兩日考量スルコトトナレリ位ニ發表シ置ク方可ナラスヤト論シタルモ王ハ一兩日考慮スルモ結局無効ニ終ルヘキ懼アルヲ以テ寧ロ此ノ際事實ヲ明カニ公表スルニ如カスト主張シ双方押問答ヲ重ネタル末兎モ角大体前記本使提案ノ趣旨ニテ發表スルコトニ打合セタルカ王ハ日本側ニテ損害ノ共同調査ノ主義ヲ維持セラレ局面打開ニ付何等カ名案ヲ見出サルルニ於テハ何時ニテモ交渉ヲ継続スヘシト附言セリ

348

昭和4年2月9日

田中外務大臣より
在上海上村總領事代理宛（電報）

陳謝・賠償問題の交渉振りを遺憾とし共同声明による陳謝・処罰・賠償の一括解決方芳澤公使へ訓令

第九二号

本省 2月9日後4時45分発

芳澤公使へ

貴電第一三三三号ニ関シ

賠償問題ヲ共同調査ニ附スルノ件ニ関シテハ不取敢往電第七六号及第八二二号ヲ以テ申進シタル通ナル処陳謝ニ関シテモ重要ナル点ニ於テ往電第七〇号訓令ノ次第ト相違シ居ル所アリ即チ南京發貴電第九一第一号一案ハ相互ニ口頭ヲ以テ遺憾ノ意ヲ表スルコトトシ其ノ口頭陳述ノ内容ハ豫メ打合ノ上議事録ニ記述スルモ双方トモ一切之ヲ公表セサルコトトナリ居リ而シテ其ノ口頭陳謝ノ内容ニ付テハ内訓ノ趣旨ヨリモ文句ヲ和ラケ例ヘハ先方ヨリノ陳述内容ハ不幸ナル出来事ニ對シ遺憾ノ意ヲ表ストカ又ハ日本人ノ生命財産ニ對シ与ヘタル損害ニ付遺憾ノ意ヲ表ストカ言フ程度ニ改メ日本側ノ陳述内容モ例ヘハ日本軍隊カ邦人保護上必要ト認メテ執リタル措置ニ依リ支那人ノ生命財産ニ損害ヲ及ボシタルコトヲ遺憾トスト言フ程度迄讓歩スル要アリトノ御意見ナリシナリ依テ政府ニ於テハ審議ノ結果仮令公表セサル迄モ一応ノ別目ヲ附ケ置クコト必要ニシテ又口頭陳謝ノ文

ハ賠償問題ニ関シテハ共同調査案ト帳消シ案ノ何レニ依ルモ可ナルヤノ印象ヲ得居タル為四日夜ノ会見ニ於テハ往電第一三六号段ノ考慮ヨリ共同調査案ニ同意シタル次第ナルカ賠償問題並陳謝問題ニ関シ御訓令ノ趣旨ニ副フ様解決シ得サリシコトハ本使ノ誠ニ遺憾トスル所ナリ唯陳謝ノ点ニ付テハ貴電第九二号前段御来示ノ次第ハ一応御尤ナルモ四日夜ノ会見ノ結果ニ関スル往電第一三三三号報告ニ対シ翌五日直ニ貴電第七六号ヲ以テ本使ト王正廷トノ間ニ大体定メタル諸点ハ損害賠償ヲ除キテハ貴方ニ於テモ大体異存ナキ旨御垂示ニ接シタルニ拘ラス更ニ三日ヲ経テ八日夜ニ至リ始メテ陳謝ノ点ニ付テモ閣内ニ異論アル旨ノ豫報（貴電第九〇号ハ八日午後ノ会見後ニ接到セリ）アリ続テ貴電第九二号ヲ以テ陳謝ニ関スル御否認相成タル次第ナルカ申迄モナク陳謝及賠償等ノ条件ハ相関聯シテ論議シ居ルニ拘ラス斯ノ如ク数日ニ亘リテ段々ニ御電訓アリタル為交渉上甚タシク支障ヲ来スノミナラス一旦御承認アリタル事柄ヲ後ニ至リテ否認セラルルニ至リタルハ本使ノ遺憾ニ存スル所ナリ実ハ八日午後ノ会見ニ於テ本使ヨリ賠償問題ニ関シ共同調査案取止メノ交渉ヲ為スニ当リ日本政府ニ於テハ前回会

議ノ結果ニ対シ其ノ他ノ点ニ付テハ大体同意ヲ与ヘラレタル趣ヲ告ケ損害帳消案ノ承諾ヲ求メタル行懸アリ王ハ其ノ時既ニ賠償問題ニ付テ我方ノ態度變更ニ対シ深ク疑惑ヲ抱キ反对シタルニ次回ノ会見ニ於テ本使ヨリ陳謝問題ニ関シテモ再ヒ御訓令ニ基ク旨ヲ以テ前ノ態度ヲ翻スニ於テハ王ハ又復我方ノ変節ヲ責メ益々疑惑ヲ深クシ貴電第九二号末段ノ陳謝打切案ニモ容易ニ同意セサルヘキヲ恐ル將又賠償問題ニ関シテモ往電第一五五号及第一五六号所報ノ如ク王ハ共同調査案ヲ強硬ニ維持シ居ル処其ノ後ノ情報ニ依ルモ右ハ既ニ昨年国民政府ノ確定シ居タル方針ナルカ如ク今回モ四日夜ノ会見後王ハ南京ニ帰り政治會議及外交委員會ニ報告ノ上其ノ承認ヲ得タル趣ナレハ今後幾度論議ヲ重ヌルモ損害帳消案ニ同意セシムル事ハ到底見込ナシト存ス以上ノ如キ事情ニ鑑ミ此ノ際難局打開ノ為本使ノ考フル解決案ハ損害共同調査ノ案ヲ其ノ形ニ於テ維持スルト同時ニ出来得ル限り我方ノ面目ヲ保チ得ル趣旨ニ改メ且損害調査ノ範圍ヲ極力制限スルニアリト思考ス即チ例ヘハ

日支両国民中ノ犠牲者ニ対シ互ニ慰藉金ヲ与フルモノナル旨ヲ明記スルコト

第二、從テ右委員會ニ於テ調査スヘキ損害ノ範圍ハ日支両国民タル個人（日支双方ノ軍隊並ニ支那便衣隊ヲ含マス）ノ人的及物的損害ニ限定シ公共財産ノ如キモノハ一切之ヲ除外スヘキ旨ヲ右議定書ニ明記スルコト（賠償スヘキ損害ノ種類及範圍ニ関シテハ今日迄未タ王トノ間ニ何等決定シタル処ナク全然白紙ナリ）

第三、共同声明中ニハ「該事件ニ依ル両国民ノ犠牲者ニ對シテ夫々慰藉ノ途ヲ講シ該事件ニ伴フ一切ヲ其ノ記憶ヨリ一掃シ」云々ト記載スルコト

第四、陳謝ノ点ニ関シテハ貴電第九二号後段ノ如ク之ヲ全ク打切リトナスコト

以上ノ案ヲ採用スル場合ニ於テモ公平ニ彼我損害ヲ比較スレハ結局我方ヨリ相当額ノ支出ヲナスコトナルヘキモ責任問題ヲ離レ慰藉ノ名義ヲ以テスル時ハ我体面上賠償名義ヨリハ可ナルヘク一面王正廷ハ從來損害賠償共同調査案ニ関シテハ往電第一五五号所報ノ如ク（一）責任問題トハ引離シ（二）事実問題トシテ調査シ（三）人道的見地ヨリ処

理スルコトノ三点ヲ主張シ居ルニ付我方ヨリ之ヲ促ヘテ前記ノ如キ解決案ヲ提議スルニ於テハ成否ハ勿論豫断シ難キモ今後尚交渉ノ餘地アルヘキヤニ思考ス而シテ我方ニ於テ損害共同調査案ニ立帰ル場合ニハ陳謝ノ点ニ付テモ王ヲシテ打切案ニ同意セシメ得ヘキ可能性アリト存ス之ヲ要スルニ本使ノ見ル処ヲ以テスレハ日支關係ノ大局ヨリ見テ此ノ際濟南事件ノ解決ヲ計ルコトハ極メテ急務ト考ヘラルル処今日迄ノ交渉經過ニ顧ミ前記ノ案ニ依ルノ外差向キ解決ノ方策ナキヲ信スルカ故ニ至急御詮議ノ上何分ノ儀更メテ御回訓相成度ク貴電第九二号後段ノ御趣旨ニテハ本使ノ微力ヲ以テシテハ遺憾ナラ此ノ際到底解決ノ見込ナキニ付御含置キヲ請フ尚王正廷ハ今十一日夜行ニテ帰寧ノ豫定ニ付兎モ角当方ノ考慮ニハ尚数日ヲ要スヘキ旨王ヘ申入レ置ク積ナリ

350

昭和4年2月16日

田中外務大臣より
在上海上村総領事代理宛（電報）

やむを得ざる場合損害賠償共同委員會設置に
同意方芳澤公使へ訓令

別電 二月十六日発田中外務大臣より在上海上村総

領事代理宛第一〇二号

共同委員会設置の条件

付記 二月十三日付

芳澤公使の請訓に対する陸軍省意見

本省 2月16日後8時6分発

第一〇一号

芳澤公使へ

貴電第一五七号ニ関シ

貴官ノ困難ナル立場ハ当方ニ於テモ充分之ヲ諒トスルモ謝罪、処罰、賠償ノ三点ヲ強キテ主張セサルコトトシテ解決セムトスル我方主張ノ理由其ノ他ニ付テハ累次ノ往電ニ詳ナル通りニシテ世界公論ノ前ニモ何等恥ツル所無ク極メテ公正ナル解決方法ナルニ拘ラス支那側ガ隨テ得テ蜀ヲ望ムノ態度ニ出テ問題ヲ後日ニ残スカ如キ損害共同調査ヲ固執シテ濟案解決ヲ遅延シ若クハ之ヲ決裂ニ導クモ辞セサルカ如キ態度ヲ持スルハ支那側ニ於テ本件ヲ解決スル誠意アリヤヲ疑ハシムルモノナリ加之貴官ノ王正廷ニ与ヘタル一応ノ意見表示カ政府ノ賛認ヲ得サル限り確定的ノモノタラサ

アラサルカ故ニ貴官ニシテ若シ右ノ如キ諒解ヲ何等カノ形式ニ於テ取付ケ得ヘシトノ御見込ナルニ於テハ別電第一〇二号ノ主旨ニ依リ共同委員会設置方ニ付交渉ヲ進メラレ差支ナシ

（別電）

本省 2月16日後8時10分発

第一〇二号

芳澤公使へ

（一）共同委員会設置ニ関スル議定書中ニ於テ「日支両国民中ノ犠牲者ニ対シテハ人道ノ見地ヨリ相当救恤ノ方法ヲ講スルコト必要ナルヲ以テ責任問題ヲ離レ共同委員会ヲ設ケテ其ノ損害ノ事実ヲ調査シ併セテ救恤ノ方法ヲ研究スルモノナル」旨及「右委員会ニ於テ調査スベキ損害ノ範圍ハ日支両国民タル個人ノ人的及物的損害ニ限定シ日支双方ノ軍隊、支那便衣隊、公共若クハ官有ノ財産損害ヲ含マサル」旨ヲ明記スルコト

（二）何等カノ形式ヲ以テ「二ヶ月以内ニ調査完了セサルトキハ犠牲者ノ救恤ハ各自国政府ニ於テ其ノ適当ト認ムル方

ルヘキハ王ト雖承知セサルヘカラサルニ貴官一応ノ意思表示ヲ言質トシテ飽ク迄モ日本政府ノ譲歩ヲ強要セムトスルハ諒解ニ苦ム所ナリ政府ガ貴電第九一号第三案ニ依リ濟案ヲ解決スルヲ必要トシタルハ若シ濟南事件ニ関聯スル問題ノ跡仕末ヲ仮令一部分タリトモ後日ニ残スニ於テハ場合ニ依リテハ国民党部ノ悪用スル材料及ハ機会トモナリ而モ撤兵後此ノ種ノ紛糾ガ起ルコトアリトスレバ政府ノ立場ハ極メテ面白カラサルコト、ナルヘキヲ思ヒ問題ヲ一切後日ニ残サシラムコトヲ欲シタルニ由ルモノニシテ支那側其ノ後ノ出方ヲ見ルニ益々此ノ感ヲ強フスルモノアリ殊ニ万一決裂スル場合ニ於ケル我方立場ヲ考慮スルトキハ尚更貴電第九一号第三案ニ依ル解決ヲ主張スルヲ有利ト信スルニ付此ノ際是非共往電第九二号ノ主旨ニ依リ解決方御努力アリ度然レトモ貴官ノ御努力ニ拘ラス万一王正廷ニ於テ飽ク迄共同委員会ノ設置ヲ固執シテ譲ラス而カモ共同委員会ヲ設クルモ犠牲者ニ対スル救恤ハ各自国政府ニ於テスルコトノ主義ヲ日本軍山東撤去前ニ日支双方ニ於テ確定シ置キ得ルモノナラバ決裂ヲ防ク大局ノ見地ヨリ此ノ際支那側ノ事情ヲモ考慮ニ加ヘ共同委員会ノ設置ニ必スシモ反対スルモノニ

法ヲ執ルコト、ナスニ異議ナキ」旨文書ニテ秘密諒解ヲ遂ケ置クコト右二ヶ月ノ期限ハ撤兵期限ニ相応セシメタルモノニテ委員会ヲ撤兵後迄存置セシメストノ主旨ニ出テタルモノナリ

（三）陳謝問題ハ全然打切ルコトヲ必要トス

（四）共同声明ノ文句ハ往電第七九号ニテ申進シタル案文ヲ変更スルコト無キコト（共同委員会ハ単ニ人道ノ見地ニ基キ犠牲者ニ対スル救恤ノ方法ヲ研究スルニ過キサル次第ナルヲ以テ陳謝、処罰、賠償ノ三問題ハ共同声明ニ依リテ解決スルモノナリトノ建前ハ毫モ之ヲ変更スル必要ナキノミナラス貴電第一五七号所載ノ如キ文句ヲ声明中ニ挿入スルコトハ面白カラサルニヨル）

（付記）

昭和四、二、一三

陸軍省

芳澤公使ノ請訓ニ対スル意見

賠償ニ関シテハ政府ノ決定ニ対シ軍部トシテハ特ニ意見ヲ挟マサル方針ナルモ共同調査委員ヲ設ケ損害発生ノ原因ニ関シ彼我对等ノ觀念ヲ以テ調査ヲ行フニ於テハ事実帝国ノ

支払フヘキ負担額ハ遙ニ支那側ノモノニ比シ超過スヘキカ故ニ形成ノ如何ニ拘ラス責任ハ軍部ノ行動ニ帰スルヤノ觀ヲ呈シ内外批難ノ的トナルナキヲ保セス故ニ本件ヲ処理セラルルニ当テハ本問題ヨリ生スル将来ノ餘波ヲ充分考慮セラルコト必要ナラン以上ノ見地ヨリ共同調査及慰藉金支払ノ問題ハ可成之ヲ打切ルヲ可ナリト信スト雖モ政府交渉ノ行懸上已ムヲ得サルニ於テハ尠クトモ芳澤公使提案ノ四項中第三ノ共同声明中犠牲者ニ対スル慰藉ノ件ハ之ヲ明記セサルヲ可トセム尚ホ第四ノ陳謝相殺ノ点ニ就テハ同公使案ノ通り

尚戦闘行動ニ基キ発生セル犠牲者ニ対シ慰藉金ヲ支払フコトハ我国ニ於テハ前例ヲ見サルノミナラス常ニ此ノ如キコトヲ認ムルニ於テハ正当ナル軍ノ作戦行動ヲ拘束スルノ結果ヲ生スルモノト認メラルルニ付特ニ慎重ナル研究ヲ要スルコトト信ス

351 昭和4年2月17日

在上海上村総領事代理より
田中外務大臣宛（電報）

損害賠償共同委員会設置条件に關し芳澤公使

又貴電第一〇二号ノ（二）ニハ「二個月以内ニ調査完了セサル時ハ」云々トアリテ二個月以内ニ調査完了スル場合ノ措置ニ付何等言及無キヲ以テ恰モ（一）二個月以内ニ調査完了ノ場合ニハ犠牲者ノ救恤ハ各自国政府ノ自弁トセス寧ロ損害ヲ多ク与ヘテル方ヨリ救恤スルモノトシ（二）二個月以内ニ調査完了セサル場合ニハ各自国政府ノ自弁トスルコトニ今日ヨリ了解ヲ遂ケ置クノ御趣旨カトモ解セラレサルニ非ス就テハ右ノ点ニ付何分ノ儀改メテ御回電相成度シ次ニ貴電第一〇一号前段ニ関シテハ懇々御垂示ノ御趣旨ハ本使ノ充分了解スル処ナルモ累次電報ノ如ク此ノ案ニテハ到底支那側ノ同意ヲ取付クル見込無キカ故ニ妥協ハ豫断シ難キモ結局右貴電後段ニ依リ妥協ヲ試ミルノ外無キ事ト豫想セララルル処右交渉ノ段取ニ関シテハ本使ノ裁量ニ依リ右二案ヲ同時ニ提出シテ何レカニ一話ヲ纏ムル様交渉スルモ差支無キ事ニ豫メ御承認置相成度シ尚王正廷ハ明十八日夜行ニテ帰寧ノ豫定ナルニ付兎モ角当方トシテハ夫迄ニ会见ノ運ニ至リ兼ヌル旨通シ置ケリ

確認について

上海 2月17日後発
本省 2月17日後着

* 第一七一号

芳澤公使ヨリ

貴電第一〇一号拝承同電後段及貴電第一〇二号ヲ綜合スルニ我方最後案ハ共同委員会ハ設置スルモ右ハ単ニ外観上設置後二箇月間双方ノ損害ヲ為シ犠牲者救恤ノ方法ヲ研究スルノ風ヲ装フノミニテ其ノ実ハ何等決定ヲ為サスシテ右期間ノ経過ト共ニ同委員会ヲ廃止シ結局双方ノ損害ハ各自国政府ニ於テ適宜救恤スルコトノ諒解ヲ濟南事件解決条件調印ニ当リ確定シ置クヘシトノ御趣旨ト解セラレ即チ換言スレバ形ニ於テ共同調査会案ヲ執リ実ハ損害棒引キノ諒解ヲ豫メ遂ケ置クヘシトノ御趣旨ト解セラルル処只前記貴電ノ文面ヨリスレバ其ノ点ニ付必スシモ明白ナラサル節アルヤニ思ハル即チ貴電第一〇一号後段中ニ「犠牲者ニ対スル救恤ハ各自国政府ニ於テスルコトノ主義ヲ日本軍山東撤兵前ニ日支双方ニ於テ確定シ置キ得ルモノナラハ」云々トアリ（單ニ山東撤兵前トアルモ右ハ撤兵完了前ノ意ト解ス）

352 昭和4年2月18日

田中外務大臣より
在上海上村総領事代理宛（電報）

共同調査委員会設置条件について芳澤公使宛

回答

本省 2月18日後6時30分発

* 第一〇七号

芳澤公使ヘ

貴電第一七一号ニ関シ

（一）往電第一〇一号後段中ニ「山東撤兵前」トアルハ御来示ノ通り「撤兵完了前」ノ意ナリ

（二）往電第一〇二号ノ（二）ノ主旨ハ貴電第一七一号前段御推察ノ通り撤兵期間タル二ヶ月ノ期間ノ経過ト共ニ若クハ経過前適當ノ機会ニ共同委員会ヲ廃止シ結局双方ノ損害ハ各自国政府ニ於テ適宜救恤スルコトノ諒解ヲ濟南事件解決条件調印ニ当リ確定シ置クヘシトノ趣旨ナリ而シテ往電第一〇二号（二）ノ文句中「二ヶ月以内ニ調査完了セサル時ハ」トアリタル為恰カモ調査完了スル場合アルコトヲ豫想セルカ如ク想像セラレタルカ如キモ当方ニ於テハ決シテ右ノ如ク完了スル場合アルコトヲ豫想シタルニアラス、只

形式上タケナリトモ共同委員会ノ設立ヲ認メタル以上ハ之
ト同時ニ右委員会ノ設置ト全然相容レサルカ如キ諒解ヲ為
サシムルコトハ支那側ノ極メテ困難トスル所ナルヘキヲ思
ヒ適當ノ期間ノ經過スルヲ待チ共同委員会ノ調査完了セサ
ルヲ口実トシテ犠牲者ノ救恤ハ各自国政府ニ於テ之ヲ為ス
コトヲナサムトシタルモノナリ

(二) 往電第一〇一号所載前段ノ案及後段ノ案ノ關係ニ付テ
ハ當方トシテハ先ツ前段ノ案ノ貫徹ヲ期シ右貫徹不能ノ場
合ニシテ而モ後段ノ案ナラハ先方ヲ承諾セシメ得ヘシトノ
貴官ノ御見込アル場合ニハ後段ノ案ニ依リ交渉セラレ度ク
又後段ノ案ヲ提出スルモ全然見込無シトノ貴官ノ御見込ナ
ル場合寧ロ前段ノ案（即チ貴電第九一号所載第三案）ノミ
ヲ主張シ後段ノ案ハ全然提出セサル方有利ナリトノ意見ナ
ルモ貴電第一七一号後段ノ如ク往電第一〇一号前段ノ案ニ
テハ到底支那側ノ同意ヲ取付クル見込無キ一方後段ノ案ナ
ラハ妥協ハ豫斷シ難シトスルモ必スシモ全然見込無シト云
フ次第ニモアラストノコトナラバ此ノ際二案ヲ前後シテ提
出スルカ同時ニ提出シテ何レカニ話ヲ纏ムル様交渉スル
カハ一ニ貴官ノ裁量ニ一任スヘシ

モ日本側ニテ交渉再開ノ準備成ラハ一兩日滞在ヲ延ハスモ
差支ナキ旨申出アリタルカ貴電第一〇七号ハ昨十八日夜遅
ク接到シタル為王ハ貴方トノ聯絡ノ為、周、崔兩名ヲ殘シ
豫定通出發セリ王ハ二十二日頃再ヒ來滬ノ豫定ナルニ依リ
本使ハ其ノ際會見シテ御訓令ノ趣旨ニ依リ濟南事件ノ解決
方ニ付最善ノ努力ヲ試ムヘキモ若シ不幸ニシテ妥協成立セ
ス交渉決裂ニ至ルカ如キ場合ニハ自然日支兩國ノ關係ニ重
大ナル影響ヲ及ボスヘキ処支那側ハ必スヤ交渉ノ内容ヲ都
合ヨク作為シテ發表シ恰モ決裂ノ責專ラ日本側ニアルカ如
ク宣傳スルニ努メヘク之ニ對シ我方ニ於テ若シ簡單ニ決裂
ノ事實ノミヲ公表スルニ止ムルトキハ如何ニモ我ニ何等カ
疾シキ点アルカ如キ印象ヲ外観ニ与ヘ内外新聞等ニ對シテ
モ帝国政府ノ立場ヲ極メテ不利ナラシムルノ懼アリト思ハ
ル就テハ交渉決裂ノ場合ニハ政府ニ於テ之カ願末ヲ適宜發
表セラルルト同時ニ本使ニ於テモ豫メ「ステートメント」
ヲ用意シ置キ會見終了後直ニ發表スルコトトナシ而シテ其
ノ内容ハ會見ノ模様ニ依リ或ハ幾分變更ノ必要ヲ生スルコ
トアルヘキモ大体別電第一七八号ノ如キ案ニ依ルコトト致
度ク何分ノ儀至急御回訓ヲ請フ

(四) 尚當方ニ於テハ濟南事件ニ付相互ニ責任問題ヲ論セス
トスレハ賠償問題ノ起リ様無ク單ニ氣ノ毒ナリトノ感情ヨ
リスル救恤ノ問題カ殘ルノミナリトノ見地ニ基キ凡テ立論
シ居ル次第ニテ勿論貴官ニ於テモ右ノ如ク御諒解ノコト、
信スルモ為念申添フ

353 昭和4年2月19日 在上海上村總領事代理より
田中外務大臣宛(電報)

濟南事件解決交渉決裂の場合の声明準備に關
する芳澤公使意見具申

別電 二月十九日發在上海上村總領事代理より田中
外務大臣宛第一七八号
交渉決裂の際の声明案

上海 2月19日後發
本省 2月20日前着

* 第一七七号

芳澤公使ヨリ

往電第一六五号ニ關シ

其ノ後王正廷ヨリ自分ハ十八日ノ夜行ニテ帰寧ノ豫定ナル

(別電)

上海 2月19日後發
本省 2月20日前着

* 第一七八号

芳澤公使ヨリ

帝国政府ハ日支兩國間ニ蟬ル不幸ナル諸懸案ヲ解決シ速ニ
兩國國交ヲ軌道ニ復セシム事ヲ切望シ今回特ニ本使ヲ當
地ニ派遣シタル次第ニシテ本使ハ去月下旬ヨリ南京及當地
ニ於テ屢々王部長ト會見シ右ノ如キ帝国政府ノ要望ヲ達成
スルノ第一歩トシテ先ツ日支間ノ最大難関ト目サルル濟南
事件ノ解決ヲ計ラム事ヲ試ミタリ本使ハ終始誠意ト忍耐ヲ
以テ折衝シ又我方ノ提示セル解決条件ハ極メテ公正寛容ニ
シテ一ニ兩國友誼ノ保持ニ立脚セルモノタリ即チ本使ハ政
府ノ意ヲ体シ當初濟南事件ニ付支那側ニ對シテ陳謝処罰賠
償及將來ノ保障ヲ要求シタルモ後ニ至リ支那ノ政情ニ同情
シ寛大ナル態度ヲ以テ陳謝処罰及賠償ニ關スル我方ノ要求
ヲ打切ル事トシ同時ニ日支兩國政府ヨリ共同声明ヲ發シ本
事件カ兩國傳來ノ友誼ニ鑑ミ極メテ不幸非痛ノ出来事ナル
ヲ認ムルモ今や兩國ノ政府及國民切ニ友誼ノ増進ヲ望ムカ

故ニ該事件ニ伴フ諸問題ヲ其ノ記憶ヨリ一掃シ益々兩國
交ノ増進ヲ期スルモノナルコトヲ相共ニ天下ニ宣明スル
トトナシ一方在支日本人ノ生命財産ノ安全ニ関シ國民政府
ヨリ確實ナル保障ヲ取付ケ二個月ヲ限り日本軍ヲ悉ク山東
ヨリ撤去センコトヲ提議シタリ斯ノ如キハ実ニ東亞ノ大局
ヲ顧念スルト共ニ今ヤ建設ノ途ニアル國民政府ニ対スル
深キ同情ト、不幸ナル事件ニ伴フ諸問題ヲ一切水ニ流シテ
日支國交ノ更始一新ヲ期セントスル精神ニ出ツルモノナル
コトハ何人モ容易ニ理解シ得ル処ナルヘシ然ルニ支那側ニ
於テハ最初ヨリ何等讓歩スル処ナク我方カ大局ニ鑑ミテ為
シタル讓歩ニ附ケ込ミ日支双方ノ損害ノ共同調査案ヲ固執
シ事件解決後ニ尚紛議ノ種ヲ貽スコトヲ顧ミス遂ニ交渉ノ
決裂ヲ餘議ナクセシメタルコトハ誠ニ痛歎ニ堪ヘサル処ナ
リ唯此ノ上ハ國民政府当局カ東亞ノ大局ニ顧念シ將來一段
ノ誠意ヲ以テ兩國國交ノ改善ニ努力センコトヲ望ンデ已マ
サルモノナリ

354 昭和4年2月23日

在上海上村總領事代理より
田中外務大臣宛（電報）

側ニ於テ応諾セサルニ於テ交渉決裂ノ已ムナキニ至リ日支
關係ハ益々悪化取捨シ得サルニ立至ルヘキ旨申聞ケタル
同人ハ大ニ憂慮シ直ニ王ヲ往訪シタル趣ニテ午後ニ至リ二
回迄モ本使ヲ來訪シ王ノ伝言ナリトテ前頭周ノ上村ニ對ス
ル申出ト同様豫メ我方案ノ内示ヲ得度キ旨懇請スル処アリ
タリ

依テ本使モ此ノ儘強ヒテ正式会見ヲ為スニ於テハ決裂トナ
ル虞有ル而已ナラス先方ニ於テモ成ルヘク決裂ヲ避ケン
スル様子看取セラレタルニ依リ先方ニ對シ非公式ニ我方解
決案ノ趣旨ヲ通スルハ此ノ際已ムヲ得サル措置ナリト存シ
周ニ對シテハ王ニ於テ我方案ノ内示ヲ受ケ万一之ニ同意シ
難キコトアルモ一応本使ト正式ニ会見スヘキ旨ノ条件ヲ豫
メ通シ置キ王ノ同意ヲ取付ケタル上午午後八時周ヲ招致シ今
次ノ我方提議ハ最後案ナルコト及案ノ内容外部ニ漏レサル
様絶対秘密ニ付スヘキコト二点ニ付念ヲ押シタル上貴電第
一〇七号（三）御來示ノ次第アリタルニ顧ミ貴電第一〇一
号及貴電第一〇二号御訓令ノ二案ヲ同時ニ説明シタル処周
ハ要領ヲ筆記ノ上別ニ意見ヲ表示スルコトナク直ニ王部長
ニ伝達スヘキ旨ヲ述ヘ辭去セリ爾來今二十三日迄先方ヨリ

濟南事件解決に關し芳澤公使周龍光司長およ
び殷汝耕に我が方最後案内示について

上海 2月23日後発
本省 2月23日後着

* 第一九二号

往電一七七号ニ関シ

芳澤公使ヨリ

十八日夜貴電第一〇七号接到シタルニ依リ翌十九日周龍光
ニ對シ我方ニテハ明日ニテモ王部長ト会見ノ用意アル旨通
シタルニ周ハ直ニ南京ニ電報シタル趣ニテ王ハ豫定ヲ早メ
二十一日朝來滬シタルカ同日午後周ハ上村總領事代理ヲ來
訪シ王部長ハ此ノ際直ニ本使ト会見シ万一交渉決裂トナル
カ如キ事アリテハ取返シノツカサル羽目ニ陥ル懼アルニ依
リ本使トノ正式会見前豫メ日本案ノ内示ヲ受ケ内交渉ヲ試
ミ度キ意嚮ナルニ付右本使ニ伝達アリタキ旨申出テタルカ
他方殷汝耕ハ同日午前本使ヲ來訪シ我方案ノ内容ヲ尋ネタ
ルニ依リ本使ハ王部長以外ノ者ニハ豫メ我方ノ案ヲ洩シ居
ラサルモ要スルニ政府ノ決心頗ル強硬ナルカ幾分緩和ノ色
ヲ加ヘタル処アリ而シテ右ハ我方ノ最後案内示ハ万一支那

右ニ對シ正式ニハ何等ノ意志表示ナク会見ノ申出モ無之処
当方ヨリ餘リ急立ツル態度ヲ示スモ面白カラス他方王ハ明
後日赴寧ノ豫定ナリトコトナレハ明日位迄待チタル上回
答方催促スル所存ナリ

尤モ二十二日周ハ上村ヲ來訪シ前夜日本案ヲ王ニ伝達シタ
ル処王ハ該案ハ良ク謂ヘハ極メテ巧妙ナルカ悪ク謂ヘハ人
ヲ馬鹿ニシタル案ナリト述ヘ夫レ以外別ニ意見ヲ表示セサ
リシカ自分（周）一己ノ意見トシテハ救恤ニテハ如何ニモ
恩恵ヲ受クルカ如キ觀アリ此ノ案ニテ濟南事件ヲ解決スル
コトハ支那側ニ執リ至難トスル所ナルカ本件ニ付テハ既ニ
論議ヲ尽シタル次第ナレハ此ノ上条件ノ協定ヲ試ムルモ効
ナカルヘク寧ロ此ノ際日本政府ニ於テ治外法權ノ即時撤廃
及租界還付ノ意嚮ニ付声明スルコトトセハ右ニ依リ支那側
ハ日本ノ態度ニ満足シ大體日本側第二案（貴電第一〇二
号）ニテ妥協シ得ルノ見込アリ尤モ秘密了解ハ之ヲ罷メ発
表スヘキ議定書中ニ「救恤ノ方法ハ外交手段ニ依リ解決
ス」トノ趣旨ヲ記載スル要アルモ事實上ニ於テハ帳消シト
シ差支ナシト述ヘタルニ依リ上村ハ治外法權及租界還付ノ
如キ濟南事件ト全然無關係ノ事柄ヲ持チ出スカ如キハ我方

トシテ絶対ニ取上ケ得ヘキ筋合ニアラスト拒絶シタル処周ハ更ニ考慮スヘキ旨答ヘタル趣ナルカ更ニ同日夜崔士傑松室中佐ヲ来訪シ支那側ニテハ日本側ノ内示案ハ何人ニモ漏ラサル次第ナルカ貴下ハ本使トモ親密ナルニ依リ特ニ貴下ニ対シ御願スル次第ナリト断リタル上議定書ハ簡單ニ「損害問題ハ日支共同調査委員会ニ任ス」ト規定シ置ケハ事件解決後ハ忘レ易キ支那ノ国民性ト日支感情ノ好転トニ依リ結局有耶無耶ニ終ルヘシトテ右案本使ニ取次キ依頼シタルニ依リ松室ハ日本ハ最後案ヲ提出シタル次第ナリトノコトナレハ斯ル対案ハ取次キ得ヘキ限りニアラスト答ヘ置キタル趣ナリ

惟フニ支那側ハ対内關係上我方提案ヲ其ノ儘応諾スルコト頗ル困難ナルモノノ如ク去リトテ此ノ際交渉決裂セシムルモ不利ナリト考ヘ居ル模様モ見受ケラレ旁何等ノ妥協案ヲ見出シ得ル迄ハ暫ク交渉ヲ引延シ置カントスル意嚮ナルヤニ觀測セラルルニ依リ或ハ急ニ会见ノ運トナラサルヤモ計リ難シト存セラル

御来示ノ日本案ヲ王部長ニ伝達シタルニ右案ニテハ支那側ニ於テ考慮ノ餘地ナキモ右ハ日本側ノ最後案ナリトノ事ナルニ付考慮ノ餘地ナキ旨王部長ノ意見トシテ正式ニ回答スルトキハ交渉ヲ決裂ニ導ク懼アリ又此ノ際会见ヲ為スモ直ニ決裂トナリ今後ノ關係ハ拾収シ得サルニ至ルヘク斯テハ双方ニ取り極メテ不利ナリト思考セラルルニ依リ暫ク此ノ儘トシ置キタキ旨ヲ述ヘタルニ付堀内ハ貴下ノ御話ハ公使ニ伝達スヘキモ支那側ニテハ何等カ別ニ解決案ヲ考究シ居ル次第ナリヤト尋ネタルニ目下ノ処何等名案ナシト答ヘ日本側ニテモ今一応考慮アリタシトノ口吻ヲ洩シタル趣ナリ支那側カスノ如ク煮切ラサル態度ニ出テ居ル事情ニ付テハ今日迄各方面ヨリ得タル情報ヲ綜合スルニ第三次代表會議ノ期日切迫ト共ニ国民政府主腦部ノ地位追々不安トナリ来リ既ニ日支交渉ノ停頓ニ対シ党部方面ニモ非難ノ声アル折柄国民政府トシテハ此ノ際譲歩シテ解決セハ其ノ地位ヲ益々不利ニ導クヘキ事ヲ恐ルルト同時ニ他方交渉ノ決裂ヲ避ケムトスルノ考慮モアリテ本使トノ会见ヲ差控ヘ形勢ヲ觀望セムトスルモノニ非サヤト觀測セラル

尚相当信頼シ得ヘキ筋ヨリノ情報ニ依レハ王ハ過日馮玉祥

355 昭和4年2月27日 在上海重光総領事より
田中外務大臣宛（電報）
済南事件解決交渉停頓に関する中国側内部事情について芳澤公使の推測

上海 2月27日後発
本省 2月27日後着

* 第二〇五号
往電第一九二号ニ関シ
芳澤公使ヨリ

二十一日夜本使ヨリ周龍光ヲ通シテ王ニ内示シタル我方最後案ニ対シテハ其ノ後一向正式ノ挨拶ナク唯其ノ間非公式ニ王ノ意嚮トシテ若シ此ノ際共同委員会ヲ二個月ニテ打切リ各自政府ニ於テ救恤ノ方法ヲ講スヘキ旨ノ秘密了解ニ署名スルニ於テハ他日外交部長更迭ノ場合外部ニ暴露セラレ為ニ王ノ政治的立場ニ致命的ノ累ヲ及ホス虞アルヲ以テ我方ノ案ハ絶対ニ承諾シ難キ旨ヲ漏シ王ニ於テ之ヲ考慮中トノコトスラ明言スルヲ欲セサル様子ナリシカ当方ヨリ再三督促ノ結果漸ク昨二十六日夜ニ至リ周来訪シタルモ本使ハ既ニ就寢後ナリシヲ以テ堀内代ツテ面会シタル処周ハ過日

ヨリ共同調査案ヲ譲歩スルニ於テハ各方面ヨリ異議起ルヘキヲ以テ絶対ニ譲歩スヘカラストノ電報ニ接シ当惑シ居ル趣ナリ王ハ二十五日夜一旦南京ニ帰り一兩日中ニハ再び来滬ノ由ナルカ前記ノ如キ事情ニ照シ其ノ際果シテ再び会见ノ運トナリ得ルヤ目下ノ処何トモ豫想シ難シ

356 昭和4年3月(4)日 在上海重光総領事より
田中外務大臣宛（電報）

重光・周交渉で意見の一致をみた損害、陳謝問題についての解決案に関する芳澤公使報告

別電一 三月四日発在上海重光総領事より田中外務大臣宛第二二〇号
損害問題に関する議定書案
臣宛第二二二号
三月四日着在上海重光総領事より田中外務大臣宛第二二二号
損害問題に関する會議録案

上海 発
本省 3月4日後着
第二一九号

往電第二〇五号ニ関シ

芳沢公使ヨリ

王正廷ハ二月二十七日來滬翌二十八日朝周龍光挨拶ノ為ト
稱シテ前日着任シタル重光総領事ヲ來訪シ交渉停頓ノ狀況
ヲ詳細ニ説明シ之カ打開策トシテ既報ノ如キ種々ノ私案ヲ
述ヘ我方妥協案ノ有無ヲ探ラントスル様子見エタルニ付重
光ハ日本政府ノ態度ヲ反覆説明スルト共ニ周ノ考ヘ居ルカ
如キ解決案ノ到底問題トナラサルコトヲ論シタル上支那側
ニハ果シテ此ノ際交渉ヲ纏メムトスル誠意アリヤ又損害ノ
共同調査ニ依リ日本側ヨリ賠償金ヲ得ムトスルモノナリヤ
ト問ヒ詰メタル処周ハ世間ニテハ国民政府ノ内情ヲ臆測シ
テ種々噂シ居ルモ此ノ際交渉取纏ヲ不便トスル事情ハ絶対
ニ無之又支那側ニテハ決シテ日本側ヨリ賠償金ヲ受取ルコ
トヲ豫想シ居ラス之ハ王部長ノ意見ナリト言明シ要スルニ
支那側ニテハ從來ノ行懸モアリ国民ヲ納得セシメ且政府ノ
立場ヲ保持セムカ為飯令有名無実ノモノニテモ損害共同調
査委員会ヲ設クルノ必要アルコトヲ力説シタル趣ニテ重光
ヨリ支那側ノ意向果シテ右様明確ノモノナラハ実質上日本
側ノ意嚮ト或ハ接近スルコトアルヘク公使ノ態度ハ頗ル強

硬ナルモ若シ名案サヘ成ラハ參考トシテ取次クコトヲ辞セ
スト申聞ケタル趣ナリ

前記周ノ重光ニ対スル言明ノ如ク實際支那側ニテ日本側ヨ
リ金ヲ受取リタキ意嚮ナキモノトセハ損害相殺ニ関スル我
方ノ主張ヲ維持シツツ支那側ニモ受容シ易キ何等カ妥協案
ヲ見出スコト必スシモ望ミナキニアサルヘキト思考セラ
レタルカ幸ヒ先方ニ於テモ餘程氣乗ノ色見ヘタル趣ニ付大
体右ノ趣旨ヲ以テ重光ヲシテ非公式ニ周ト折衝セシムルコ
トトセリ

重光ハ二十八日夜更ニ周ト会合シ其ノ意向ヲ詳細ニ亘リ確
カメ大体調和点ヲ発見スルニ難カラサルヲ認メタルニ付翌
三月一日王部長ト会見ノ際モ周ノ談話内容ハ王部長ノ意向
ヲ反映セルモノナリヤト念ヲ押シ其ノ通りナリトノ返事ヲ
得タルニ付然ラハ周ト非公式ニ交渉ヲ進ムルコトアルヘシ
ト挨拶シ引続キ本使ト密接ナル聯絡ヲ保チツ、連日交渉ヲ
継続セシメタリ右ノ結果幾多曲折ヲ經テ三日夜左ノ点ニ付
両者ノ意見一致ヲ見タリ

(一)損害ノ問題ハ別電第二二〇号議定書案及第二二一号議事
録案ノ通ニ解決スルコト

第二二一号

芳沢公使ヨリ

會議録案

王部長ハ濟南事件ノ發生ニ依リ支那側既ニ損失ヲ受ケタル
(脱)カ芳沢公使ニ於テハ日本側モ亦損失アル旨既ニ屢陳
述セラレタリ右ハ事實問題ニ屬スルカ故ニ茲ニ兩國ニ於テ
同数ノ委員ヲ任命シ共同委員会ヲ組織シ同委員会ヲシテ双
方ノ損害額ヲ調査シテ之ヲ弁理セシムコトヲ提議スル旨
述ヘタリ

芳沢公使ハ日支双方ノ受ケタル損害ハ略同額ト認メラレ直
ニ之ヲ相殺スルモ差支ナシト信スルモ王部長ニ於テ共同委
員会ヲ設置シ同委員会ヲシテ之ヲ決定セシムルヘキ旨提議
セラレタルニ付テハ本使ハ本使ノ述ヘタル右相殺ノ趣旨ヲ
以テ之ニ同意ス但シ該委員会ノ調査範圍ハ兩國ノ個人ノ受
ケタル損害ニ限ルヘキモノナル旨述ヘタリ

王部長ハ同意ス右ニ依リ速ニ弁理スヘキ旨述ヘタリ

(別電二)

第二二〇号

芳沢公使ヨリ

議定書案

客年五月三日ノ濟南事件ノ發生ニ依リ日支兩國ノ受ケタル
損害問題ニ関シテハ双方ニ於テ各同数ノ委員ヲ任命シ日支
共同委員会ヲ設置シ実地調査シ之ヲ決定ス

上海 3月4日後発

本省 3月4日後着

上海 発

本省 3月4日後着

357 昭和4年3月(4)日

在上海重光総領事より
田中外務大臣宛(電報)

濟南事件解決最終案に至る交渉上芳澤公使留
意点について

上海 発
本省 3月4日後着

※
第二二五号

芳沢公使ヨリ

今回ノ解決案ニ達スル迄ノ経緯ハ電文ヲ以テ尽シ得サル点
アルモ左ニ特ニ注意スヘキ点ヲ申進ス

一、損害問題ノ解決案ノ交渉ニ当リテハ素ヨリ多大ノ困難
アリタルモ我方トシテハ主トシテ議事録記載ノ相殺主義
ノ点及但書ノ調査範囲ヲ個人損害ニ止ムルノ点ニ重キヲ
置キ王部長力之等ノ点ニ同意スト謂フ文字ニ全力ヲ注キ
タル次第ニテ先方ハ王部長同意ノ形式ヲ緩和セムト鮮キ
ラス努メタルモ我方ニ於テ応セサリシ次第ナリ

二、共同声明ニ関シテハ支那側ニテ字句變更ヲ承諾セサリ
シモ右声明ヲ以テ濟南事件全部ヲ解決セムトスルノ趣旨
ニハ異議無キ旨言明シ居レリ只損害共同調査委員会ヲ表
面上設置スルコトト為ス以上ハ共同声明中ニ之ト抵触ス
ルカ如キ文句ヲ用フル事ヲ難シトシ居ル色見ユルノミナ

ラス

往電第一三五号共同声明案ハ二月四日夜ノ会見ニ於テ一旦
「イニシャル」シタルモノニシテ若シ我方ヨリ文句ノ修正
ヲ固執セハ支那側ニテハ内部ノ手続困難ナル処ニテ之カ為
ニ鮮カラス感情ヲ刺戟シ悪影響ヲ齎スヘキノミナラス他ニ
交換問題ヲ提示スルカ如キ（例ヘハ前項ノ「同意」ニ関シ
緩和的ノ文句ヲ用フル等）事トナリ面白カラス殊ニ周司长
ハ若シ陳謝問題ノ打切りヲ行フニ於テハ共同声明モ亦打切
リトスルコト理論上納得セラレ易カルヘシ元来共同声明ニ
対シテハ政治委員会ニ於テモ鮮カラス議論アリタル訳ナリ
ト主張シタル経緯アリ斯ノ如ク陳謝問題ト同様共同声明ヲ
打切りト為スカ如キ事トナリテハ我方ノ主眼トスル処ヲ実
現セシメ得サル事トナリ解決案全部ニ付又復動揺ヲ来スノ
虞アリ旁文句ノ變更ハ右ノ如キ到底我方重大ナル犠牲ナク
シテハ行ハレサルヘキヲ看取シタルニ付既ニ文字ノ解決又
ハ趣旨ニ於テ意見ヲ同フスル以上（但シ此ノ点ヲ文字ニテ
表示セシムルノ餘地無キ事ハ御含ヲ請フ）此ノ辺ニテ取纏
メ差支ナシト思考セル次第ナリ

358

昭和4年3月5日

田中外務大臣ヨリ
在上海重光総領事宛（電報）

三月三日解決案にて濟南事件解決方芳澤公使
ヘ訓令

別電 三月五日發田中外務大臣ヨリ在上海重光総領
事宛第一四一号

撤兵準備について

付記 三月五日 陸軍省軍務局長および参謀本部と
の協議

撤兵準備について

本省 3月5日後8時10分發

※
第一四〇号

芳澤公使ヘ

貴電第二一九号乃至第二二五号接到御来示ノ通りニテ此際

解決方取計ハレ度シ即

（一）陳謝及処罰ハ打切ルコト

（二）損害問題ノ解決ハ貴電第二二〇号議定書及貴電第二二一
号議事録ニ依ルコト

（三）共同声明ハ二月五日發貴電第一三五号ノ通りトスルコト

（別電）

※
第一四一号

芳沢公使ヘ

本省 3月5日後8時30分發

一、交渉成立セハ出来ル丈速ニ撤兵ヲ希望スルモ虞ルル所
ハ支那側力直チニ治安維持ニ移リ得ル様ニ手配シ得ルヤ
否ヤノ点ニ在リ故ニ成ルヘク早キ機会ニ（即チ交渉成立
ノ見込十分トナルニ於テハ調印前ニテモ差支無シ）南方
政治機関ヲシテ青島、鉄道沿線殊ニ濟南ニ入りテ引継ノ
準備ヲ整ヘシムルコト必要ナルヘキニ付適當ナル機会ニ
立至レハ支那側ト打合セノ上濟南及青島領事ヲシテ適宜

措置セシメラレ差支無シ所謂南方政治機関ノ中ニハ支那警察ヲ含ムモ巡警ノ数等ニ付テハ出先日本軍憲及領事（専門委員到着後ハ同委員）ト協議ヲ要スルコト勿論ナリ

二、撤兵ハ短少期日内ニ準備ヲ完了シ次デ輸送ノ許ス限リ速カニ実行スル計画ニシテ撤兵準備ノ為概ネ三週間ヲ要シ又全部ノ撤兵完了ニハ撤兵準備期間ヲ含ミ二ヶ月ヲ要スル見込ナルガ右準備期間内ニ専門委員ノ打合セヲ終リ度キヲ以テ調印ト共ニ支那側ニ於テ速カニ右専門委員ヲ濟南ニ派遣スルコトヲ希望ス

三、日本側ニ於テハ右専門委員ヲ第三師団參謀長ヲ長トスル委員数名ヲ以テ編成スル豫定ニシテ遅クモ調印当日迄ニハ濟南ニ赴カシムル筈ナリ

（付記）

三月五日 陸軍々務局長 參謀本部ト協議済

陸軍ニ於テハ交渉成立セハ出来ルダケ速ニ撤兵ヲ希望スルモ只虞ルル所ハ支那側力直チニ治安維持ニ移リ得ル様ニ手配シ得ルヤ否ヤノ点ニ在リ故ニ成ルヘク早キ機会ニ南方政

359 昭和4年3月6日

在上海重光總領事より
田中外務大臣宛（電報）

濟南事件交渉會議録について芳澤公使報告

上海 3月6日後発
本省 3月7日前着

第二四三号

往電第二三六号末段ニ関シ

芳沢公使ヨリ

會議録

一、共同声明ニ関スルモノ

芳沢公使及王部長ハ茲ニ濟南事件ヲ解決シ兩國ノ睦誼（往電第二三六号中日支国交ノ四字ヲ修正セルモノ）ヲ増進センカ為別紙日支共同声明書ヲ本年三月一日夫々東京及南京ニ於テ発表スルコトニ合意セリ（共同声明書ハ往電第一三五号ノ通）

二、損害問題ニ関スルモノ

（記載内容往電第二二一号ノ通）

三、日本在留民保護及其ノ他ノ問題ニ関スルモノ

（一）芳沢公使ヨリ山東ニ於ケル日本軍撤退後在留日本国臣

治機関カ青島、鉄道沿線殊ニ濟南ニ入リテ引継ノ準備ヲ整ヘルコトヲ希望ス此ノ見地ヨリスレバ交渉成立ノ見込十分トナルニ於テハ調印前ニテモ南方政治機関ト此等ノ地方ニ入ルルコトヲ寧ロ希望ス南方政治機関ト云フ中ニハ支那警察ヲモ含ムコト勿論ナルガ巡警ノ数等ニ付テハ出先日本軍憲及領事（専門委員到着後ハ同委員）ト協議ヲ要ス

撤兵ハ短少期日内ニ準備ヲ完了シ次デ輸送ノ許ス限リ速ニ実行スル計画ニシテ日本側ニ於テハ撤兵準備期間ノ為概ネ三週間ヲ要シ全部ノ撤兵完了ニハ撤兵準備期間ヲ含ミ二ヶ月ヲ要スル見込ニシテ右準備期間内ニ専門委員ノ打合セヲ終リタキヲ以テ調印ト共ニ支那側ニ於テ速カニ右専門委員ヲ濟南ニ派遣スルコトヲ希望ス

日本側ニ於テハ右専門委員ヲ第三師団參謀長ヲ長トスル軍部ノ委員数名ヲ以テ編成スル豫定ニシテ遅クモ調印当日迄ニハ濟南ニ赴カシムル筈ナリ

上記ノ各項ハ適當ノ機会ニ芳沢公使ヲ經テ支那側ニ通知シ置カシムルコトヲ希望ス

民ノ生命及財産ノ保護ニ関シ国民政府ニ於テ如何ナル具體的方法アリヤ承知シタシト述ヘタルニ対シ

王部長ハ山東在留日本国臣民ノ生命及財産ハ固ヨリ国民政府ノ全責任ヲ以テ保護スル所ナルニ依リ将来モ外交部長トシテ全責任ヲ以テ適切ナル措置ヲ講スヘク差当リ国民政府ヨリ山東省政府ニ対シ同地方在留日本国臣民ノ保護ヲ命令シ右命令写一部ヲ芳沢公使ニ送付スヘキ旨ヲ陳述セリ

（二）芳沢公使ハ山東ハ勿論支那全国ニ亘ル排日排貨ニ対シテハ国民政府ニ於テ嚴重ナル取締リヲナシ速ヤカニ之カ絶滅ヲ期センコトヲ要求セリ

王部長ハ本件ニ付テハ誠意ヲ以テ其ノ責ニ任スヘク且中央党部ニ諮リ各地方党部ニ対シ排日排貨運動ヲ直ニ終熄セシムヘキ旨ノ密令ヲ發セシムヘシト陳述セリ

（三）芳沢公使ハ膠濟鉄道ノ交通ヲ確保スル為國民政府ニ於テ（イ）同鉄道ノ車輛ヲ他線ニ流用セサルコト（ロ）同鉄道ノ收入ハ同鉄道自体ノ經費及日本政府ニ対スル債務ノ元利償却ニ充ツルノ外他ノ用途ニ使用スヘカラサルコト（ハ）同鉄道ノ重要ナル地位ニ配置スヘキ日本人ノ数ヲ増加スルコ

トヲ承諾アリタシト述ヘタルニ王部長ハ鉄道交通ノ確保ハ国民政府ノ最モ留意スル所ナルヲ以テ同政府ハ撤兵問題トハ関係ナク自発的処置トシテ鉄道部長ヲシテ膠済鉄道局長ニ対シ同鉄道ノ車輛ヲ他線ニ流用スヘカラサル旨同鉄道ノ収入ハ同鉄道自体ノ経費及日本政府ニ対スル債務ノ元利償却ニ充ツルノ外他ノ用途ニ使用スヘカラサル旨命令セシメ右命令写一部ヲ芳沢公使ノ許ニ送付スヘキ旨陳述セリ

尚王部長ハ同鉄道ノ重要ナル地位ニ配置スヘキ日本人ノ増員方ニ関シテハ済南事件ト引離シ同鉄道理事長ノ資格ヲ以テ処置スヘキ旨附言セリ

四 芳沢公使ハ青島埠頭ノ完成、青島市政外人参与、膠済鉄道沿線都市開放其ノ他山東条約若ハ同細目協定ニ基ク支那側義務ニシテ今日迄履行セラレサルモノハ総テ此ノ際速ニ実行セラレタキ旨要求セリ

王部長ハ国民政府ニ於テ右ノ条約及協定ニ基ク支那側ノ義務ヲ履行スヘキハ勿論ナルカ本件ハ撤兵ノ条件ト為スコトナク別ニ速ニ解決スヘシト述ヘタリ

（載）ノ旨御照会ノ趣聞悉致候查スルニ支那ニ於ケル外国人ニ対シ国民政府ニ於テ責任ヲ以テ保護スヘキ旨ハ曩ニ声明シアル処ニシテ現ニ尚此ノ趣旨ニ基キ何等変更シ居ラス故ニ国民政府ノ日本在留民ニ対スル保護ハ実ニ当然ノ儀ニ有之候御申越ニ係ル撤兵ノ期日及期間ハ既ニ了承致候就テハ日本撤去ノ際ニ於ケル引継ノ措置ニ関シテハ兩國政府ヨリ各々委員ヲ任命シ現地ニ於テ商議弁理セシムヘキ旨貴公使ノ御提議ニ対シテハ本部長ニ於テ同意ヲ表シ候
此段回答得貴意候 敬具

361 昭和4年3月7日 在上海重光総領事より
田中外務大臣宛（電報）

南京・漢口事件解決交渉は済南事件解決関係文
書調印後に行いたい旨芳澤公使希望について

上海 3月7日後発
本省 3月8日前着

第二五一号

芳沢公使ヨリ

南京、漢口両事件ニ付テハ貴電第八〇号御訓令ノ次第モア

360 昭和4年3月6日 在上海重光総領事より
田中外務大臣宛（電報）
撤兵問題に関する芳澤・王交換公文案について
芳澤公使報告

上海 3月6日後発
本省 3月7日前着

第二四四号
芳沢公使ヨリ

芳沢公使ヨリ王部長宛往翰案

以書翰啓上致候陳者本使ハ国民政府ニ於テ日本軍ノ山東撤去後全責任ヲ以テ在支日本国民ノ生命及財産ノ安全ヲ保障セラルルニ於テハ帝國政府ハ現ニ山東ニアル日本軍ヲ本日ヨリ向フ二箇月間ニ全部撤去スヘキ旨茲ニ貴部長ニ対シ通告スルト共ニ日本軍撤去ノ際ニ於ケル引継ノ措置ニ関シテハ日支兩國各々委員ヲ任命シ現地ニ於テ商議弁理セシムムコトヲ提議致候此段照会得貴意候 敬具

王部長ヨリ芳沢公使宛来翰案

以書翰啓上致候陳者本日附貴翰ヲ以テ（本使往翰全文記

リ二月八日王正廷トノ会见ニ於テ済南事件ノ解決ヲ遷延セサル限り右両事件ヲモ討議スヘキ事ニ了解ヲ遂ケ置キタル次第ナルカ（往電第一五六号）爾来済南事件ノ停頓ニ依リ前記両事件モ其ノ儘ナリ居リ今後最近ノ機会ニ会談スル心組ナル処全国代表大会モ差迫レル今日済南事件ト同時ニ調印スルコトハ事実不可能ニシテ若シ両事件ノ交渉ノ為メ済南事件ノ解決ヲ遷延スルコトモナラハ却テ不得策ト思ハルルニ付場合ニ依リテハ済南事件ノ調印後直ニ両事件ノ交渉ニ移ル事ト致度ク此ノ点御含ヲ請フ

362 昭和4年3月8日 田中外務大臣より
在上海重光総領事宛（電報）

済南事件解決にあつての會議録案および交換公文案の修正方芳澤公使宛訓令

別電一 三月八日発田中外務大臣より在上海重光総領
事宛第一五五号

芳澤公使・王外交部長交換公文案

二 三月八日発田中外務大臣より在上海重光総領
事宛第一五六号

本省 3月8日後10時発

第一五四号

芳沢公使へ

貴電第二四三号會議録一、共同声明ニ関スルモノ二、損害問題ニ関スルモノハ当方ニ於テモ異議ナシ三、日本在留民保護及其他ノ問題ニ関スルモノ中(一)ニ付テハ貴電第二四七号末段ヲ以テ御申越ノ通り御取計アリタシ又(二)末尾「直ニ終熄セシムヘキ旨ノ密令ヲ発セシムヘシト陳述セリ」ハ「直ニ終熄セシムヘキ旨ノ密命ヲ発セシ右命令写一部ヲ芳沢公使ニ送付スベキ旨ヲ陳述セリ」ト改メ(四)ノ末尾「速ニ解決スヘシト述ヘタリ」ハ「速ニ実行スヘシト述ヘタリ」ト改ムル様致度シ

次ニ貴電第二四四号交換公文案ノ作製ニ付テハ多大ノ御苦心ノ存スルコトヲ想像セサルニアラサルモ此儘ニテハ形式上面白カラスト認メラルルニ付別電第一五五号若クハ第一五六号ノ如キ体裁トナスカ若シ已ムヲ得サレハ貴電第二四四号所載案ニテ致方無キモ貴官ヨリ王部長宛往電案中「本日」トアルヲ「本件解決ニ関スル文書ノ交換調印ノ日」ト

セラレ度又王部長ヨリ貴官宛来翰案中「現ニ尚此ノ趣旨ニ基キ何等變更シ居ラズ故ニ」ノ二十字ヲ削リ同時ニ「当然ノ儀ニ有之候」ト「御申越ニ係ル撤兵ノ期日及期間ハ云云」トノ間ニ「(共日本兵山東撤去後ニ於テハ前記ノ趣旨ニ基キ一層保護ノ完全ヲ期スヘク候)」ノ三十五字ヲ加フル様御努力相願度シ

(別電一)

本省 3月8日後10時30分発

第一五五号

(一)王部長発芳沢公使宛書翰案

以書翰致啓上候陳者支那ニ於ケル外人ニ對シ国民政府ニ於テ責任ヲ以テ保護スヘキ旨ハ曩ニ声明シタル所ニシテ国民政府ノ日本在留民ニ對スル保護ハ実ニ当然ノ儀ニ有之候ヘトモ日本軍山東撤去後ニ於テハ前記声明ノ趣旨ニ基キ一層保護ノ全キヲ期スヘク此段照會得貴意候 敬具

(二)芳沢公使発王部長宛書翰案

以書翰致啓上候陳者本日附貴翰ヲ以テ(一)ノ「支那ニ於ケル」ヨリ「期スヘク」迄記載(マ)キ旨照會相成致領承候就テ

ハ本使ハ帝國政府ハ現ニ山東ニ在ル日本軍ヲ本日ヨリ向フ二個月間ニ全部撤去スヘキ旨茲ニ貴部長ニ對シ通告スルト共ニ日本軍撤去ノ際ニ於ケル引繼ノ措置ニ関シテハ日支兩國委員ヲ任命シ現地ニ於テ商議并理セシムコトヲ提議致候此段照會得貴意候 敬具

(三)王部長発芳沢公使宛書翰案

以書翰致啓上候陳者本日附貴翰ヲ以テ(一)ノ「帝國政府ハ」以下「提議」迄記載(迄記載)相成致領承候御通告ニ係日本軍撤去開始期日及完了ノ期間ハ之ヲ致領承候就テハ日本軍撤去ノ際ニ於ケル引繼ノ措置ニ関シテハ兩國政府ヨリ委員ヲ任命シ現地ニ於テ商議并理セシムヘキ旨貴公使ノ御提議ニ對シ本部長ニ於テ同意ヲ表シ候此段回答得貴意候 敬具

(別電二)

本省 3月8日後10時30分発

第一五六号

(一)芳沢公使ヨリ王部長宛往翰案

以書翰致啓上候陳者本使ハ國民政府ニ於テ日本軍ノ山東撤去後全責任ヲ以テ在支日本國臣民ノ生命及財産ノ安全ヲ保

障セラルルニ於テハ帝國政府ハ遲滞無ク現ニ山東ニ在ル日本軍ヲ全部撤去スヘキ旨貴部長ニ對シ通告致候此段照會得貴意候 敬具

(二)王部長ヨリ芳沢公使宛来翰案

以書翰致啓上致候陳者本日附貴翰ヲ以テ(芳沢公使往翰全文記載)ノ旨御照會ノ趣聞悉致候查スルニ支那ニ於ケル外人ニ對シ國民政府ニ於テ責任ヲ以テ保護スヘキ旨ハ曩ニ声明シタル所ニシテ國民政府ノ日本在留民ニ對スル保護ハ実ニ当然ノ儀ニ有之候ヘ共日本兵山東撤去後ニ於テハ前記ノ趣旨ニ基キ一層保護ノ全キヲ期スヘク此段回答得貴意候 敬具

(三)芳沢公使ヨリ王部長宛往翰案

以書翰致啓上致候陳者本日附貴翰ヲ以テ(支那ニ於ケル外人ニ對シ云云以下王部長来翰全文記載)ノ旨御申越ノ趣聞悉致候就テハ帝國政府ハ現ニ山東ニ在ル日本軍ヲ本日ヨリ向フ二ヶ月間ニ全部撤兵スヘキ旨茲ニ貴部長ニ對シ通告スルト共ニ日本軍撤去ノ際ニ於ケル引繼ノ措置ニ関シテハ日支兩國委員ヲ任命シ現地ニ於テ商議并理セシムコトヲ貴部長ニ對シ提議致候 敬具

四王部長ヨリ芳沢公使宛來翰案

以書翰啓上致候陳者本日附貴翰ヲ以テ（芳沢公使往翰中帝國政府ハ現ニ山東ニ在ル云云以下全文記載）ノ旨御照会ノ趣聞悉御申越ニ係ル撤兵開始ノ期日及完了ノ期間ハ了承致候就テハ日本軍撤去ノ際ニ於ケル引継ノ措置ニ関シテハ兩國政府ヨリ委員ヲ任命シ現地ニ於テ商議并理セシムヘキ旨貴公使ノ御提議ニ対シ本部長ハ茲ニ同意ヲ表シ候此段回答得貴意候 敬具

363 昭和4年3月8日

在上海重光總領事より
田中外務大臣宛（電報）

會議録および交換公文案は最終案につき原案
どおり了承方芳澤公使より稟請

上海 3月8日後発
本省 3月9日前着

第二六五号

貴電第一五二号ニ関シ

芳沢公使ヨリ

往電第二四四号保障及撤兵ニ関スル交換公文案及往電第二

3月9日前10時45分発

第一五七号

芳沢公使へ

往電第一五四号ヲ以テ排日排貨ニ関シ中央党部ヨリ発シタル密会^{（令カ）}ヲ貴公使ニ送付スル様議事録ニ書添エ方申進シタルモ貴電第一四一号^{（五）}ノ次第モ有リ此際当方ノ希望ヲ貫徹スルコト困難カト思考スルニ付此点ニツキテハ一ニ貴公使ノ裁量ニ一任スヘシ只保障及撤兵ニ関スル交換公文ハ濟南事件ノ解決ニ関シ發表スル三文書中ニ於テ共同声明ト共ニ最モ重キヲ為スモノニテ其形式文句等ニ於テモ特ニ慎重ナルヲ要スル次第ニツキ成ルベク往電第一五五号若ハ往電第一五六号ノ如キ態裁ニ変更方ニツキ先方ヲ納得セシムル様御努力相煩度シ

365 昭和4年3月13日

在上海重光總領事より
田中外務大臣宛（電報）

濟南事件解決に関する田中首相の河野宛て指示の取扱いにつき芳澤公使報告

四三号會議録案中三ノ部分ハ双方係官ニ於テ二月初メ数日

ニ亘リ屢々案ヲ改メ討論ヲ尽シテ漸ク取纏メタルモノニシテ殊ニ會議録ノ右部分ハ当初支那側ヨリ長文ノ討論体ノモノヲ提出シタルカ右ハ王ニ於テ本使ノ要求事項ヲ一々弁駁シタル点ニ重キヲ置キ彼我一致シタル点ヲ成ルヘク曖昧ニセムトセルモノナリシニ付我方ヨリ反覆力説ノ後漸ク往電第二四三号^{（三）}ノ如キ案文ニ取纏メ更ニ往電第二三六号會議録整理ノ際數ヶ所ノ未決点ヲ決定シタル次第ニテ殆ト最終案トモ申スヘキモノニ有之此ノ上我方ヨリ種々修正ヲ提議スル時ハ支那側ヨリモ亦種々ノ変更ヲ申出或ハ重要ナル点ニ付前説ヲ翻ヘスカ如キナキヲ保シ難タ且又前記交換公文及會議録ノ^{（三）}ハ大体ニ於テ貴電第七〇号御訓令ノ趣旨ニモ合致シ居ル様思考致シ居ル次第ニ付何卒右ノ経緯ニ顧ミ案文其ノ儘ニ御承認相成様致度シ

364 昭和4年3月9日

田中外務大臣より
在上海重光總領事宛（電報）

保障および撤兵關係交換公文案の修正につき

芳澤公使へ再訓令

上海 発
本省 3月13日後着

第二八五号

芳沢公使ヨリ

三月十一日殷汝耕本使ヲ來訪シ語ル処ニ依レハ同人ハ二月二十八日貴地河野英良ヨリ濟南事件ニ付田中總理ハ仮令国交断絶スルモ現在以上ニ讓歩シ得ストノ意嚮ナル旨電報ニ接シタルヲ以テ早速蔣介石及張群ニ報告シタル処兩人ハ夫ニテハ困ルトノ事ナリシニ付殷ハ三月五日河野ニ対シ支那側ハ損害ノ相互賠償主義ハ到底放棄シ得サルモ日本側ニ於テ此主義ヲ認メラルルニ於テハ実行ノ点ニ於テ手心ヲ加フルモ差支無シトノ趣旨ヲ認メタル親展書ヲ人ニ托シ送付シ置キタルカ右ニ対シ九日河野ヨリ返電アリ右書面ヲ總理ニ供覽シタル結果總理ニ於テ芳沢公使ニ対シ右殷ノ申出ノ趣旨ニ同意スル様既ニ電訓ヲ發セリトノ旨ヲ申越シタルニ付殷ハ即時之ヲ漢訳シ翌十日南京ニ在ル王正廷宅ニ暗号電報ニテ通報シ置ケリトノ事ナリシカ之ニ対シ本使ハ既ニ數日前ニ訓令ヲ受ケ取りタルカ右ノ如ク支那側^{（四）}当ノ希望通りノモノニハ非スシテ相当厳格ナルモノナリ兎ニ角王正廷ニ於

テ至急本使ニ対シ南京政府ノ回答ヲ齎スヲ要スル次第ナル旨告ケ置キタリ

366 昭和4年3月13日 在上海重光總領事より
田中外務大臣宛(電報)

中国側交換公文修正案に関する重光・周交渉

につき芳澤公使報告

上海 3月13日後発
本省 3月13日後着

第二八九号

芳沢公使ヨリ

一、王正廷ハ五日朝帰寧シタルカ周龍光ハ王ノ召電ニ依リ六日ノ夜行ニテ赴寧シ翌七日王ハ胡漢民王寵惠等ト共ニ今回ノ解決案ヲ商議シタル模様ナリ(南京発本官宛電報第一八九号)而シテ貴電第一四〇号ノ御回訓ハ六日ニ接到シタルニ付本使ハ翌七日在南京領事岡本ヲシテ周ヲ通シ本使ハ既ニ政府ノ回訓ニ接シ約ノ如ク上海ニ於テ王部長ト最終の会見ヲ為スノ用意成レル旨ヲ通シ王ノ至急來滬方ヲ促サシメタル処王ハ恰モ仏国公使來京中ニテ之ト

交渉ノ為数日間來滬シ難ク不取敢周ヲ差遣ハスヘキ旨答ヘタル趣ナルカ周ハ九日朝当地ニ歸來シテ重光ニ面会ヲ求メタリ

右会見ニ於テ先ツ日本側ノ立場ヲ明カニシ置クコト得策ト認メラレタルヲ以テ重光ハ「日本政府ノ回訓ハ貴下ノ南京行ト行違ヒニ到着セルモ自分ト貴下トノ約ニ依リ成ルヘク速ニ通報スルノ義務アルヲ思ヒ芳沢公使ニ於テハ岡本領事ヲ通シ王部長及貴下ノ來滬ヲ督促セル次第ナリ扱テ日本政府ノ今回ノ訓令ハ陳謝ハ打切トシ損害問題ハ表面共同調査ノ形トスルモ実質ハ相殺主義ニ依ルコト而シテ共同声明ヲ以テ問題ヲ総テ解決スヘキ趣旨ノ王部長及芳沢公使ノ承諾セル三月三日ノ解決案ヲ其ノ儘文句變更ナクシテ而シテ他ノ會議録カ纏マル場合ニハ一括シテ之ニ好意的考量ヲ加フヘシト云フニアリ」ト述ヘタル処周ハ「今日迄我々ノ交渉ノ結果ニ付王部長ニ於テ同意シ居ルハ是迄度々述ヘタル通りナリ然ル処南京ニ於ケル會議ノ結果王部長ノ尽力ニ拘ラス左ノ四点ニ付修正ヲ申入レサルヲ得サル事トナリタリ右ハ些細ノ修正ニシテ趣旨ニハ變リナシトテ

(一)保障及撤兵ニ関スル芳沢公使宛王部長來翰案(往電第二四四号)中「国民政府ニ於テ」ノ次ニ「國際公法ニ照シ」ヲ加フル事

(二)同案中「引継ノ措置」ニ該当スル漢文「接防弁法」ヲ「接收弁法」ト改ムル事

(三)共同声明書ヲ双方声明書ト改ムル事

(四)會議録(往電第二二二号)末段ノ「王部長ハ同意ス右ニ依リ速ニ弁理スヘキ旨述ヘタリ」ノ一句ヲ削除スルコト

ノ四点ヲ挙ケ右修正中(一)ハ当然ノ理論ニシテ単ニ字句ノ点ナリ(三)ハ共同ノ文字ハ恰モ日支合併ノ如キ感ヲ与ヘ面白カラス声明書ノ標題ハ充分討議セサリシ点ニテモアリ之カ文字ヲ變更スルモ可ナラム(四)ハ趣旨ニ於テ何等變更アルニ非ス單ニ相殺主義ヲ默示トスルカ(支那側修正案)又ハ明示トスルカ(原案ノ差アルノミ)斯ル僅少ノ修正ナルニ付何卒日本側ノ承諾ヲ得度」ト述ヘタルニ依リ右ニ対シ重光ハ左ノ要旨ヲ答ヘタル趣ナリ

停頓状態ノ交渉カ打開ヲ見タルハ今回ノ解決案即チ(イ)陳謝ハ打切り(ロ)損害ハ表面共同調査実質ハ相殺主義トシ(ハ)

共同声明ヲ以テ済南事件ヲ解決シ(ニ)其ノ他日本人保護ノ問題等ハ會議録トシテ既ニ纏マリタル処ヲ整理スルコトニナレル結果ナリ而シテ主要部分タル(ロ)及(ハ)ハ完全ニ文書成立シ其ノ他ノモノハ尚幾多未定ノ部分ヲ残セルノミナリ右ノ状態ニ於テ此ノ際修正案ヲ出サルルハ重大ナルコトナルカ修正案中(一)及(二)ハ実質ニ於テ自分ノ関与セサリシ点ナル処(三)及(四)ノ点ハ實ニ交渉停頓打開ノ根本問題トシテ互ニ交譲ノ結果成立セル最後案ニシテ日本政府ニ於テモ不満足ナカラ大奮発ニテ文字ノ變更ナク之ニ好意的考量ヲ加ヘント決セルモノナルニ付之カ變更ハ絶対ニ不可能ナリ特ニ第四点ノ如キハ最重要ナル点トシテ立案ノ際モ幾多ノ議論ヲ經テ決定セル処ナルニ付日本側ニ於テ今更考慮ノ余地ナシ既ニ外交部長モ承諾セル最後案ノ變更ヲ持出サルルコトハ日本側ノ迷惑ハ勿論ノコト支那側ノ誠意モ疑ハレ交渉ノ前途ニ悪影響ヲ及ホスヘキヲ以テ自分ハ斯ル修正提議ハ仮令字句ノ末ナリト仮定スルモ日本政府ニ対シテハ勿論芳沢公使ニ対シテモ取次クコト能ハサルニ付南京政府ニ於テ撤回スル様王部長及周局長ニ於テ御尽力アリタク自分ハ其ノ結果ヲ待ツコトトスヘ

シ尤モ(一)及(二)ノ点ハ折角ノ御申出ナルニ付議事録中尚纏マラサル二三其ノ他ト共ニ審議スル為芳沢公使ニ取次クコトトスヘシ

右ニ対シ周司令長ハ実ハ修正案四ニ付テハ自分モ是迄我々ノ討議ノ模様ヲ南京ニ於テ詳細説明シ日本側ノ主張ヲ充分述ヘタル次第ナルカ兎ニ角今日会谈ノ次第ハ早速李科長ヲ南京ニ派シ一切報告スヘシト答ヘタル趣ナリ

三、周ハ九日来滬以来病ト称シテ宿ニ引籠リ居タルカ十一日上村ニ来訪ヲ求メ李科長報告ノ結果王部長ヨリ電報アリ前記第三点共同声明ハ寧ロ「共同」ヲ削除シテ単ニ「声明書」ト為シテハ如何又第四点ハ芳沢公使ノ陳述ヲ黙認スルカ同意ヲ明示スルカノ問題ニテ趣旨ニ於テハ変リナキ次第ナルカ同意ヲ明示スルコトニハ政府部内ニ強硬ナル反対アリ王部長ハ此ノ上トモ反対論説得ニ努力スヘキモ之ハ至難ノコトナリト申越シタル旨ヲ告ケタルニ付上村ハ今回ノ解決案ヲ變更スルコトハ絶対ニ出来難シト答ヘタル為周ハ頗ル当惑ノ色ヲ示シ居タル趣ナルカ本使ハ右報告ニ接シタルニ付特ニ王正廷ニ対シ圧力ヲ加フルノ必要ヲ認メ「右ノ事情ニ付始めテ詳シク報告ヲ受ケ

ルヘク南京発来電第一八九号所報ノ如ク主トシテ胡漢民、王寵惠等ノ反対ニ出ツルモノナルカ如シ即チ王自身ハ過般在滬中重光、周間ノ交渉成行ヲ一々承知シ居リ往電第二三二号ノ如ク四日ニ重光ニ対シ右交渉ノ結果タル解決案ニ対シ日本政府ヨリ承認ノ回訓アリ次第支那側ニ於テモ正式ニ承認ヲ言明シ得ヘキ旨ヲ述ヘタルノミナラス帰寧後モ部内ノ異論ヲ説得スルニ努力中ナル旨屢々伝言シ来レル次第ニシテ又蔣介石ノ態度ニ関シテモ十一日上村ヨリ周ニ尋ネタル際周ハ蔣介石ハ過日ノ非公式交渉中度々人ヲ王部長ノ下ニ派シ其ノ成行ヲ聴取り居タル程ニテ今回ノ解決案ニ関シテハ異存ナシト答ヘ居タル趣ナリ

(二)蔣又胡漢民、王寵惠等カ解決案ニ対シ字句修正ヲ主張スル理由ヲ付度スルニ修正点ハ多クハ支那側ノ体面ニ関スルモノニシテ殊ニ会議録中損害相殺主義ニ関スル芳沢公使ノ陳述ニ対シ王部長ノ同意云云ヲ改メ単ニ黙認ノ形ト為サントスルカ如キハ党部其ノ他外部ノ反対ヲ恐ルルノ事情ハアルヘキモ亦一面胡漢民等広西派ニ同情スル一派ニ於テ或ハ目下ノ政局ニ関聯シ他ノ考慮ヨリ故意ニ強硬論ヲ固執シ居ルヤニモ考ヘラレサルニ非ス

タルカ南京政府ノ修正案ハ実ニ当惑ノ至リナリ始めノ二点ニ付テハ他ノ点ト共ニ一応研究シ見ルヘキモ後ノ二点ハ王部長モ賛成シ日本政府ニ於テモ手続ノ経タルコトナレハ其ノ變更ニハ絶対ニ同意シ難シ折角王部長モ南京ニ於テ御尽力中ノコトナルニ付是非共政府部内ヲ纏ムル様一段ノ努力アリタキ」旨周ヨリ王ニ特ニ伝達方上村ヲシテ取計ハシメ置キタリ

~~~~~

昭和4年3月13日 在上海重光総領事より  
田中外務大臣宛(電報)

中国側修正案には胡漢民、王寵惠などの意見が反映されているとの芳澤公使の推測

上海 3月13日後発  
本省 3月14日前着

第二九一号  
芳沢公使ヨリ  
往電第二八九号及第二九〇号ニ関シ

(一)今回支那側ヨリ修正案ヲ提出スルニ至レル内情ヲ察スルニ右ハ恐ラク王正廷、蔣介石等ノ発意ニ基クモノニハ非サ

(三)諸般ノ情報ヲ綜合スルニ蔣介石等ノ広西派ニ対スル態度ハ相当強硬ニシテ和戦両様ノ構ヲ為シ堅キ決意ヲ示シ居ルハ或ハ一面馮玉祥トノ間ニ或程度ノ諒解アルカ為ナルヤモ計リ難ク而シテ此ノ際済南事件ノ解決ハ馮ニ山東ノ地盤ヲ与フル事トナリ現下ノ政局ニ於テハ蔣、馮ヲ益々結ヒ附クル結果トナルノ懼アル為広西派同情者トシテハ素ヨリ此ノ際斯ル形勢トナルヲ喜ハサルヘキカ故ニ今回ノ解決案ニ異議ヲ唱ヘ以テ解決ヲ遅延セシメムトスル底意アルヤモ知ルヘカラス

四胡漢民等ニ於テ仮令右ノ如キ底意ナシトスルモ此ノ一派カ有力ナル修正意見ヲ主張シツツアル以上ハ蔣介石トシテモ今回ノ湖南事件ニ関シテ執リタル措置ニ付元老派ノ間ニ人望ヲ失ヒ又代表大会代表者選定方法ニ付河南、河北等ノ党部ヨリモ反対ヲ受ケ居ル事情モアリ十五日目前ノ代表大会ニ於テ反対派ニ口実ヲ与フルハ不利ナルニ顧ミ此ノ際部内ノ異論ヲ抑ヘ自ラ責任ヲ負ヒテ済南事件解決案ヲ原案ノ儘承認シ得サル立場ニアルヘク之カ為王ヲシテ修正案ヲ提議セシメツツアルモノカトモ察セラル

(五)何レニスルモ現下ノ政局殊ニ最近ノ其ノ発展ハ蔣介石王

正廷等ニ於テ解決案ニ對スル内部ノ意見ヲ纏ムルニ便ナラサル事情ヲ胚胎シタルモノト見ルヘク且又支那側ニテハ往電第二八五号ノ如キ消息等ニヨリ日本側ノ態度ニ尚讓歩ノ余地アルヘシト誤解シ修正案ニ望ミ居ル模様ナルニ付旁支那側ノ態度決定迄ニハ尚幾分ノ曲折ヲ經ルコトアルヘキヲ豫期セサルヘカラス而シテ我方トシテハ將來ハ兎ニ角トシ差向キ強硬ナル態度ヲ持續シ此ノ上絶對ニ讓歩ノ餘地ナキ旨ヲ以テ支那側ノ反省ヲ促スコト得策ト認メ目下右方針ニ依リ応酬中ナルニ付御含アリタシ

368

昭和4年3月19日

田中外交大臣より  
在上海重光總領事宛（電報）

保障および撤兵の交換公文に関する中国側修正

案につき体裁上の修正提案方芳澤公使へ訓令

本省 3月19日後10時40分発

第一八三号

芳沢公使へ

貴電第二八九号第二九〇号第三一二号及第三一三号ニ依リ其ノ後御交渉ノ模様判明御苦心ノ段深ク諒トスルモ当方ト

シテハ屢次ノ往電ニテ御承知ノ通り貴電第二一九号ノ解決案ヲ承知スルト共ニ其後接到セル保障及撤兵ニ関スル交渉公文案ニ関シ往電第一五四号乃至第一五七号ヲ以テ申進シタル通文書ノ体裁変更方ヲ切望シ居ルモノナリ然ルニ貴電第二八九号ニ依ルニ支那側ヨリハ種々見様ニ依リテハ重要ナル修正ヲ提議シ居リ就中第四点ノ如キハ從來ノ交渉停頓ノ根本原因ニ触ルモノニシテ仮令貴電第三一三号周所言ノ如ク日本文ヲ原案ノ儘トスルモ漢文之ニ副ハサルモノアレハ事態ヲ曖昧ニシ後日種々面白カラサル事態ヲ惹起スル懼レモアリ

右修正ニ応スルハ当方ノ頗ル躊躇スル所ナリサリナカラ交渉既ニ現状迄進捗セル此際ノ事故前記往電第一五七号等交換公文体裁変更ノ主張ニ同意スルニ於テハ難キヲ忍ンテ支那側提議諸修正ニ對シ後述ノ通考慮ヲ加フルコトスヘキ処支那側ニ於テモ我等ノ一大讓歩ニ對シ單純ナル形式ノ問題トモ稱シ得ヘキ（我等ニ於テハ該交換公文カ今回事件解決発表文ノ主タルモノナルニ鑑ミ是非相当体裁ヲ整ヘタキ次第ナリ）我等主張ヲ容認スルニ各カナラサルヘキヲ期待スルモノナリ

即チ支那側修正提議（一）「國際公法ニ照シ」ハ支那側ニ於テ責任ノ限度ヲ自己ノ裁量ニ依リ縮小スルノ口実ニ用ヒラルル懼ナキニ非サルモ此種類ノ場合支那側力努メテ引用スル常套文句ニシテ他意ナキモノナルニ於テハ別ニ異議ナキ次第ナルニ付此ノ点一應御確メノ上交渉懸引上ノ都合ニテ修正ヲ認メラレ差支ナシ（二）接防ヲ接收ト改ムル意義不明ナルモ接收トスル結果日本カ軍政ヲ施キ居タルヲ前提トシ引繼ヲ為スノ意味トモナラハ甚タ面白カラサルニ付此点御確メノ上是亦懸引上ノ都合ニテ修正ヲ認メラレ差支ナシ、（三）モ強ヒテ反対ナキモ右ハ単ニ声明書ノ表題ノミノ変更ナリヤ又ハ日支各別ニ同様ノ事ヲ声明スルモノナリヤ若シ然ルトスレハ冒頭ノ日支兩國政府等ノ文字ヲ改ムルモノナリヤ等實際上ノ形式ニ付御確メ相成度シ（四）ノ点ハ當方ニ於テ最も重要視スルモノナルコト前述ノ通ナルカ支那側翻譯文ニシテ損害棒引ノ主義ヲ紛淆セス當方ノ納得シ得ルカ如キモノナルニ於テハ該訳文變更方認メラレ差支ナシ要之我方トシテハ日支關係ノ大局ニ鑑ミ將又濟南事件交渉カ双方全權ノ努力ニ依リ今日ノ程度ニ立到レル苦心ニ顧ミ此ノ不愉快ナル懸案ヲ速カニ一掃シテ兩國關係上ノ局面ヲ打開セント

スル真摯ナル希望ニ基キ幾多困難ノ事情アルニ拘ラス之ヲ押切リテ茲ニ終局的妥協案ヲ提議スル次第故支那側ヲシテ其辺ノ事情ヲ篤ト諒解セシムル様御努力相成タシ尚右趣旨ニテ議纏ルモノトセハ正式調印ノ段取り乃至外部ヘノ発表方法支那側希望通ニテ差支ナク將又以上ノ趣旨ニテ終局的協定案成立シタル上ハ正式調印迄ノ暫行的措置トシテ「イニシアル」（双方全權ニ差支アリトセハ代理者ニテモ止ムヲ得サルヘシ）ヲ附スル位ノ必要アルモノト思考ス孰レニスルモ右ニ先立チ一応必要ノ修正ヲ施シタル諸点ニ付御電報相成度シ

369

昭和4年3月20日

在上海重光總領事より  
田中外交大臣宛（電報）

現状における交換公文の実質的変更は不可能

の状況につき芳澤公使報告

上海 3月20日後発

本省 3月21日前着

第三二七号

芳沢公使ヨリ

貴電第一八三三〇号ト行違ヒニ接到シ御来示ノ次第委細拝承セリ  
然ルニ

一、交換公文案ニ関シ政府カ体裁ヲ重要視セラルコトハ至極御尤ノ次第ニシテサレハコソ当方ニ於テ前記拙電中詳述セルカ如ク案文ノ校正及用語ニ付一方ナラス苦心ヲ重ネ漸クニシテ現在案ノ程度迄漕キ付ケ得タル次第ナリ故ニ今日トナリ貴電第一五四号乃至第一五六号ノ趣旨ニ依リ新ニ修正ヲ提議スルモ右ノ経緯ニ顧ミ到底目的達成ノ見込ナキノミナラス却テ先方ヨリハ必ス我方ノ態度變更ヲ詰リ解決阻害ノ責ヲ我ニ帰スヘク斯クテハ今日迄支那側ノ不信ヲ責メ来レル我方ノ地位ハ忽チ転倒シテ甚タシク不利トナルコト明カナリ加之支那側ニテハ豫テ外部ニ対シ日本政府カ昨年矢田、王間ノ話合ヲ取消シ次テ本年二月本使ノ一旦承諾シタル解決条件ヲ覆シタル旨頻ニ宣伝シ居ル矢先又復三度其ノ態度ヲ變更シタルトテ一層騒ギ立テ夫レカ為折角今日ノ処迄進捗シタル交渉モ又モヤ停頓状態ニ陥ルヘキヲ虞ル  
二、故ニ貴電御来示ノ如ク政府ニ於テ日支關係ノ大局ニ鑑

370 昭和4年3月21日

田中外務大臣より  
在上海重光総領事宛（電報）

中国側返翰に邦人保護の趣旨を含ませれば他  
に拘泥せずに交渉取纏め方芳澤公使へ訓令

本省 3月21日午後11時40分発

\* 第一八七号

芳沢公使へ

貴電第三二七号ニ関シ

当方ノ所見ハ一応往電第一八六号ノ通ナルモ貴方ニ於テ種々御考量ノ結果往電第一五五号又ハ同第一五六号ノ修正案ニテハ交渉再ヒ停頓スヘシトノ御見込ミナルニ於テハ結局往電第一五四号後段修正案ノ趣旨ニテ最善ノ御努力ヲ煩ス外ナカルヘシト思考スル処同修正案中当方ノ最モ重キヲ置ク所ハ支那側返翰案ニ挿入スヘキ「一層保護ノ完全云云」ノ点ニシテ該返翰案ニ「邦人ニ対スル保護ハ実ニ当然ノ儀ニ有之候」ト言ヒ放シニテハ一見如何ニモ無責任ナルカ如ク觀ル者ヲシテ邦人保護ニ関スル支那側誠意ノ程ヲモ疑ハシムル懼ナシトセス固ヨリ會議録ヲ読ム者ニハ此点自

ミ速カニ不愉快ナル懸案ヲ一掃シ局面展開ヲ期セラルル御趣旨ヨリ云フモ此ノ際交換公文案ニ対シ実質的修正ノ提議（貴電ニハ單純ナル形式ノ問題トアルモ支那側ニテ如何ニ該案文ノ措辭ヲ重大視シ居ルカハ往電第三二〇号ニ依リ御了悉ノコトト存ス）ヲナスコトハ特ニ御再考ヲ煩ハシ度殊ニ周ハ案文字句ノ問題ニ関シ今週中ニ一応話合付カハ王正廷ハ二十三日頃来滬スヘキ旨申居ル処御訓令ノ如キ我方ノ修正提議ノ為王トノ会见此ノ上遷延スルコトトモナラハ時局不安ノ折柄或ハ交渉ノ前途ニ意外ノ故障ヲ生シ為ニ前記政府ノ御希望ニ反スルカ如キ結果ヲ招来スルノ懸念ナキニアラス

三、右ノ如キ事情ニ鑑ミ貴電第一五五号又ハ第一五六号ノ修正案ハ到底成功ノ見込ナク却テ交渉上ニ不利ナル影響ヲ及ボス虞アルニ付之レカ提議ヲ見合ハセ一応試ニ貴電第一五四号後段ノ修正ヲ提議シ先方ヲ納得セシメ得サル場合ハ結局往電第三二〇号末段程度ノ修正方努力スルコトトナシ而シテ貴電第一八三三三号後段支那側申出ノ修正点ニ対スル承諾モ右我方修正案ノ掛引ニ利用スルコトト致シ度何分ノ儀ナルヘク二十二日正午迄ニ御回訓ヲ請フ

371

昭和4年3月23日

在上海重光総領事より  
田中外務大臣宛（電報）

自ラ限度アリ從テ當方トシテハ公表文書中ニ何等カノ形ニテ支那側カ事件解決後一層我居留民保護ニ熱心ナルヘキコトヲ表示センコトヲ切望スルモノニシテ此ノ希望ハ支那側ノ新提議即チ邦人保護責任ノ限度ヲ更ニ縮少スルモノトモ解シ得ヘキ「國際公法ニ照シ」ノ文句挿入ニ応スル場合愈々切ナルヲ覺ユル次第ナリ而シテ此点ニ関シ上海發本大臣宛電報第七三三三号及第七四四号王部長ノ声明ナルモノニ誤リナシトセハ今次我方ノ希望ハ謂ハハ右声明中ニ所謂「further ensuring protection」云々ノ趣旨ヲ此際繰返サンコトヲ求ムルモノニシテ別ニ新ナル難問題トモ思考セラレス孰レニスルモ文句ハ當方ノ差シテ重キヲ置ク所ニ非ス從テ往電第一五四号後段返翰案ニ対スル當方ノ修正ニ必スシモ拘泥セララルル必要ナキニ付上記ノ趣旨篤ト御諒承ノ上我方ノ希望達成方精々御尽力相成度尙本電以外ハ全部往電第一八三三三号ノ趣旨ニテ御交渉相成差支ナキニ付右ニテ交渉纏ル場合ニハ案文確定前彼我修正ノ諸点一応電報アリタシ

重光・周内交渉による会議録および交換公文  
案の調整状況につき芳澤公使報告

上海 3月23日前発  
本省 3月23日前着

第三四一号

芳沢公使ヨリ

貴電第一八三号及貴電第一八七号ニ関シ

二十二日重光、堀内ヲシテ周司长ト会見セシメ先ツ我方ヨリ過日支那側ヨリ提出セル修正中第四点ハ既ニ話合付キタルニ付今日ハ残ル三点ヲ研究スル順序ナルカ実ハ之ニ関聯シテ日本政府ヨリモ二ツノ修正意見ヲ申越シ居リ即チ一ハ會議録三ノ四山東条約義務不履行ニ関スル件ニ付「解決」ノ二字ヲ「実行」ト改ムル事ニシテ他ノ一ハ交換公文案ノ字句ニ関スルモノナリトテ貴電第一五四号後段ノ修正案ヲ示シ右修正ノ理由ニ付適當ノ説明ヲ与ヘタル上双方ノ修正ヲ併セテ考慮シタシト告ケ種々論議ヲ重ネテ折衝シタル末漸ク左ノ如キ結果ヲ見タル趣ナリ

一、日本側往翰案中「本日ヨリ」ヲ「本件解決ニ関スル文書ノ交換調印ノ日ヨリ」ニ改ムルコトハ格別ノ意味ハナ

キモ只公文ノ体裁ヲ整ヘ且二月四日会見ノ際ノ本使説明ノ趣旨ニ合致セシメムトスルニ過キササル旨ヲ敷衍説明ノ結果周ハ右修正ニ異議ナキ旨ヲ言明セリ

二、支那側来翰中「依照國際公法」ノ一句追加ニ関シテハ右ハ支那側ニ於テ從來此ノ種文書ニ慣用スル文字ニシテ他意ナキ旨ヲ確メタル後我方ニテハ之カ挿入ニ同意スルコトトシ

又「接防」ヲ「接收」ニ改ムルコトハ貴電ノ如キ特別ノ意味ナシトノ周ノ説明アリタルニ依リ之亦同意スルコトセリ

三、前項来翰案中「現ニ尚此ノ趣旨ニ基キ變更シ居ラス」ノ一句ヲ削除スルコトニ就テハ周ハ前記國際公法云云ノ支那側修正案ヲ我方ニ於テ承認スルニ対シ特ニ妥協ノ精神ヨリ之ヲ王部長ニ取次キ承諾セシムル様尽力スヘシト約セリ

四、同案中「日本兵山東撤兵後ニ於テハ前記ノ趣旨ニ基キ一層保護ノ完全ヲ期スヘク候」ノ一節ヲ追加スルコトニ就テハ右ハ単ニ字句又ハ体裁ノ問題ニ止マラス実ニ重要ナル意義ノ追加ニシテ新ニ問題ヲ起スモノト云フヘク殊

ニ右ノ修正ハ国民政府カ外国人保護ヲ以テ当然ノコトトナス根本方針ニ反ストテ最強硬ニ反対シ且此ノ点ハ曩ニ本件公文案作成ノ際双方激論ノ末決定シタル所ニシテ此ノ際之ヲ變更スレハ解決条件全体ニ影響スルコトトナルカ故ニ更メテ政治會議ニモ上議スルヲ要シ到底交渉ヲ円満ニ纏メ得ル見込ナキニ付自分ハ引受け難シト飽迄承服セス当方ハ前記修正ノ趣旨ヲ反覆説明シタルモ先方ノ態度益々強固トナリ此上談合ヲ進ムルコト不可能トナリタルニ付明日再ヒ此点ヲ討議スルノ余地ヲ残シテ一先ツ話ヲ打切りタリ

五、會議録三ノ末項中「解決」ヲ「実行」ト改ムルコトハ起草ノ際ノ経緯ニ鑑ミ難渋ヲ極メタルモ結局先方ヲシテ納得セシメタリ

六、共同声明書ノ「共同」ノ二字削除方ニ付テハ支那側修正案ハ単ニ声明ノ表題ノミニ関スルモノニシテ其ノ内容ニハ全ク触レサルコトヲ確メタルヲ以テ一旦定メタル重要点ヲ變更スルノ困難ヲ指摘シタル後若シ支那側ニテ會議録ノ字句ハ其ノ儘トシ單ニ国民政府ニ於テ発表ノ際表題ヲ「声明書」ト記スコトナラハ日本側ニテハ同意シ差

支ナキモ若シ支那側ニ於テ會議録ノ字句修正ノ希望アル場合ニハ日本本文ハ其ノ儘トシ漢文ノ方ハ表題ノミヲ「声明」トナスコトニ日本政府ノ同意ヲ得ル様尽力スヘキコトトセリ

右諸点中第四項ニ関シテハ尚此ノ上トモ最善ノ努力ハ致スヘキモ前記ノ事態ニテ充分目的ヲ達スルノ見込少キ様思ハル

尚貴電第一五四号前段中(一)及(二)ノ点ハ更ニ同電及貴電第一五七号ノ御趣旨ニ依リ解決方引続キ努力スル積リナリ

王ハ明二十三日来滬スル予定ノ由

372 昭和4年3月23日 在上海重光総領事より  
田中外務大臣宛(電報)

重光・周内交渉で議事録および交換公文案の  
調整成り二四日王部長と関係文書にイニシヤ  
ルの予定につき芳澤公使報告

上海 3月23日後発  
本省 3月23日後着  
第三四八号

芳沢公使ヨリ

往電第三四一号末段會議録中末段ノ二点ハ本使王部長間ニ直接談合スルコトトシテ今日迄取残シ置キタルカ右ハ一ニハ王部長上海引付ケ策モアリタル次第ナル処王ハ既ニ今二十三日来滬シ愈明日会见ノ見込モ付キタルニ依リ本日重光、堀内ヲシテ周、崔ト会合シ昨日ニ引続キテ内交渉ヲ行ハシメタリ先ツ我方ヨリ昨日ノ内交渉ニ依リ決定シタル諸点中往電第三四一号ノ(一)(三)及(五)ハ王部長ニ於テ其儘承認シ六ノ点ハ後段ノ如ク漢文ノ声明書標題ノミヲ変更スルノ案ニ決定方希望スル旨ヲ確メタル後四公文案中保留ノ点ト共ニ前記會議録中二箇所ノ未決点ニ付長時間論議ヲ重ネタル結果漸ク左ノ通落着ケリ

一、會議録三ノ一末尾ニ崔士傑説明ノ要点ヲ記入スルコトハ支那側ニ於テ飽ク迄反対シタルニ付結局「陳述セリ」ノ次ニ「尚右ノ外事実問題トシテ山東交渉員ヨリ芳沢公使ニ対シ右ニ関スル具体的方法ヲ説明スル処アリタリ」ヲ追加スルコトトセリ

二、會議録三ノ(二)密令写ヲ送付セシムル事ハ二月四日ノ会见ニ於テ決定シタル処ニ非サルノミナラス支那側ニ於テ

二十四日午前十一時本使ニ於テ王部長ト会见スルコトニ打合セタルカ其ノ際済南事件解決ニ関スル各種文書全部ニ「イニシアル」スルコトト致スヘキニ付御含置請フ追テ正式調印ノ日取及文書公表方等ニ関シテハ何レ明日ノ会见ニ於テ協議決定スヘキモ支那側ニテハ全国代表大会モ数日中ニ終了ノ筈ニテ其ノ上ハ直ニ南京ニ於テ正式調印ヲ行ヒ得ル旨申居ルニ付右ニ間ニ合フ様貴方ニ於ケル諸手続至急御取運ヒ相成度シ

373 昭和4年3月24日

田中外務大臣より  
在上海重光総領事宛(電報)

済南事件解決関係文書を承認の旨芳澤公使宛  
て訓令

\* 第一九〇号

芳沢公使へ

貴電第三四八号ニ関シ

彼我修正ニ関スル御交渉ノ結果ハ全部之レヲ承認ス解決文書正式調印等ノ日取ニ付テハ支那側希望ノ通り代表大会終

本省 3月24日後5時16分発

ハ密令ノ性質上其ノ写ヲ送付スルコトハ党部ニ対スル關係ヨリ言フモ到底引受ケ難シトテ強硬ニ反対シタルニ付結局「密令ヲ発セシメ」ノ次ニ「其ノ趣ヲ御通知スヘシト陳述セリ」ノ一句ヲ加フルコトトセリ

三、保障及撤兵ニ関スル王部長返翰案中ニ撤兵ノ後一層保護ノ最善ヲ期スル旨ヲ記載スルコトハ支那側ニテハ往電第三四一号ノ如キ理由ニ依リ絶対ニ承諾シ難シトテ徹頭徹尾反対シタルニ付我方ヨリ百方説得ヲ試ミタル結果最後ニ漢文ニハ「此後」ノ二字ヲ加ヘ即チ「故此後國民政府對於日僑之保護実爲当然之事」ト記載スルコトトシ邦訳文ニハ「先ニ声明シアル処ニシテ今後國民政府カ日本在留民ニ対シ保護スヘキハ実ニ当然ノ次第ニ有之候」ト訳スルコトト打合セタリ

右内交渉ニ於テ決定シタル諸点ハ何レモ是レ迄御訓令ノ趣旨ニ合致シ居リ第三項ノ点モ外交文案起草當時ノ経緯及其ノ後ノ支那側ノ態度ニ鑑ミ到底是以上ノ解決ヲ得ル見込ミナシト考ヘラルル処右ノ諸点ハ王部長モ既ニ承諾シタルニ付右全部其儘御承認相成様致度シ

尚今後双方ノ係官再ヒ会合ノ上一切ノ文書ヲ整理ノ上明

了後直ニ南京ニ於テ之ヲ行フコトニ異議ナク又調印ト同時ニ文書ヲ発表スルコトニモ我方ノ関スル限り異存ナシ尚本件文書案「イニシアル」後ノ諸措置ニ付テハ追電ス

374 昭和4年3月24日

在上海重光総領事より  
田中外務大臣宛(電報)

王外交部長と済南事件解決関係文書の調印など今後の措置に関する打合せ状況につき芳澤  
公使報告

\* 第三五五号

往電第三五四号ニ関シ

芳沢公使ヨリ

二十四日王部長ト会见ノ際

一、先ツ本使ヨリ双方係官ノ努力ニ依リ解決案文ニ付意見ノ一致ヲ見タルニ付双方用意ノ案文ヲ交換ノ上「イニシアル」ヲ附スルコトトシタキ旨提議シ王モ之ニ同意シタルニ依リ邦文及漢文ノ共同声明、議定書、會議録及交換

上海 3月24日後発  
本省 3月24日後着

公文ヨリ成ル四箇ノ文書ノ読合ヲナシタル後本使及王ニ於テ「イニシャル」ヲ附シタリ

二、次テ本使ハ我方ニ於テハ撤兵ニ関シテハ上奏ノ上御裁可ヲ經ル要アルニ付右御裁可アル迄ハ調印シ得サル旨念ヲ押シタル上調印日取ニ対シ先方ノ都合ヲ質シタルニ第三次代表大会ハ多分二十七日終了スヘキニ付其ノ後直ニ調印シ度キトノコトナリシニ依リ仮ニ二十八日南京ニ於テ之ヲ行フコトニ定メ置キ先方ニ於テ差支シタル際ハ其ノ旨當方ニ通スルコトニ打合せ置キタリ（二十八日ニ仮定ノコトハ発表セサルコトニ打合せタリ）

三、共同声明書発表ノ日取ハ先方ノ希望ニ依リ正式調印ノ日ニ於テ決定スルコトナリタルカ本使ヨリ東京及南京ニ於テ同時ニ発表シ得ル様豫メ政府トノ間ニ打合せヲ遂ケ置ク要アルニ依リ相当時間ノ餘裕ヲ取り置ク必要アル旨説明シ王ノ承諾ヲ得置キタリ

四、本使ノ質問ニ対シ王ハ支那側引継委員ハ四、五名ノ豫定ニテ其ノ顔触未タ決定セサルモ崔士傑ヲ委員長トシ外交部ヨリ約二名派遣ノ筈ニテ泰安政府ヨリモ一、二名加ハルコトトナリシト答ヘタルニ依リ我方ニ於テハ既ニ委

員モ内定シ居リ其ノ一人ハ目下当地ニ滞在シ居ル処我方トシテハ速ニ國民政府ノ機関ニ行政引継ヲナスノ用意アルニ依リ直ニ当地ニ於テ引継ニ関スル下打合せヲ遂クル方可ナルヘキ旨述ヘ王モ即座ニ同意シ明二十五日川南ト崔トノ間ニ談合セシムルコトセリ

五、本使ハ本解決案ニ依リ中央党部ヨリ地方党部ニ密令シ支那全国ニ亘ル排日及排貨運動ノ終熄ヲ期スルコトナリ居ル処既ニ濟南事件モ事実上解決シタル次第ナレハ國民政府ニ於テモ此ノ際日支親善ニ関スル充分ノ誠意ヲ示シ党部ノ密令ヲ待ツコトナク速ニ有効ナル取締ヲ行フ様特ニ努力セラレ度旨王ノ注意ヲ促シタル処王モ努力スヘキ旨ヲ答ヘ以テ新聞等ニ発表スヘキ事項往電第三五四号ノ通打合ノ上午後二時半午餐ヲ共ニシ四時近ク散会セリ

375 昭和4年3月25日

田中外務大臣より  
在上海重光總領事宛（電報）

濟南事件解決關係文書調印までの間に南京・

漢口事件解決方芳澤公使に訓令

本省 3月25日後11時40分發

第一九七号

芳沢公使へ

濟南事件解決關係諸文書ノ正式調印等迄ニハ尚数月アルモノト思考セラルル処此ノ間ニ漢口事件及南京事件解決方ニ付テモ最終の決定ヲ見濟南事件關係文書ト同時ニ発表シ得ルコトトモナラハ頗ル好都合ト存ス既ニ十分御考慮中ノコトト存スルモ為念

376 昭和4年3月28日

濟南事件解決關係文書

一、日支兩國共同聲明書

日支兩國政府ハ客年五月三日濟南ニ於テ發生セル事件カ兩國國民傳來ノ友誼ニ鑑ミ極メテ不幸悲痛ノ出來事ナルヲ認ムルモ、今ヤ兩國政府及國民ハ切ニ友誼ノ増進ヲ望ムカ故ニ此ノ際該事件ニ伴フ不快ノ感情ヲ記憶ヨリ一掃シ以テ將來兩國國交ノ益々敦厚ナランコトヲ期スル旨、茲ニ聲明ス。

昭和四年三月二十八日南京ニ於テ

（右譯文）

聲明書

中日兩國政府對於去年五月三日濟南所發生之事件鑑於兩國國民固有之友誼雖覺爲不幸悲痛已極但兩國政府與國民現頗切望増進睦誼故視此不快之感情悉成過去以期兩國國交益臻敦厚爲此聲明

中華民國十八年三月二十八日在南京

中華民國外交部長 王正廷（印）

日本帝國特命全權公使 芳澤謙吉（印）

二、議定書

昨年五月三日ノ濟南事件ニ依リ發生シタル日支兩國ノ受ケタル損害問題ニ關シテハ、双方ニ於テ各同數ノ委員ヲ任命シ日支共同調査委員會ヲ設置シ實地調査ヲ爲シ、之ヲ決定ス。

昭和四年三月二十八日南京ニ於テ。

日本帝國特命全權公使 芳澤謙吉〔印〕  
國民政府外交部長 王正廷〔印〕

（右譯文）

議定書

關於去年五月三日濟案發生中日兩國所受之損害問題雙方各任命同數委員設立中日共同調查委員會實地調查決定之

中華民國十八年三月二十八日在南京

中華民國外交部長 王正廷〔印〕  
日本帝國特命全權公使 芳澤謙吉〔印〕

三、保障及撤兵ニ關スル交換公文

往翰

以書翰啓上致候。陳者、本使ハ國民政府ニ於テ日本軍ノ山東撤去後全責任ヲ以テ在支日本國臣民ノ生命及財産ノ安全ヲ保障セラルルニ於テハ、帝國政府ハ現ニ山東ニ在ル日本軍ヲ本件解決ニ關スル文書ノ交換調印ノ日ヨリ向フ貳箇月以内ニ全部撤去スヘキ旨、茲ニ貴部長ニ對シ通告スルト共ニ、日本軍撤去ノ際ニ於ケル引繼ノ措置ニ關シテハ日支兩

國各委員ヲ任命シ現地ニ於テ商議辦理セシメントヲ提議致候。

此段照會得貴意候。敬具。

昭和四年三月二十八日

日本帝國特命全權公使 芳澤謙吉〔印〕  
國民政府外交部長 王正廷殿

（右譯文）

爲照會事山東日軍撤去後國民政府以全責保障在華日僑生命財産之安全則帝國政府擬自關於解決本案文件互換簽字之日起至多兩個月內將山東現有日本軍隊全部撤去本公使特向貴部長通知並關於日軍撤去前後之措置應由中日兩國各派委員就地商議辦理本公使茲特向貴部長提議相應照請

查照須至照會者

右照會

大中華民國外交部長王正廷  
昭和四年三月二十八日

來翰

大中華民國外交部長王

照會事准本日

貴公使照會內開山東日軍撤去後國民政府以全責保障在華日僑生命財産之安全則帝國政府擬自關於解決本案文件互換簽字之日起至多兩個月內將山東現有日本軍隊全部撤去本公使特向貴部長通知並關於日軍撤去前後之措置應由中日兩國各派委員就地商議辦理本公使茲特向貴部長提議等因查在華外人國民政府依照國際公法負責保護向有聲明故此後國民政府對於日僑之保護實爲當然之事

來照所開撤兵日期及期間業經知悉關於日軍撤去時之接收辦法

貴公使提議由兩國政府各任命委員就地商議辦理本部長表示同意相應照復

查照須至照會者

右照會

大日本帝國特命全權公使芳澤謙吉

中華民國十八年三月二十八日

王正廷

（右譯文）

以書翰啓上致候。陳者、本日附貴翰ヲ以テ國民政府ニ於テ日本軍ノ山東撤去後全責任ヲ以テ在支日本國臣民ノ生命及財産ノ安全ヲ保障セラルルニ於テハ、帝國政府ハ現ニ山東ニ在ル日本軍ヲ本件解決ニ關スル文書ノ交換調印ノ日ヨリ向フ貳箇月以内ニ全部撤去スヘキ旨茲ニ通告スルト共ニ、日本軍撤去ノ際ニ於ケル引繼ノ措置ニ關シテハ日支兩國各委員ヲ任命シ現地ニ於テ商議辦理セシメントヲ提議スル旨御照會ノ趣、閱悉致候。查スルニ、支那ニ於ケル外國人ニ對シ國民政府ニ於テ國際公法ニ遵ヒ責任ヲ以テ保護スヘキ旨ハ嚮ニ聲明シアル所ニシテ今後國民政府カ日本在留民ニ對シ保護ヲナスヘキハ實ニ當然ノ次第ニ有之候。御申越ニ係ル撤兵ノ期日及期間ハ既ニ了承致候。就テハ、日本軍撤兵ノ際ニ於ケル引繼ノ措置ニ關シテハ兩國政府ヨリ各委員ヲ任命シ現地ニ於テ商議辦理セシムヘキ旨貴公使ノ御提議ニ對シテハ、本部長ニ於テ同意ヲ表シ候。

此段、回答得貴意候。敬具。

中華民國十八年三月二十八日

國民政府外交部長 王正廷

四、會議錄

一、共同聲明ニ關スルモノ。

芳澤公使及王部長ハ玆ニ濟南事件ヲ解決シ兩國ノ睦誼ヲ増進セシカ爲、別紙日支共同聲明書ヲ本年三月二十八日夫々東京及南京ニ於テ發表スルコトニ合意セリ。

二、損害問題ニ關スルモノ。

王部長ハ濟南事件ノ發生ニ依リ支那側ハ既ニ損失ヲ受ケ居ル處芳澤公使ニ於テハ日本側モ亦損失有ル旨既ニ屢々陳述セラレタルカ、右ハ事實問題ニ屬スルカ故ニ玆ニ兩國ニ於テ同數ノ委員ヲ任命シ共同委員會ヲ組織シ同委員會ヲシテ双方ノ損害數ヲ調査シ之ヲ辨理セシメンコトヲ提議スル旨、述ヘタリ。

芳澤公使ハ日支双方ノ受ケタル損害ハ略同額ト認メラレ直ニ之ヲ相殺スルモ差支無シト信スル處、王部長ニ於テ共同委員會ヲ設置シ同委員會ヲシテ之ヲ決定セシムヘキ旨提議セラレタルニ就テハ、予ハ予ノ述ヘタル右相殺ノ趣旨ヲ以テ之ニ同意ス。但シ、該委員會ノ調査範圍ハ兩

國ノ個人ノ受ケタル損害ニ限ルヘキモノトスル旨、述ヘタリ。

王部長ハ同意ス。右ニ依リ至急辨理スヘシ、ト述ヘタリ。

仍テ、別紙議定書ノ通り双方ノ意見一致セリ。

三、日本在留民保護及其ノ他ノ問題ニ關スルモノ。

本問題ニ關シ双方討議ノ結果左ノ如シ。

(甲) 芳澤公使ヨリ山東ニ於ケル日本軍撤去後在留日本國臣民ノ生命及財産ノ保護ニ關シ國民政府ニ於テ如何ナル具體的方法アリヤ承知シ度シ、ト述ヘタルニ對シ。

王部長ハ山東在留日本國臣民ノ生命及財産ハ固ヨリ國民政府ノ全責任ヲ以テ保護スル所ナルニ依リ將來モ外交部長トシテ全責任ヲ以テ適切ナル措置ヲ講スヘク、差當リ國民政府ヨリ山東省政府ニ對シ同地方在留日本國臣民ノ保護方ヲ命令シ、右命令寫一部ヲ芳澤公使ニ送付スヘキ旨、陳述セリ。尙、右ノ外事實問題トシテ山東交渉員ヨリ芳澤公使ニ對シ右ニ關スル具體的方法ヲ説明スル所アリタリ。

(乙) 芳澤公使ハ山東ハ勿論支那全國ニ互ル排日排貨ニ對

シテハ國民政府ニ於テ嚴重ナル取締ヲ爲シ速ニ之カ絶滅ヲ期センコトヲ要求セリ。

王部長ハ本件ニ就テハ誠意ヲ以テ其ノ責ニ任スヘク、且ツ中央黨部ニ諮リ各地方黨部ニ對シ排日排貨運動ヲ直ニ終熄セシムヘキ旨ノ密令ヲ發セシメ其ノ趣ヲ御通知スヘシト、陳述セリ。

(丙) 芳澤公使ハ膠濟鐵道ノ交通ヲ確保スル爲國民政府ニ於テ

(一) 同鐵道ノ車輛ヲ他線ニ流用セサルコト、

(二) 同鐵道ノ收入ハ同鐵道自體ノ經費及日本政府ニ對スル債務ノ元利償却ニ充ツルノ外他ノ用途ニ使用ス可カラサルコト、

(三) 同鐵道ノ重要ナル地位ニ配置スヘキ日本人ノ數ヲ增加スルコト、

ヲ承諾アリ度シ、ト述ヘタルニ。

王部長ハ鐵道交通ノ確保ハ國民政府ノ最モ留意スル所ナルヲ以テ同政府ハ撤兵問題トハ關係ナク自發的處置トシテ鐵道部長ヲシテ膠濟鐵道局長ニ對シ同鐵道ノ車輛ヲ他線ニ流用ス可カラサル旨、及同鐵道ノ收入ハ同鐵道自體

ノ經費及日本政府ニ對スル債務ノ元利償却ニ充ツルノ外他ノ用途ニ使用ス可カラサル旨、命令セシメ、右命令寫一部ヲ芳澤公使ノ許ニ送付スヘキ旨、陳述セリ。

尙、王部長ハ同鐵道ノ重要ナル地位ニ配置スヘキ日本人ノ増員方ニ關シテハ濟南事件ト分離シ同鐵道理事長ノ資格ヲ以テ處理スヘキ旨、附言セリ。

(丁) 芳澤公使ハ青島埠頭ノ完成、青島市政外國人參與、膠濟鐵道沿線都市開放其ノ他山東條約若ハ同細目協定ニ基ク支那側義務ニシテ今日迄履行セラレサルモノハ凡テ此ノ際速ニ實行セラレタキ旨、要求セリ。

王部長ハ國民政府ニ於テ右ノ條約及協定ニ基ク支那側ノ義務ヲ履行スヘキハ勿論ナルカ、本件ハ撤兵ノ條件ト爲スコトナク別ニ速ニ實行スヘシト、述ヘタリ。

昭和四年三月二十八日南京ニ於テ。

日本帝國特命全權公使 芳澤謙吉〔印〕  
國民政府外交部長 王正廷〔印〕

(右譯文)  
會議錄

377

昭和4年3月30日

在南京岡本領事より  
田中外務大臣宛（電報）

濟南事件解決後の諸懸案中南京・漢口事件を  
優先討議する旨王外交部長と打合せについて  
芳澤公使報告

府債務本利外不使移用於他途此項命令可鈔錄一份送達芳澤公使至於該路重要地位增用日人一節本部長祇能以該路理事長資格處理不能與濟案相提並論

丁、

芳澤公使謂凡山東條約所載或細目協定所載如青島碼頭之完成外人之參與青島市政膠濟路沿線開埠以及其他中國方面之義務尚有未履行者要求國民政府此時即行履行

王部長謂國民政府對於該條約及協定中國方面應履行之義務固應履行之但此事不能作為撤兵條件自應另行從速實行

中華民國十八年三月二十八日於南京

中華民國外交部長 王正廷（印）

日本帝國特命全權公使 芳澤謙吉（印）

一、關於聲明書

王部長與芳澤公使玆為解決濟案增進兩國睦誼起見彼此同意將另紙所記之中日聲明書於本年三月二十八日在南京東京各自發表

二、關於損害問題者

王部長謂濟案發生中國方面既受損失據芳澤公使迭經陳述日方亦有損失此乃事實問題故提議兩國任命同數委員組織共同委員會使之調查雙方損害額數而辦理之

芳澤公使謂雖相信中日雙方所受之損害認其額數略同不妨即行抵銷然王部長既經提議設立共同委員會使之決定余當以余所述之此項抵銷趣旨予以同意但該委員會調查之範圍只限於兩國個人所受之損害

王部長謂可。照此即行辦理

如此附於別紙之議定書雙方意見一致

三、關於保護日僑以及其他問題者

本問題雙方辯論之結果如左

甲、

芳澤公使謂本公使願知山東日軍撤去後國民政府關於日僑生命財產之保護有如何具體方法

王部長謂山東日僑生命財產國民政府向負全責保護將來當以外交部長資格負全責予以適切之措置國民政府當命令山東省政府對於日僑予以保護此項命令可鈔錄一份送達芳澤公使

此外作為事實問題由山東交涉員向芳澤公使關於上述之具體的方法有所說明

乙、

芳澤公使謂不但山東中國全國之排日排貨事件要求國民政府嚴重取締以期速行消滅

王部長謂此事本部長當以誠意負責設法並商中央黨部密令各地黨部勸導以期即行終熄排日排貨之運動此意可以通知丙、

芳澤公使謂為確保膠濟鐵路之交通希望國民政府承認以下諸事項（一）該鐵路之車輛不得移用於他路（二）該路收入除充該路本身之經費及償還日本政府債務之本利外不得流用於他途（三）增加配置於該路重要地位日本人數

王部長謂鐵路交通之確保國民政府向所最為注意惟視為與撤兵問題無涉自動的處置可使鐵道部長令該路局長不得移用該鐵路車輛於他線該路之收入除養路費以及償還日本政

\*第三一六号

芳沢公使ヨリ

南京 3月30日前発  
本省 3月30日後着

二十九日午前十時本使堀内同伴王部長ト会见シ約二時間ニ亘リ今後交渉スヘキ諸問題ニ付非公式ニ一般的意見ノ交換ヲ為シ今後ノ討論ノ順序ヲ打合セタルカ先ツ王ヨリ自分ノ意見ヲ開示スヘントテ昨年矢田總領事ト交渉ノ際討議シタル条約南京及漢口ノ三問題ニ付テハ其ノ後事情ノ変化ニ伴ヒ幾分異リタル解決ヲ為ス必要モアル様思考セラルルモ先ツ今後自分ノ解決ヲ要スト認ムル事項ヲ試ニ順ヲ追テ説明セシニ

（一）条約改訂問題ハ速ニ討論シ度希望ナル処自分ノ解釈ニテハ日本ハ既ニ支那ノ関稅自主權ヲ認メ居ルモノナルニ付此ノ際ハ条約廢棄問題ニ関スル公文交換ハ見合ハセ直ニ条約改訂ノ交渉ニ入り度而シテ右条約改訂ノ「フオーミユラ」トシテハ二種アリ其ノ一ハ既ニ數ヶ国トノ間ニ成立シタル関稅及治外法權ニ関スルモノト其ノ二ハ總括的通商航海条約ナリ自分トシテハ寧ロ後者ヲ希望スル次第

ナリ

(二) 南京事件ニ関シテハ矢田總領事ト話合ヒタル趣旨ヲ踏襲スルモ差支ナシ元來同事件ハ国民政府ニ於テ不快遺憾トシ居ル処ニシテ英米仏伊トノ間ニモ協定済ナレハ大体之等協定ト同様ノ条件ニ依リ解決シ得ヘク殊ニ国民政府ハ英米ノ軍艦カ砲撃シタルニ拘ラス日本側ニテ砲撃セサリシ事ヲ多トシ居ル次第ナルヲ以テ同事件ノ解決ニハ左シタル困難ナカルヘシ

(三) 漢口事件ニ関シテハ矢田總領事ハ日本側ニノミ損害アリタル旨主張セラレタルカ自分ハ支那側ニモ数人ノ被害者アリタル事ヲ主張シ矢田氏ハ支那人ニ負傷者アリタルヲ認メタルノミニシテ意見一致セサリシカ此ノ一点ニ付話合附ケハ本件ノ解決ヲ見得ヘキ状態ニ在リ

同事件ノ外ニ現在問題トナリ居ル懸案ニ就テハ地方的ニ解決シ得ヘキカ故ニ此ノ際貴公使トノ間ニ更メテ交渉スルノ要ナカルヘク結局一昨年ノ事件ニ付矢田氏トノ話合ヲ其ノ儘継続シ得ヘシト思考ス

(四) 日本船舶臨検問題ニ就テハ過日上海ニテ御話シタルカ自分ノ解釈トシテハ日支条約ハ既ニ失効シ居レル今日国民

議ナカルヘキ筈ナル旨説明シ置キタル次第ナリ

(五) 東三省ニ於ケル鐵道建設ハ凡テ国家的問題ニシテ地方的問題ニハアラス從テ當然外交部ニ於テ之ヲ処理スヘキ筋合ナリ

以上王部長ヨリ説明アリ右ノ諸点ニ付一応非公式ニ意見ノ交換ヲ試ミ其ノ順序ヲ打合ハセテ本交渉ニ入ル事ト致シ度キ旨述ヘタルニ依リ本使ハ以上各種ノ問題ニ入ルニ先立チ昨日調印ヲ了シタル濟南事件解決条件中急速実行ヲ要スルモノニ付御相談スヘシト前置シ往電第三一七号ノ通談合スル所アリタリ

右濟南事件ニ関スル談話ノ後本使ヨリ王部長ノ述ヘタル諸問題ニ付意見ヲ述ヘ同部長トノ間ニ数次討論ヲ重ネタルカ其ノ要領左ノ如シ

一、条約ノ改訂ハ最重要ナル問題ナル処実ハ日本政府ニ於テハ未タ意見確定シ居ラサル節モアリ本使東京出發前ニハ先ツ單純ナル「フォォーミュラ」即チ関稅ニ関スル協定ニ傾キ居タルモ貴部長ノ意見ハ一応日本政府ニ報告シテ其ノ所見ヲ問合ス事ト為スヘシト述ヘタル処王ハ言ヲ挾ミ一旦單純ナル「フォォーミュラ」ニテ条約ヲ締結スルモ又

政府ハ支那領水内ニ於テ當然日本船舶ノ臨檢搜索ヲナシ得ルモノト思考スルモ自分トシテハ決シテ高圧の処置ヲ執ルコトナク互ニ友誼の精神ヲ以テ本問題ヲ解決セムコトヲ希望ス素ヨリ日本ノ通商ヲ阻害スルヲ欲セサルモ時局柄漢口方面ニ軍需品ノ輸送セラルルヲ阻止スルノ必要アルヲ以テ本件ノ急速解決ヲ望ム次第ナリ

(五) 次ハ陸境関稅問題ナルカ海陸関稅ノ統一ニ関シテハ華盛頓條約ニ規定アリ其ノ後北京関稅會議ノ問題トナリタルモ討論中止ノ為決定ヲ見ルニ至ラサリシ次第ナリ昨年矢田氏ト宋子文及自分トノ稅率交渉ニ當リテハ態ト同問題ヲ上議セサリシカ右ハ既ニ主義上解決シ居ルノミナラス日本ハ既ニ関稅自主ヲ認メ海陸共一様ニ新稅率ヲ適用スヘキモノト解釋シタルカ為ナリ然ルニ右ヲ愈々実行セムトスルニ當リ日本側ヨリ抗議ヲ受ケ居ル現状ナリ

(六) 輸出付加稅問題モ既ニ張學良ノ同意ヲ得テ之ヲ東三省ニモ實施セムトスルヤ之亦日本側ノ抗議ヲ受クルニ至レリ先般岡本、加藤兩氏本問題ニ就キ來談セラルル処アリタルニ依リ右ノ経緯ヲ述フルト共ニ從來モ東三省ニハ種々ノ課稅行ハレ居タルカ今之ヲ統一スルニ付日本側ニテ異

次ニ其ノ他ノ問題ヲ含ム條約ノ交渉ニ移ルノ要アリ結局一層多ク時日ヲ要スル事トナルヘシ現ニ関稅問題ニ関シ條約ヲ締結シタル五ヶ国モ其ノ他ノ問題ニ関スル交渉ヲ為ス旨約シ居レリト語レルニ付本使ハ右何レノ方法ニ依ルモ先決問題トシテ條約廢棄問題ヲ解決スルヲ為交換公文ノ案文ヲ決定スルノ要アル処今尚殘リ居ルハ單ニ字句ノ問題ト承知シ居レリ先ツ同問題ヲ速ニ決定スル事トシ其ノ間ニ條約改正ノ本交渉ニ付日本政府ト相談スルコトト為スヘシト述ヘ置ケリ

二、南京、漢口兩事件ハ字句ノ問題殘リ居ルノミナレハ速ニ解決ヲ見ルニ至ルヘク必要ニ応シ双方係官ノ間ニ下交渉ヲ為サシムルモ可ナリト述ヘタル後漢口水案ニ関シ往電第三一九号ノ通再ヒ王ノ注意ヲ促シ置キタリ

三、船舶臨檢問題ニ関シテハ本使ヨリ王ニ對シ過日上海ニテ會見ノ際日本側ノ態度ヲ大體述ヘ置キタルカ理論上ノ問題トシテハ貴說ノ如ク日支條約廢棄ノ結果當然日本船舶ヲ臨檢シ得ヘシトノ解釋ニハ絶対ニ同意スル事能ハサルモ仮ニ理論ヲ離レ自分一己トシテハ「カーテシー」ヨリ支那側ニ對シ勉メテ友誼的態度ヲ示シタキ考ナリ實ハ

既ニ過日御話ノ次第ヲ東京ニ報告シ置キタリ  
然レトモ本問題ハ何分多クノ困難ナル事情ヲ伴フカ故ニ  
日本政府トシテモ態度決定ニハ困惑ヲ感スヘキモ自分ヨ  
リハ政府ニ考慮ヲ促ス事トスヘシト述ヘタルニ王ハ之ヲ  
内密ノ話ヲ実ハ本問題ニ就テハ過日「ニュートン」ト  
ノ間ニ話合フ遂ケ既ニ細目ノ取極成立セリ御承知ノ通り  
英國トノ条約ハ今尚有効ナルニ不拘英國ハ斯ク好意ヲ示  
シ居ル次第故日本側ニテモ速ニ態度ヲ決定セラレタシト  
語レルニ依リ然ラハ日本政府ノ参考トシテ右取極ノ内容  
ヲ示サレ度シト確メタルニ王ハ有体ニ言ヘハ國民政府ハ  
陸軍ニハ信用ヲ置キ難キニ付軍政部海軍処長陳紹寬ニ趣  
旨ヲ含マセ英國船臨檢ノ必要アル場合ニハ先ツ海軍側ヨ  
リ英國官憲ニ交渉シ次ニ当該船会社ノ承認ヲ得タル上船  
長ニ豫告シテ臨檢搜索ヲ実行スルコトナリ居ル旨ヲ説  
明シ右英國側ト取極メノ内容ハ万一外間ニ洩ルル事アラ  
ハ英國側ノ迷惑トナルニ付特ニ秘密ニ願ヒ度シト附言シ  
転シテ

四、税率問題ニ付双方論議ヲ交ヘタルコト往電第三二〇号  
ノ通

五、滿洲鐵道問題ニ関シテハ本使ヨリ右ハ極メテ重要ノ問  
題ナリ滿洲ハ從來事実上中央ヨリ独立ノ形トナリ居タル  
ニ付日本ハ鐵道ノ延長新設等ニ付是迄奉天側ト屢次交渉  
ヲ為シ來レル処支那全國モ一応統一セラレタル今日ニテ  
ハ自分一己トシテハ今後南京トノ間ニモ一種ノ話合ヲ為  
ス事或ハ必要ナルヘシト考ヘ居ルカ故ニ他ノ諸問題解決  
ノ後ニハ本問題ニ移ルコトモ差支ナシト考ヘ居レリ然レ  
トモ何分極メテ重大ナル問題ナルカ故ニ貴部長ノ所見ハ  
一応政府ニ報告スヘシト述ヘタル処王ハ自分ノ所見ニテ  
ハ東三省ハ素ヨリ支那ノ一部ナルカ故ニ國民政府トシテ  
ハ本問題ヲモ取扱フノ必要アル次第ナルカ今直ニ解決ヲ  
迫ルノ意ニハ非スシテ只右ノ主義ヲ明ニシ置カントスル  
ノミト答ヘタリ

王ハ最後ニ以上ノ諸問題ハ極メテ重要ナルカ故ニ先以テ自  
由ナル意見ノ交換ヲ行ヒ其ノ解決ニ便ナラシメムトシタル  
次第ナルカ次回ヨリ正式商議ニ入り度シト告ケ結局明三十  
日午前十時ヨリ正式交渉ヲ始メ先ツ南京漢口兩事件ヨリ附  
議スルコトニ打合せタリ

378

昭和4年4月2日

在上海重光總領事より  
田中外務大臣宛（電報）

王外交部長が漢口事件解決案文に中国人傷害  
に対する撫恤の語句挿入を強要について芳澤  
公使報告

上海 4月2日後発  
本省 4月3日前着

第四〇九号

芳沢公使ヨリ

王部長來滬シタルニ依リ打合せノ上一日午前十時半本使ハ  
堀内、有野及上村帶同外交部駐滬辦事処ニ於テ王ト会見ス  
先方ハ周司長病氣ニテ來滬シ得サリシ為江幫辦及李科長ノ  
ミ出席セリ

本使ヨリ先ツ曩ニ話合フ遂ケ置キタル通濟南事件既ニ解決  
シタルニ依リ直ニ漢口及南京事件ヲ解決スルコトシ度キ  
旨述ヘタルニ王ハ此ノ機會ニ於テ日本ノ条約問題ニ対スル  
意向ヲ伺ヒ度シト申出テタリ依テ本使ハ我方ニ於テ条約改  
訂ノ商議ニ応スルノ用意アルコト勿論ナルカ其ノ前ニ先ツ  
条約廢棄問題ヲ曩ニ矢田總領事及貴部長間ニ討議シタル交

換公文案ノ基礎ニ於テ結末ヲ付クルノ要アル旨説明シタル  
ニ然ラハ全權任命ノ通知ニ関スル日本側往翰ハ如何ニスル  
積リナリヤト重ネテ質問シタルニ依リ自分カ条約改訂ノ商  
議ニ入ルコトナラハ特ニ全權ニ任命セラレタル旨通知ス  
ルノ要ナキヲ以テ右公文ハ任命通知ノ字句丈ヲ變更セハ採  
用シテ差支ナカルヘク夫等ノ点ハ右公文案討議ノ際詳細意  
見ノ交換ヲ行フヘク本日ハ漢口及南京事件ヨリ商議スルコ  
トトシタシト輕ク条約問題ニ関スル議論ヲ抑ヘタル処王ハ  
条約問題ニ関スル方針ハ貴説ノ通りニテ差支ヘナキカ漢口  
南京及条約問題ハ仮令別別ニ話合フ進ムル場合ニ於テモ各  
問題ノ案文纏マリタル際ハ「イニシアル」シ置キ三問題全  
部纏リタル上同時ニ調印スルコトシ度シ各國共南京事件  
解決ノ公文ニハ必ス条約改訂ノコトニ言及シ居ル次第ナル  
ヲ以テ此ノ点ハ枉ケテ同意アリタキ旨繰返シ懇願シタルニ  
付本使ハ条約問題ニ付貴方カ妥協ノ精神ヲ以テ商議ニ応シ  
速ニ解決スルノ用意アリ同問題ノ為ニ漢口及南京事件ノ調  
印ヲ不当ニ遅延セシムルコトナキニ於テハ三件同時ニ調印  
スルコトニ異存ナシ

就テハ直ニ漢口事件ヨリ始メ度処同事件ノ解決案文ニ付テ

ハ昨年十月既ニ矢田総領事ト貴部長トノ間ニ「イニシヤル」ヲ附シアルニ付其ノ儘本使ト貴部長トノ間ニ「イニシヤル」ヲ附シ差支ナキヤト述ヘタルニ王ハ同事件ニ関スル支那側照会案末段「中国人民ノ傷害ニ関シテハ貴国政府ニ於テ相当ノ撫恤ヲ与ヘラレ度シ」ノ一句ハ削除ヲ保留シ置キタリ右一句ヲ挿入スルニ於テハ直ニ「イニシヤル」シ差支ナシト述ヘ抑モ本件解決ノ目的ハ速ニ両国民ノ感情融和ヲ計ランカ為ナリ然ルニ日本ニ対シテハ損害賠償ヲ為スモ支那側ノ傷害ニ対シテハ撫恤セストノ事ニテハ兩國ノ感情ヲ融和スルノ目的ニ副ハサルコトナルヘシト主張シタルヲ以テ本使ハ抑モ本件ハ共產党ノ煽動ニ依リ発生シタルモノニシテ日本ハ被害者ノ地位ニアリ被害者カ自衛ノ手段ニ出テ其ノ為暴徒ニ傷害アリタリトテ撫恤スルノ要ナキハ勿論ニシテ只撫恤云云ノ字句ハ事件発端ノ際車夫一人日本水兵ニ刺殺サレタリトノ事ヨリ問題トナリタルモ矢田総領事ト「イニシヤル」シタル際ハ一応削除シ追テ調査ノ上事実明瞭トナリタル上ハ支那側ヨリ右一句挿入方提議スヘキ旨保留シアル趣ナリ然ルニ車夫刺殺云々ノ事実ハ我方記録ニハ之ナク全然無根ノ事実ヲ公文中ニ記載スルコトハ日本側

本使ヨリ南京事件ニ付討論センコトヲ提議シタルニ王ハ李科長ヲシテ昨年十月八日矢田総領事ヨリ政府ノ訓令ニ基ク趣ヲ以テ本件解決案ヲ提示シ其ノ際同総領事ヨリ日本政府ノ意嚮ハ少クトモ英米兩國ノ解決案ニ劣ルヲ得サル旨述ヘタル趣説明セシメタル上右日本側提案ノ案文ハ英米案ヲ基礎トスト言ヒ乍ラ遙カニ英米案ヨリモ強硬ナリ殊ニ *injuries and injuries* ヲ侮辱及暴行ト訳シアル処右ニ対スル支那文ハ「不敬及傷害」トナリ居レリ既ニ英米トノ本件解決漢文公文ニ於テ「不敬及傷害」トナリ居リ一般モ右字句ニ慣レ居ルニ付日本ニ対シテノミ「侮辱及暴行」ト言フカ如キ字句ヲ使用スルニ於テハ国民一般ハ甚タシキ讓歩ナリトテ攻撃スヘシ況ンヤ侮辱ハ *insult* ニシテ *indignity* ハ不敬ト訳スルヲ適當トスヘシト述ヘタルニ依リ本使ハ日本案ハ必スシモ英米案ト全然同一ニハ非ス例ヘハ英米案ニテ *profound regret* トナリ居ル処ヲ日本案ニテハ半ニ遺憾ノ意トシ「深甚」ナル一句ヲ削除シテ字句ヲ緩和シタル点モアリト一応説明ノ上

尚日本案ニ付意見アル点アリヤト尋ネタルニ「三月十六日」命令ヲ発シトカ「第十九師」ノ軍隊トカ英米案ニハ全

ノ感触ヲ刺戟シ兩國感情ノ融和ヲ計ル所以ニモ非ス依テ本使ハ絶対ニ撫恤云々ニハ同意シ難シト駁シ同事件ノ発端ニ関スル漢口総領事館調査報告アリトテ本使ニ示シ飽迄右一句ノ削除ニ同意セス既ニ午後一時トナリタルヲ以テ王ハ今一応考慮スヘク都合ニ依リテハ双方係官ノ間ニ於テ協議セシムルモ差支ナシト語リタルニ依リ本使モ承知ノ旨答ヘ午後五時再会ヲ約シ辞去セリ

379 昭和4年4月2日 在上海重光総領事より  
田中外交大臣宛(電報)

南京事件解決我が方案文に対する中国側修正  
王外交部長より提議について芳澤公使報告

上海 4月2日午後  
本省 4月3日前着

\*第四一〇号

往電第四〇九号ニ関シ

芳沢公使ヨリ

一日午後五時約ノ如ク王部長ト辦事処ニ於テ会見ス双方出席者午前ノ通

然ナキ字句ヲ追加シタル処アリ日本案ニハ賛成シ難シト述ヘタルニ付本使ハ更ニ英米案ニモ命令ヲ発シタルコト及特定軍隊ヲ解散シタルコトハ記載シアリ我方ハ事件ノ際英米軍艦ノ砲撃ニ拘ラス終始砲撃ニ参加セス貴部長モ之ヲ德トシ居ラレタル程ナレハ命令ノ日附ヤ軍隊ノ名称位挿入スルモ過酷トハ言フヘカラス尚右字句以外異議アル点ナキヤト念ヲ押シタルニ日本案ノ前段ハ右修正提議ノ通ニテ差支ヘナキモ中段以下ハ十月矢田総領事トノ間ニ協定シタル案文ヲ其ノ儘採用スルコトトシタキ旨答ヘタリ依テ本使ハ昨年十月矢田総領事カ取次タル案ハ伊国トノ協定案ニ倣ヒタルモノナル趣ノ処伊国ノ如キハ宣教師一人殺サレタル位ニシテ日英米ノ被害トハ比較スヘカラス依テ政府ニ於テモ右十月案ニテハ到底同意ノ余地ナシトテ英米案ニ基キ対案ヲ作成シタル次第ナルニ付貴部長ニ於テモ我方ノ立場ヲ諒解ノ上十一月提出ノ案ニ付考慮アリタキ旨説明シタルニ然ラハ自分ヨリモ対案ヲ提出セムト言ヒ出シタリ

依テ対案ハ結構ナルカ寧ロ我方案ノ上ニ貴方ニ於テ修正ヲ欲スル点ヲ試ミニ書入ルルコトトシテハ如何ト述ヘタルニ王モ承諾シ十一月八日提出ノ我方案ヲ基礎トシ左記修正ヲ

提議シタリ

(一)第二項「侮辱及暴行」ヲ「不敬及傷害」トス

(二)第三項「殊ニ本年三月十六日」以下「保護ノ完全ヲ期シ」迄削除ス

(三)第四項全部即チ「尚国民政府ハ本事件ニ於テ」以下「茲ニ通知ス」迄ヲ英支案支那側往翰案ト同様「至當時被共產黨煽動而参加不幸事件之該軍隊業已解散國民政府且已施行切實辦法以懲肇事兵卒及其他有關係之人此則本部長堪爲貴公使附帶通知者也」トスルコト

依テ本使ハ右ニ対スル日本側回答案ニハ異存ナキヤト確メタルニ異議ナシト答ヘタルニ依リ「第十九師」ヲ英米案ト大体同様ニスルコトニ付テハ考慮シ見ルヘキモ「三月十六日」ヲ削除スルコトニハ同意シ兼ヌル旨一応述べ置キ其ノ他本日支那側修正提議ノ個所ハ全部懸案ノ儘トシ今後ハ双方係官ノ間ニ於テ本日ノ討議ニ基キ意見ノ交換ヲ行ヒ案文纏リタル上ハ本使及王部長間ニ於テ「イニシャル」ヲ附スルコトニ話合ヲ爲シ置キタリ

那側ニ不利ナル諸点ヲ含ミ居ルニ付此ノ儘ニテハ到底同意シ難シトテ往電第四一〇号ノ如キ修正並ニ微細ナル字句ノ変更方ヲ申出テタル次第ナルカ我方トシテモ今日トナリテハ英米以上ニ峻厳ナル態度ニ出ツルノ要ナカルヘク政府ノ御方針「大体英米同様ノ解決条件ニテ差支ナシ」トセラルルモノト諒解致シ居ルニ付テハ王ノ修正提議ニ対シテハ客年南京宛貴電第一〇一号御訓令ノ趣旨ヲ含ミ今後大体左ノ方針ニテ適宜応酬シ成ルヘク速ニ取極メタキ考ナルニ付御含置アリタシ

(一)支那側来翰案第二項中 indignities and injuries ノ漢文ハ支那側修正通「不敬及傷害」ノ文字ヲ用フルニ同意シ邦訳文ニハ「侮辱及暴行」ノ語ヲ避クルト共ニ成ルヘク右漢文ニ近キ他ノ適當ナル文字ヲ使用スルノ案ヲ提議シ已ムヲ得サレハ邦訳文ニモ漢文ト同一ノ文句ヲ用フル事

(二)第三項中「殊ニ本年三月十六日命令ヲ発シ保護ノ完全ヲ期シツ、アリ」ノ文句ハ場合ニヨリ結局削除ニ同意スルコト（此ノ点ハ英米案ニハ之無ク日本トシテモ今更特ニ之ヲ挿入セシムルノ実益ナシト思考ス）

(三)第四項ハ全文英国ノ例ニ依ル事ヲ承諾シ其ノ内「第十九

380 昭和4年4月2日 在上海重光総領事より  
田中外務大臣宛（電報）

南京事件解決に關し中国側修正案の線で交渉を纏めたき旨芳澤公使希望について

上海 4月2日後発  
本省 4月3日前着

\*第四一八号

芳沢公使ヨリ

往電第四一〇号ニ関シ

南京事件ニ関シテハ御承知ノ通り昨年矢田総領事ニ於テ王部長トノ会谈ノ結果支那側提案ニ修正ヲ施シタルモノヲ一応本省ニ取次キ之ニ対スル御回訓ニ基キ同総領事ハ十一月八日日本側対案ヲ漢訳ノ上王ニ交付シ一応説明ヲ爲シタル儘トナリ居タル次第ナル処昨一日午後ノ会見ニ於テ最初王ハ我方案ヲ討議ノ基礎ト爲スコトニ極力反対シタルカ本使ヨリ右案ハ英米トノ解決文ト大差ナク日本トシテハ少クトモ英米ト同様ノ解決案ニアラサレハ到底承知シ難キコトヲ反覆主張シタル結果王ハ終ニ決々日本案ニ基キ商議スルコトニ同意スルト共ニ唯日本案中ニハ英米トノ解決文以上支

師」ヲ「当該師」ト改ムルコト

四右ノ外実質上影響ナシト認メラルル字句ノ変更ハ適宜同意スルコト

尚前記矢田総領事ヨリ王ニ交付シタル案文ハ客年南京宛貴電第一〇二号其ノ儘ニシテ同年南京宛貴電第一〇一号（「南京領事館ノ受ケタル一切ノ損害ハ直ニ賠償スルノ用意アルコト」ハ明記シアラサル処此ノ点ハ英米案ニハ之無キニ依リ今更右来翰中ニ之カ明記方ヲ提議スルモ王ハ容易ニ同意セサルヘク思ハルルニ付テハ客年南京宛閣下宛電報第五七一号末段王ノ同意ヲ採用シ成ルヘク別個ノ文書ニテ訳セシムルカ又ハ已ムヲ得サレハ口頭ニテ約束セシムル様説得方試ムル積リナリ爲念

381 昭和4年4月8日 在上海重光総領事より  
田中外務大臣宛（電報）

漢口事件解決中国側公文中に中国人撫恤の語句挿入要求への対応振りにつき芳澤公使より  
請訓

第四五三号

芳沢公使ヨリ

往電第四〇九号後段ニ関シ

漢口事件ニ関シ支那側ニテハ来翰中ニ「本国人民ノ傷害ニ関シテハ相当ノ撫恤ヲ与ヘラレタキ」旨ノ一句挿入方ヲ主張スルハ必スシモ撫恤金ヲ目的トスルニハ非スシテ寧ロ対内関係上体面ヲ繕ハムトスルニ外ナラサルコトハ一日午前ノ会見ニ於テモ察知セラレタル処南京来電第三一六号周ノ談話ニ徴スルモ右ノ点ハ一層明カトナリタルニ依リ昨年上海宛電報第六号ノ如ク漢口総領事限リノ措置トシテ見舞金ヲ支払フ案ニテハ恐ラク支那側ヲ承服セシメ難シト思ハル就テハ今後ノ交渉ニハ支那側留保ノ一句削除方引続キ努力致スヘキモ若シ右ニテ到底支那側ノ同意ヲ取付ケ得サル場合ニハ一応前記見舞金案ニテ妥協ヲ試ミ之ニテモ尚纏マラサル場合ニハ支那側ノ希望ヲ婉曲ニ公文ノ文面ニ表示スルヲ許ス趣旨ニテ例ヘハ（一）支那側来翰中ニ「事件ノ発端ニ当リ混雑中支那人ノ受ケタル傷害ニ関シテハ貴国政府ニ於テ

上海 4月8日後発  
本省 4月9日前着

第三三五号

堀内ヨリ芳澤公使へ

十日午前午後ノ二回ニ亘リ周龍光宅ニ於テ当方ハ本官ノ外有野及上村、支那側ハ周ノ外江及李出席ノ上南京事件解決ニ関スル支那側来翰案ニ付討議シタルカ

(一)大臣発南京宛客年第一〇二号第二項「日本国領事官吏及其ノ他ノ日本人」トアルヲ「日本国領事官、官吏及其ノ他ノ日本人」トシ依テ領事官ニ対スル所為ニ付テモ遺憾ノ意ヲ表示セシムル趣旨ヲ含マセルコトトシ支那側ノ同意ヲ得タリ

(二)「侮辱及暴行」ノ二句ニ付テハ先方ハ英文解決案ノ漢文ニ倣ヒ「不敬傷害」トセンコトヲ主張シタルカ此ノ案ニテハ「身体上ノ傷害」ナル一句ト重複スルノミナラス日本語ニテ斯ル場合ニ「不敬」ナル字句ヲ使用スルハ聊カ不適当ナルニ依リ indignities and injuries ニ対シテハ別ニ何等カ良キ訳語ナキヤト協議シタル処周ヨリ indignities ハ慢侮ト訳スルモ可ナリト口ヲ挟ミタルニ依リ我方ヨリ然ラハ indignities and injuries ヲ「不敬慢侮」ト訳シテハ如何ト計リタルニ最初ハ彼は反対シタルカ結局

相当ノ撫恤ヲ与ヘラレタシ」ト記載シ我方返翰中ニハ何等此ノ点ニ言及セサルコトト為スカ又ハ（二）来翰中「事件ノ発端ニ当リ混雑中生シタル支那人ノ負傷者ニ関シテハ貴国政府ニ於テ慰藉セラレタシ」ト記載シ我方返翰中ニハ単ニ「事件ノ発端ニ当リ混雑中支那人ニシテ傷害ヲ受ケタルモノアルヲ聞キ同情ヲ表ス」位ノ一句ヲ挿入スルコトトシ本件ヲ取纏ムルコトト致度何分ノ儀至急御回電ヲ請フ

382 昭和4年4月12日 在南京岡本領事より  
田中外務大臣宛（電報）

堀内・周交渉で纏った南京事件解決中国側公文案について

別電

四月十二日発在南京岡本領事より田中外務大臣宛第三七四号

中国側公文案

南京 4月12日前発  
本省 4月12日後着

第三七三号

本官発上海宛電報

「慢侮不敬」トナスコトニ落着キ但シ先方ハ右邦訳ノ場合「慢侮」ヲ「侮辱」トスルカ如キコトナク漢文トシテハ軽キ意味ヲ有スル「慢侮」ニ当ル日本語ヲ用ヒラレタシト希望シタルニ依リ支那側ノ意ノアル処ハ公使ニ取次キ置クヘキ旨答ヘ置キタリ

(三)「貴国政府ニ向テ遺憾ノ意ヲ表示ス」ヲ英文案ニ倣ヒ「貴国政府ニ向ケ深ク遺憾ノ意ヲ表示ス」ト修正方提議シ先方ノ同意ヲ得タリ

第四第三項「殊ニ本年三月十六日命令ヲ発シ云云」ノ一句ハ英米何レノ案ニモナク且「屢次軍民長官ニ対シ……通令シ」トアル以上更ニ繰返スノ必要ナカルヘシトテ先方ハ徹頭徹尾削除ヲ求メテ已マス我方モ此ノ点ハ交渉上ノ沿革モアリ公使ニ於テ重キヲ置キ居ルニヨリ絶対ニ削除シ得ストテ押問答ヲ重ネタルカ此ノ一点ハ或ハ他ノ問題ト交換的ニ利用シ得ルコトモアルヘシト考ヘ暫ク未決ノ儘留保スルコトトセリ

(四)第四項ハ一日上海ニ於ケル会見ニ於テ英支案ニ倣フコトトナリタルニ依リ一二字句ニ付テノ議論アリタルノミニテ別電ノ通意見ノ一致ヲ見タリ尚支那側ニテハ英支案ノ

漢文ニハ「当該師」ノ文句ナク単ニ「該軍隊」トアルヲ理由トシテ今回モ同一ノ文句使用方類リニ主張シタルニ付結局之ニ同意シ「当該軍隊」ト記スコトセリ  
右ノ結果纏リタル案全文別電第三三六号ノ通但シ邦訳文ハ仮訳ナルニ付正式ノ訳文ハ幾分変更アルヘキ旨説明シ先方諒解ヲ取り付ケ置キタリ尚我方回答文ハ一日決定シタル通我方案通りニテ差支ナキ旨更ニ確メ置キタリ  
依テ本件往復文ニ付テハ前記四「……本年三月十六日命令ヲ発シ……」云云ノ一点ヲ除キ総テ意見ノ一致ヲ見タル次第ニシテ周ハ王部長モ右一点ヲ除キ其ノ他ハ総テ同意シ居レリト云ヘリ就テハ次回ノ御会見ニハ場合ニ依リ此ノ点ヲ譲リ案文ヲ確定セラレテハ如何カト存ス

（別電）

南京 4月12日後発  
本省 4月12日後着

第三七四号

本官発上海宛電報第三三六号  
芳沢公使へ堀内ヨリ

予以充分之賠償為此國民政府提議組織中日調査委員会以便證實日本人從中國人方面所受之傷害及損失並估計每件中所應賠償之數目相応照請  
查照見復爲荷須至照會者

383 昭和4年4月12日

在南京岡本領事より  
田中外交大臣宛（電報）

漢口事件解決に關し中国人撫恤關係語句挿入  
をめぐる堀内・周交渉の状況報告

南京 4月12日前発  
本省 4月12日後着

第三七五号

本官発上海宛電報

第三三七号

往電第三三五号ニ関シ

堀内ヨリ芳沢公使へ

十一日午前十時前日ニ引続キ周宅ニ於テ双方委員会同ノ上漢口事件解決案ニ付討議シタルカ

（一）支那側ハ來翰案末段ノ撫恤云云ノ一句挿入方執拗ニ主張

國民政府外交部長日本公使宛照會案

爲照會事關於前年三月二十四日所發生之南京事件本部長並特向貴公使聲明國民政府爲欲增進中日兩國人民固有之友誼起見準備將該事件從速解決之<sup>（茲カ）</sup>並本部長以國民政府名義對於在本事件日本領事官吏及其他日本人所被加之慢侮不敬並其財產上之損失及身體上之傷害以極誠懇之態度向

貴國政府深示歉意至該事件經調查證實完全爲共產黨於國民政府建都南京以前所煽動而發生惟國民政府負擔其責任國民政府對於在留日本人之生命財產已本其所持之政策迭次通令軍民長官繼續切實保護「更於昨年三月十六日發布命令以期保護之完全」現共產黨及其足以破壞關於中日人民友誼之惡勢力已經消滅故國民政府此後保護外人自較易爲力惟國民政府特擔任對於日本人之生命財產及其正當事業不致再同樣之暴行及煽動發生合併聲明至當時被共產黨煽動而參加不幸事件之該軍隊業已解散國民政府且已施行切實辦法以懲辦肇事兵卒及其他有關係之人此則本部長堪爲貴公使附帶通知者也

國民政府準備依照國際公法通行原則對於日本國領事館日本國官吏其他日本人所受身體上之傷害及財產上之損失應從速

シタルニ依リ我方ハ事件發生後正當防衛ニ依リ暴徒ニ死傷者生シタリトテ撫恤スヘキ謂レナク結局撫恤云云ノ一句ハ曩ニ王部長モ言ハレタル通事件ノ発端ニ於テ刺殺セラレタリト稱スル車夫一名ニ對スルモノナル処我方調査ニ依レハ車夫ノ刺殺セラレタル事實ナキヲ以テ結局右一句ヲ挿入スルハ事實ヲ無視スルコトナルヲ以テ絶對ニ同意シ難シトテ我方ノ記録ニ依リ當時ノ事情ヲ詳細説明シタル処

（イ）支那側ニ於テハ撫恤金ヲ貰受ケントスル考ナク

（ロ）撫恤云云ノ一句ハ単ニ希望トシテ支那側來翰ニノミ記載スルニ止マリ日本側回答ニハ全然言及セラルル必要ナク

（ハ）右一句ハ単ニ國民ノ感情ヲ和ケ延テ對日感情ヲ良好ニセントスル次第ナルニ付曲ケテ同意アリタキ旨反覆懇請シタルモ我方ハ頑トシテ同意セサリシ処先方ハ逆ニ右ノ一句ニ代フルニ「本事件發生時ニ於テ中國人民ノ傷害セラレタルモノニ對シテ貴國政府ニ於テ相當ノ撫恤ヲ与ヘラレタク」トスルモ差支ナシト迄折レテ出テタルカスル字句ノ挿入ハ公使モ絶對ニ不同意ナル上事實ニ合ハサル

カ故ニ同意シ得ストテ当方モ飽迄頑強ノ態度ヲ示シ結局  
右ノ点ハ更ニ後日ノ商議ニ譲ルコトナレリ  
(二)我方回答案ハ先方ニ於テ異議ナキコトヲ更ニ確カメタリ  
唯

(イ)第二項中段「保障ニ備ヘン」ハ来翰中ノ用語ニ合致セ  
シメンカ為「賠償ニ備ヘン」ト修正セリ  
(ロ)「提議ニ対シテハ深く同意ス」ノ「深く」ヲ削除シ  
「提議ニ対シテハ同意ス」ト修正セリ

尚支那側来翰ノ邦訳及往翰ヲ書翰体トスルコトニ依リ生シ  
タル多少ノ字句ノ変更ハ差支ナキ旨先方ノ了解ヲ得置タリ

384 昭和4年4月16日 田中外務大臣より  
在上海重光総領事宛（電報）

南京・漢口事件解決交換公文の語句修正方芳  
澤公使へ訓令

本省 4月16日後5時30分発

\*  
第二五八号

芳沢公使へ

南京発上海宛電報第三三六号ニ関シ

別電一

四月十六日発在上海重光総領事より田中外務  
大臣宛第五〇八号

南京事件損害賠償了解事項案

二 四月十六日発在上海重光総領事より田中外務

大臣宛第五〇九号

了解事項案中修正部分

上海 4月16日後発

本省 4月16日後着

\*  
第五〇七号

芳沢公使ヨリ

堀内等南京ニ於テ南京事件解決ノ交換公文案ニ付討議シタ  
ル際客年貴電合第四一九号ノ(二)御訓令ノ次第二顧ミ堀内ヨ  
リ周ニ対シ(一)領事館及公使館員ノ損害ハ申告ニ依リ審査ヲ  
経ル事ナク本件公文交換ト同時ニ支払フヘキ事(二)其他ノ日  
本人ノ損害支払ニ付テハ本件ニ関係アル英米何レノ国民ヨ  
リモ不利ナル地位ニ置カレサル事(三)賠償ニ関スル国民政府  
ノ誠意ヲ示ス為豫メ相当額ヲ日本政府ニ指定スル銀行ニ供  
託スル事ノ三項ヲ豫メ何等カノ形式ノ文書ニ依リ取極メ置  
クノ必要ナル所以ヲ説明シタルニ周ハ右第一点ハ既ニ王ニ

一、貴電第四九三号御来示ノ通「不敬」ナル語ハ面白カラ  
サルニ付単ニ訳文ノミナラス支那文原文ニ於テモ之ヲ避  
ケ例ヘハ「無禮」又ハ「非禮」ノ如キ文字ヲ使用セシメ  
ラレ度シ

二、我方往翰案末段ニ「前記貴翰御来示ノ各点ノ責任」云  
云トアルモ処罰ノ点等ニ関スル今次修正ニヨリ変化シタ  
ル事態ニ応スル為右ノ中「各点ノ」ヲ削除セラレ度

三、我方往翰及支那方来翰訳文ハ冒頭及末尾ノミナラス全  
文ヲ候文トセラレ度又往翰案貴方ニ於テ確定セル上ハ全  
文（年月日及署名共）電報アリ度尚来翰原文ハ署名及年  
月日ノ記入振ノミナラス冒頭及末尾ノ記載振併セテ電報  
アリ度シ

四、尚漢口事件解決往復文ニ付テモ三ノ趣旨御含ノ上全文  
電報アリ度シ

385 昭和4年4月16日 在上海重光総領事より  
田中外務大臣宛（電報）

南京事件損害賠償に関する了解事項合意につ  
いて芳澤公使報告

於テ同意シタル事ヲ肯定スルト共ニ其ノ他ノ点ハ何レ王部  
長ト相談シ置クヘキ旨答ヘタル趣ナルニ依リ十四日本使ト  
王部長トノ会見ニ先タチ堀内ヲシテ更ニ右三項ヲ認メタル  
モノヲ周ニ手交シ王ニ説明方申入レシメ置キ往電第四九六  
号同日王トノ会見ニ於テ南京事件ノ討議ニ入ルヤ本使ハ先  
ツ交換公文案ヲ決定スル前右賠償実行ニ関スル三点ヲ確定  
シ置ク事得策ナリト存シ王ニ対シ南京事件解決ニ関スル交  
換公文案ハ南京ニ於ケル双方係官ノ下交渉ニ依リ唯一点ヲ  
除キ大体意見ノ一致ヲ見タル次第ナルカ公文ノ交換ニ依リ  
事件解決シタル後賠償支払ニ関シ紛議ヲ惹起スルカ如キ事  
アリテハ面白カラサルニ付豫メ賠償ニ関スル三原則ヲ文書  
ニ依リテ約束シ置ク事トシタリ右ハ既ニ周司長ヨリノ説明  
ニ依リ御考慮中ノ事ト思考スト前提シ一応右三原則ノ説明  
ヲ試ミタルニ王ハ第一点領事館及館員ノ損害賠償ニ付テハ  
異議ナキモ即座ニ支払フモノナルニ依リ豫メ文書ニ認メ置  
クノ要ナク第二点ハ事実上日本人ヲ英米人以下ニ取扱フ考  
ヘナキモ英米トノ南京事件解決文書ニモ斯ル取極ナキニ依  
リ文書ニ認ムル事ニハ同意シ難ク第三点ノ如キ事実ハ全然  
ナキニ依リ此ノ点ニ関シテハ絶対に同意シ難シト述ヘタル

ヲ以テ本使ハ一一之ヲ反駁スルト共ニ王カ從來度々本使ニ  
對シ南京事件ニ於テ日本カ英米ノ砲撃ニ参加セサリシ事ヲ  
德トシ居ル旨述ヘタルニ顧ミルモ賠償支払ニ付日本人ヲ少  
クトモ英米人同様ニ待遇スヘキ事位ノ約束ヲ文書ニ認ムル  
ハ当然ノ事ナリトテ王ノ反省ヲ促シタルモ同日ハ時間ナカ  
リシ為右ニテ討議ヲ打切りタリ

王カ右ノ如ク強ク反對シタル点ハ形ヲ代ヘテ持出ス方却テ  
目的貫徹上得策ト考ヘタルニ依リ前記賠償ニ関スル文書ヲ  
別電第五〇八号ノ通具体的ニ書改メ十五日午前堀内ヲシテ  
周ト会见説得セシメタル処周ハ詳ハシクハ承知セサルモ若  
シ英米トノ間ニ斯ル取極アルニ於テハ承認シ差支ナカルヘ  
ク王ト良ク相談スヘキ旨答ヘタル趣ナリシニ依リ本使ハ十  
五日午後四時王部長ト会见ノ上先ツ右文書ニ関スル王ノ意  
見ヲ求メタル処(甲)領事館及領事館員ノ損害賠償ノ件ハ問題  
無ク又(乙)ノ(一)(二)(三)四モ英米トノ間ニ同様ノ先例アルニ依リ  
是等ヲ文書ニ依リ約束スルコトニハ同意スルモ(四)損害査定  
額ノ半額ヲ査定終了後一個月以内ニ支払フト云フカ如キ約  
束ヲ為シタル先例モ無ク且若シ損害額ル多額ナルニ於テハ  
果シテ一個月以内ニ半額ヲ支払ヒ得ルヤ否ヤモ今ヨリ豫測

シ得ス旁本項ハ之ヲ削除アリタク又(六)ノ点ハ昨日モ説明シ  
タル通英米トノ間ニモ斯ル事實無キニ依リ同意シ難シト述  
ヘタルヲ以テ本使ハ我方ニハ供託ニ付テハ確カナル情報ア  
リト応酬シタルモ英米人ニシテ死亡シタルモノノ家族ニ立  
替ノ意味ニテ査定前支払ヲ為シタル例アリ右ヲ銀行ニ供託  
シタル事アルヤモ知レサルカ支那側ヨリ賠償資金ヲ銀行ニ  
供託シタル事実無シト飽ク迄事実ヲ否認シ肯セサリシニヨ  
リ水懸論ヲナスモ益ナシト存シ然ラハ此ノ際ハ原則丈ケヲ  
定ムルコトトシ(五)及(六)ハ削除シ其ノ代リ「日本人ノ損害賠  
償ノ支払方法及支払確保ノ方法ニ付テハ英米人ヨリモ不利  
ナル地位ニ置カレサルヘキ」旨規定シ置クコトトシテハ如  
何ト提案シタル処王ハ「賠償支払ノ方法」丈ケニテ充分ナ  
リ賠償支払確保ノ方法ニ付テハ何レノ国トモ約束シタルコ  
トナキニ日本トノ約束ニ特ニ「確保」ノ文字ヲ使用スルハ  
国民政府ノ体面上承諾シ難キ処ナリ等執拗ニ反對シ如何ニ  
反省ヲ求ムルモ動ク色ナカリシニ依リ別電第五〇九号(五)ノ  
案文ヲ示シタルニ案外容易ニ同意シ茲ニ以上ノ諸点ヲ諒解  
事項トシテ文書ト為スコトニ意見ノ一致ヲ見タリ  
依テ本使ハ既ニ先方カ右賠償ニ関スル文書ノ約束ニ同意シ

タル以上「三月十六日附命令云云」ノ一句ニ付最早固持ス  
ルノ要ナシト存シ王ノ切ナル希望ニ依リ南京發閣下宛往電  
第三七四号(一)ノ内ヨリ「更於昨年三月十六日發布命令以期  
保護之完全」ノ二十字ヲ削除シ本件交換公文ノ案文ニ付テ  
モ意見一致シタルニ依リ明十六日午後三時半再ヒ会见ノ際  
「イニシアル」スルコトニ打合せタリ

(別電一)

上海 4月16日後発

本省 4月16日後着

第五〇八号

南京事件損害賠償ニ関スル諒解事項

甲、領事館及領事館員ノ損害賠償ニ付テ国民政府ハ在南京  
日本領事館及領事館員ノ一切ノ損害ニ付テハ申告次第審  
査ヲ經ルコトナク本件解決文書ノ交換ト同時ニ右申告額  
ヲ支払フヘキモノトス

乙、其ノ他ノ日本人ノ損害賠償ニ付テ

(一)日本人ノ損害額査定ニ関スル日支調査委員会ハ日支双  
方ヨリ各二名ノ委員ヲ任命シテ之ヲ組織ス

(二)右日支調査委員会ノ損害額査定ハ本件解決文書交換ノ  
日ヨリ三ヶ月以内ニ終了スヘキモノトス但シ双方合意  
ノ上右期限ヲ延長スルコトヲ得

(三)損害額ノ査定ハ個人損害ヲ先トシ軍隊損害ヲ後トス

(四)日支委員間ニ意見ノ一致ヲ見サル場合ニハ双方合意ノ  
上選定スヘキ本件ニ関係ナキ第三国人ヲシテ仲裁セシ  
ムルコトヲ得

(五)国民政府ハ損害額査定終了ノ後一ヶ月以内ニ査定額ノ  
半額ヲ支払フヘク其ノ後六ヶ月以内ニ残余額ヲ支払フ  
ヘシ

(六)国民政府ハ損害賠償ニ対スル誠意ヲ示ス為本件解決文  
書交換ト同時ニ賠償支払ニ充ツル為十萬元ヲ日本政府  
ノ指定スル銀行ニ供託スヘク右供託金ハ賠償支払ノ最  
後ノ資金ニ充当スヘキモノトス

(別電二)

上海 4月16日後発

本省 4月16日後着

第五〇九号

乙)ノ(5)賠償金支払ニ関スル一切ノ事項ニ関シテハ国民政府ハ日本人ニ対シ英米両国民ニ対スルと同様ノ取扱ヲ為スヘキモノトス

386 昭和4年4月17日

在上海重光総領事より  
田中外務大臣宛(電報)

南京・漢口両事件解決関係文書にイニシャル  
について芳澤公使報告

上海 4月17日前発  
本省 4月17日前着

\*  
第五一六号

芳沢公使ヨリ

十六日午后ニ於ケル王部長トノ会見ニ於テ漢口及南京両事件ノ解決案文ニ付双方ノ意見ノ一致ヲ見タルニ依リ本使及王部長間ニ「イニシアル」ヲ附シタリ委細後電ス  
尚王ハ明夕迄当地滞在ノコトナレルニ付往電第四九六号  
条約問題ニ関シ大至急御回訓ヲ請フ

387 昭和4年4月17日

在上海重光総領事より  
田中外務大臣宛(電報)

漢口事件解決関係文書へのイニシャルに至る  
交渉経緯について芳澤公使報告

別電一 四月十八日発在上海重光総領事より田中外務大臣宛第五二二号

漢口事件解決中国側来翰案

二 四月十八日発在上海重光総領事より田中外務大臣宛第五二三号

漢口事件解決我が方回答案

上海 4月17日後発  
本省 4月17日後着

\*  
第五二二号

貴電第二四八号ニ関シ

芳沢公使ヨリ

右貴電ハ十三日夜接到シタルニ依リ十四日及十五日ノ両日ニ亘リ堀内ヲシテ周龍光ト会見セシメ今一応撫恤云云ノ一句削除方交渉セシメタルカ其ノ際周ハ堀内ニ対シ実ハ王部長ハ嘗テ本件解決方針ニ付事件発生当時漢口ニ居リ事情ヲ

四 済南事件解決交渉(含南京・漢口両事件解決交渉)

知り居ル譚延闓ト相談シタルニ譚ハ本件解決文書中ニハ支那側死傷者ニ関スル賠償要求ノ一句ヲ是非共記載セサルヘカラストノ意見ナリシニ依リ王部長トシテモ切メテ撫恤云云ノ一句丈ニテモ挿入セサルヲ得サル立場ニアル次第ナリト内話シ字句ニ付テハ相談ニ応スルモ全然削除スルコトハ不可能ナリトテ之カ存置ヲ百万懸望シタルニ依リ堀内ハ日本側トシテハ本件ノ発端ニ於テ支那人車夫ヲ刺殺シタル事実ヲ認メサルヲ以テ撫恤云云ノ一句挿入ニハ同意シ得サルカ支那側ノ立場ニモ同情シ負傷シタル車夫一名ニ対シテハ本件解決案トハ切離シ別ニ見舞金ヲ贈ル事ナラハ公使ノ考慮ヲ求メ見ルヘシト告ケタルニ周ハ実ハ今日ニ於テハ右車夫ノ遺族モ判明セサル次第ニテ實際見舞金ヲ貰受クル考ハ無ク只支那側トシテハ対内関係上是非トモ撫恤云云ノ字句ヲ公文ニ表シ度キ次第ナリト本音ヲ吐キ日本側ニテモ支那国民ノ感情ヲ顧念シ枉ケテ右一句挿入ニ同意セラレ度シト繰返シ此ノ儘ニテハ本件ノ解決到底望ナシト認メラレタルニ付堀内ハ已ムヲ得ス右貴電第二四八号ノ後段ノ趣旨ヲ体シ試ミニ支那側ニ於テハ撫恤金ヲ貰受クル意向ナク中国人民ノ死傷ニ対スル撫恤云云ト云フモ実ハ事件発生当初ニ於

ケル車夫ノ傷害ノミヲ問題トシ居ル次第ナリヤト念ヲ押シタルニ然リト答ヘタルニ依リ然ラハ甚タ不本意乍ラ右二点ヲ明瞭ニスル為支那側来翰ニハ「(以下漢文)對於本案發生之初中國人民之被傷害者又請豫以相當之撫恤」(本事件發生ノ当初ニ於テ中國人民ニシテ傷害ヲ受ケタルモノニ対シテモ相當ノ撫恤ヲ与ヘラレ)ノ一句ヲ挿入スルモ(一)我方回答中ニ於テハ右一句ニハ何等言及セス從テ右一句ハ單ニ支那側ノ希望ニ止マリ我方ニテハ之ヲ承認セサル形式トスルト共ニ(二)別ニ文書ヲ以テ撫恤金ヲ申受ケストノ約束ヲ為スニ於テハ右妥協案ヲ一応公使ニ取次キ見ルヘシト述ヘタルニ周モ王部長ニ相談スヘキ旨答ヘタル趣ナリ  
本使ハ十五日午後王部長ト会見ノ際王ニ対シ一応双方係官ノ間ニ於ケル從來交渉ノ經過ヲ説明シ我方ハ事件発生当初ニ於テ車夫ヲ殺傷シタル事実ナク從テ我方ニハ過失モ責任モナキニ依リ撫恤云云ノ一句挿入ニハ終始不同意ヲ唱ヘタルモ支那側ノ切ナル要求ニ鑑ミ不本意乍ラ双方係官ノ間ニ於テ談合ヲ遂ケタル通(一)撫恤金ハ申受ケサル旨文書ニ依リ約束スルコト及(二)我方回答中ニハ撫恤云云ニ言及セサルコトヲ条件トシ

右談合ノ一句挿入方考慮シ差支ナキ意向ナリト述ヘタルニ王ハ右一句挿入ノ代リニ撫恤金ヲ申受ケストノ文書ヲ差出スハ右一句削除ヨリモ一層都合惡シトテ王カ他日離任ノ後斯ル文書発見セラレ政敵ニ利用セラルルヲ恐ルノ意ヲ漏シ且日本側ニテハ回答中承認ノ旨ヲ記ササル次第ニ付撫恤ヲ申受ケストノ文書ナハ必要トセサルニ非サヤトテ飽迄反對シタル上更ニ支那側來翰案中ノ「日本領事館員、海軍々々云云」ノ「海軍々々」ナル字句ハ最近ノ水案發生ニモ顧ミ余リニ目立チテ面白カラサルニ付單ニ「軍員」ト訂正アリタシト申出タリ依テ本使ハ撫恤ヲ申受ケストノ文書ナキニ於テハ支那側來翰中ニ撫恤云云ノ一句挿入方考慮シ得サル所以ヲ反覆説明スルト共ニ「海軍々々」ヲ「軍員」ト修正スルカ如キハ矢田總領事力特ニ「海軍々々」ノ字句挿入方努力シ漸ク纏リタル経緯ニ顧ミルモ既ニ決定シタル点ノ修正ニハ絶対ニ応シ難シト酬ヒ當日ハ一応本件交渉ヲ打切りタルカ翌十六日午前周ヨリ堀内ニ対シ撫恤ヲ申受ケストノ約束ハ如何ニシテモ文書ニ認メ得サル事情アリトテ本使ノ考慮ヲ求ムル様依頼ノ次第モアリ到底先方ノ同意ヲ得ル見込ナシト認メラレタルニ依リ十六日午後本使王部長ト会見

ノ際ハ本使ヨリ最後ノ妥協案トシテ撫恤ニ関スル文書ノ約束ハ要求セサルコトスヘキニ付支那側ニ於テモ「海軍々々」ノ字句修正ハ撤回スル様提議シタル処王部長モ素直ニ承諾シタリ依テ本使ハ更ニ文書ノ約束ハ為ササルカ撫恤金ヲ要求セサルコトハ口頭ノ約束トシ置ク次第ナレハ御忘レナキ様セラレ度シト念ヲ押シタルニ王ハ笑ヒ乍ラ決シテ忘レサルヘシト述ヘタルニ依リ此処ニ意見ノ一致ヲ見本使及王部長ニ於テ別電第五二二号支那側來翰及右訳文及別電第五二三号我方返翰ノ案文ニ「イニシヤル」ヲ附シタリ尚昨年王矢田間交渉當時王カ削除ヲ留保シ居タル一句ハ「關於中國人民之傷害應請貴國政府豫以相當之撫恤」トアリタル処今回挿入スルコトナリタル一句ハ「本事件發生ノ当初」ト限定シテ我陸戰隊ノ正當防衛ニ依ル傷害ニ關係ナキコトヲ明カニシ「應請」ノ二字ヲ「亦請」ト改メテ文意ヲ和ケ「貴國政府」ノ文字ヲ削除シテ日本政府ニ對シテトモ又ハ出先官憲ニ對シテトモ明カニセス「ボンヤリ」希望ヲ表示セシムル形トナシ置キ尚我方返翰冒頭ノ「了承」ヲ「閱悉」ト改メ我方ニテハ支那側ノ右希望ヲ默殺スルモノナルコトヲ一層明カニスルニ努メタリ為念

（別電一）

上海 4月18日前發  
本省 4月18日後着

第五二二号

芳沢公使ヨリ

（一）外交部長ヨリ日本公使宛照会案

為照会事關於民國十六年四月三日發生之漢口事件茲本部長以國民政府名義向

貴公使聲明本案雖經查明證實因共產黨煽動而發生但鑑于中日友好關係對於本案殊為惋惜所有日本領事館員海軍々人及日僑身體財產所受之損害茲擬根據國際公法在合理及必要範圍內者予以賠償並組織中日調查委員會實地調查日本人民所受之損失以審定賠償之確數對於本案發生之始中國人民之被害者亦請予以相當之撫恤俾本案得以圓滿解決相應照会

貴公使查照見復為荷須至照会者

（二）右外交部長來翰訳文

以書翰啓上致候陳者民國十六年四月三日漢口ニ於テ發生セル事件ニ関シ茲ニ本部長ハ國民政府ノ名義ヲ以テ貴公

使ニ對シテ左ノ通聲明致候

本件ハ調査ノ結果共產黨ノ煽動ニ依リ發生セルモノナルコト実証セラレタルカ國民政府ハ中日間ノ友好關係ニ鑑ミ本件ヲ以テ頗ル遺憾トナス就テハ日本領事館員、海軍々人及在留民カ身體上及財産上受ケタル損害ニ對シ國際公法ニ準拠シ合理且必要ナル範圍内ノモノハ之ヲ賠償スルコトトスヘク尚中日調査委員會ヲ組織シ日本人ノ受ケタル損失ヲ實地ニ調査シ正確ナル賠償額ヲ審査決定スルコトト致度シ尚本事件發生ノ当初ニ於テ中國人民ニシテ損害ヲ受ケタルモノニ對シテモ相當ノ撫恤ヲ与ヘラレテ以テ本件ヲ圓滿ニ解決スルコトト致度シ右御了承ノ上何分ノ儀御回答相成度此段照会得貴意候

敬具

（別電二）

上海 4月18日前發  
本省 4月18日後着

第五二三号

芳沢公使ヨリ

日本公使ヨリ外交部長宛回答案  
以書翰啓上致候陳者：月：日附以書翰左ノ通御照会相成閣  
悉致候

民国十六年四月三日（以下往電第五二二号（ニ）ノ通）：何分  
ノ儀御回答相成度候

依テ本使ハ日支調査委員会ヲ設置シ其ノ委員ハ双方ヨリ選  
定シ各日本人ノ受ケタル身体上及財産上ノ一切ノ損害ヲ審  
査算定シ以テ賠償ニ供ヘントスル提議ニ対シテハ同意ヲ表  
シ候

本使ハ国民政府ニ於テ前記御来示ノ責任ヲ最短期内ニ履行  
セラルルニ於テハ漢口事件ニ依リ発生セル各種問題ハ根本  
的ニ解決ヲ告クルモノト認定致候

此段回答得貴意候 敬具

388 昭和4年4月18日

在上海重光總領事より  
田中外務大臣宛（電報）

南京事件解決関係文書の語句修正芳澤公使申  
し出について

トテ依然留保シ居ル趣ナリ

然ルニ十六日午後本使王部長ト会見ノ席上ニ於テ周ハ実ハ  
諒解事項ハ日本側提案ノ儘王部長ニ口頭ニテ漢訳シ聞カセ  
タル次第ナル処（甲）末段「本件解決文書ノ交換ト同時ニ右申  
告額ヲ支払フヘキモノトス」ノ一句（往電第五〇八号）ハ  
急キタル為忠実ニ翻譯セス王部長ニ於テモ其ノ儘同意シタ  
ルカ唯今漢訳シタル文書ヲ示シタルニ王ハ南京事件解決文  
書ノ交換ト同時ニ賠償額ヲ支払フト云フカ如キ約束ハ英米  
共為シタルコトナキコトニ氣付キ周ヲ詰リタルニ依リ右ハ  
単ニ「審査ヲ経ルコトナク支払フ」ト修正アリタク此ノ点  
ハ自分ノ不注意ヨリ起リタル問題ニテ甚タ当惑シ居ルニ付  
特ニ公使ノ斡旋ヲ御願ヒスル次第ナリト述ヘタルニ依リ本  
使ハ然ラハ領事館ノ損失ハ何時支払フ積リナリヤト質シタ  
ルニ王ハ財政部長ト相談ノ上成ルヘク速ニ支払フ様取計フ  
ヘキモ之ヲ文書ニテ約束スルコトハ同意シ難シト述ヘタル  
ニ依リ本使ハ例ヘハ解決文書交換ノ日ヨリ十日若ハ半月以  
内ニ支払フコトトシテハ如何ト述ヘタルニ期限ヲ明記スル  
ハ他国トノ振合モアリ何トシテモ承諾シ難シ  
但シ事実上ニ於テハ成ルヘク御希望ニ副フ様致スヘシトテ

\*第五二七号

往電第五〇七号乃至第五〇九号ニ関シ

芳沢公使ヨリ

十六日午前堀内等周ト会見南京事件賠償問題ニ関スル諒解  
事項ノ漢訳文ヲ決定シタル際周ハ右諒解事項（乙）（丙）（往電  
第五〇九号）ハ日本側ノ提案ニシテ支那側ハ其ノ後段ヲ  
「日本人ニ対シ将来英米兩國国民ニ与フルト同様ノ取扱ヲ為  
スヘキモノトス」ト訂正方主張シタル儘未タ決定シ居ラス  
ト述ヘ供託等ニ関スル英米トノ取極ニハ日本人ヲ均霑セシ  
メサラントスル魂胆ヲ洩シタルニ依リ堀内等ハ右ハ前日公  
使ト王トノ話合ニ相違シ居リ我方提出ノ妥協案ハ既ニ支那  
側ノ同意ヲ得タル処ナルノミナラス「将来」ノ二字ヲ挿入  
セストモ若シ英米等トノ間ニ王部長トノ言ノ如ク實際供託  
等ニ関スル約束ナシトセハ日本モ亦之ニ均霑ノ問題ヲ生ス  
ヘク從テ王部長ノ言カ真実ナル限り支那側ニ取り何等不利  
益ナルコトナキニ非スヤトテ周ノ説得ニ力メタルカ周ハ王  
部長ニ相談ノ上ナラデハ「将来」ノ二字削除ヲ承認シ得ス

右期日記入ノコトニハ到底譲歩ノ色示ササルニ依リ本使モ  
已ムナク「本件解決文書ノ交換ト同時ニ」ヲ「直ニ」ト修  
正スルコトニ妥協スヘシト述ヘタルニ王モ同意シ同時ニ前  
記（乙）（丙）ニ対スル修正申出ハ之ヲ撤回セリ斯クシテ了解事  
項ノ案文確定シタルニ付南京發閣下宛第三三六号ノ（一）外交  
部長來翰案別電第五二八号日本公使回答案並往電第五〇八  
号及第五〇九号ノ了解事項ニ「イニシャル」ヲ了セリ然ル  
ニ今十七日朝ニ至リ貴電第二五八号接到シタルカ何分「イ  
ニシャル」濟ノ案文ノ変更方ヲ提議スルコトハ甚タ困難ヲ  
感シタルモ堀内ヨリ周ニ懇談セシメタル結果（一）來翰漢文中  
「不敬」ヲ「非禮」ト改ムルコト並（二）回答中「各點ノ」ヲ  
削除スルコトヲ承認セシメ午後本使王トノ会見ニ於テ「イ  
ニシャル」濟ノ案文ニ右二点ノ修正ヲ施シタリ

389

昭和4年4月22日

在上海重光總領事より  
田中外務大臣宛（電報）

イニシャルした漢口事件解決日本側回答案に  
対する中国側修正要求への対応につき芳澤公  
使より請訓

上海 4月18日前発  
本省 4月18日後着



391 昭和4年5月2日

南京・漢口兩事件解決關係文書

一、南京事件解決文書

二、漢口事件解決文書

(編註)  
一、南京事件解決文書

(一)支那側來翰

大中華民國外交部長

爲照會事關於前年三月二十四日所發生之南京事件本部長茲特向

貴公使聲明國民政府爲欲增進中日兩國人民固有之友誼起見準備將該事件從速解決之茲本部長以國民政府名義對於在本事件日本國領事館官吏及其他日本人所被加之慢侮非禮並其財產上之損失及身體上之傷害以極誠懇之態度向

貴國政府深示歉意至該事件經調查證實完全爲共產黨於國民政府建都南京以前所煽動而發生惟國民政府擔負其責任

國民政府對於在華日本人之生命財產已本其所持之政策迭次通令軍民長官繼續切實保護現共產黨及其足以破壞關於中日人民友誼之惡勢力已經消滅故國民政府此後保護外人自較易

人民固有ノ友誼ヲ増進セント欲スルガ爲ニ該事件ヲ速ニ解決スルノ準備ヲ有スルコトヲ聲明致候

茲ニ本部長ハ國民政府ノ名義ヲ以テ本事件ニ於テ日本國領事館、官吏及其ノ他ノ日本人ニ對シテ加ヘラレタル慢侮非禮並ニ其ノ財產上ノ損失及身體上ノ傷害ニ對シ極メテ誠懇ノ態度ヲ以テ貴國政府ニ向テ深く遺憾ノ意ヲ表示致候該事件ハ調査ノ結果完全ニ共產黨ガ國民政府南京建都以前ニ於テ煽動シテ發生セシメタルモノナルコトヲ實證シ得タリト雖モ國民政府ハ之ニ對シ責任ヲ負フベク候

國民政府ハ在支日本人ノ生命財產ニ對シテハ既ニ其ノ抱持セル政策ニ基キ數次軍民長官ニ對シ繼續的ニシテ切實ナル保護方ヲ通令シ居レルガ現在共產黨及其ノ中日人民ニ關スル友誼ヲ破壞スベキ惡勢力ハ既ニ消滅シタルニ依リ國民政府ハ今後外國人ノ保護ニ付テハ自ラ力ヲ盡シ易カルベク國民政府ハ特ニ責任ヲ負ヒテ日本人ノ生命財產及其ノ正當ナル事業ニ對シ再ビ同様ノ暴行及煽動ハ之ヲ發生セシメザルベキコトヲ併セテ聲明致候

尙本部長ハ當時共產黨ノ煽動ヲ受ケ此ノ不幸ナル事件ニ參加シタル當該軍隊ヲ既ニ解散シタルコト並ニ國民政府ガ既

爲力惟國民政府特擔任對於日本人之生命財產及其正當事業不致再有同様之暴行及煽動發生合併聲明至當時被共產黨煽動而參加不幸事件之該軍隊業已解散國民政府且已施行切實辦法以懲辦肇事兵卒及其他有關係之人此則本部長堪爲貴公使附帶通知者也

國民政府準備依照國際公法通行原則對於日本國領事館日本國官吏及其他日本人所受身體上之傷害及財產上之損失應從速予以充分之賠償爲此國民政府提議組織中日調查委員會以便證實日本人從中國人方面所受之傷害及損失並估計每件中所應賠償之數目相應照請

查照見復爲荷須至照會者

右照會

大日本帝國特命全權公使芳澤謙吉

王正廷

中華民國十八年五月二日

(右譯文)

以書翰啓上致候陳者一昨年三月二十四日發生セル南京事件ニ關シ本部長ハ茲ニ特ニ貴公使ニ對シ國民政府ハ中日兩國

ニ切實ナル辦法ヲ施行シ事件ニ關係アル兵卒及其ノ他ノ關係者ヲ處罰シタルコトヲ茲ニ併セテ貴公使ニ通知致候

國民政府ハ國際公法ノ一般の原則ニ從ヒ日本國領事館、日本國官吏及其ノ他ノ日本人ノ受ケタル身體上ノ傷害及財產上ノ損失ニ對シ速ニ充分ナル賠償ニ應ズルノ準備有之此ノ爲國民政府ハ中日調查委員會ヲ組織シ以テ日本人ノ支那人方面ヨリ受ケタル傷害及損失ヲ實證スルト共ニ每件ニ付賠償スベキ數目ヲ査定センコトヲ提議致候

此段照會得貴意候 敬具

中華民國十八年五月二日

國民政府外交部長 王正廷

日本帝國特命全權公使 芳澤謙吉殿

(二)日本側往翰

以書翰啓上致候陳者本日附貴翰ヲ以テ左ノ通御照會相成了承致候

一昨年三月二十四日發生セル南京事件ニ關シ本部長ハ茲ニ特ニ貴公使ニ對シ國民政府ハ中日兩國人民固有ノ友誼ヲ増進セント欲スルガ爲ニ該事件ヲ速ニ解決スルノ準備

ヲ有スルコトヲ聲明致候

茲ニ本部長ハ國民政府ノ名義ヲ以テ本事件ニ於テ日本國領事館、官吏及其ノ他ノ日本人ニ對シテ加ヘラレタル侮慢非體竝ニ其ノ財産上ノ損失及身體上ノ傷害ニ對シ極メテ誠懇ノ態度ヲ以テ貴國政府ニ向テ深ク遺憾ノ意ヲ表示致候該事件ハ調査ノ結果完全ニ共產黨ガ國民政府南京建都以前ニ於テ煽動シテ發生セシメタルモノナルコトヲ實證シ得タリト雖モ國民政府ハ之ニ對シ責任ヲ負フベク候國民政府ハ在支日本人ノ生命財産ニ對シテハ既ニ其ノ抱持セル政策ニ基キ數次軍民長官ニ對シ繼續的ニシテ切實ナル保護方ヲ通令シ居レルガ現在共產黨及其ノ中日人民ニ關スル友誼ヲ破壞スベキ惡勢力ハ既ニ消滅シタルニ依リ國民政府ハ今後外國人ノ保護ニ付テハ自ラ力ヲ盡シ易カルベク國民政府ハ特ニ責任ヲ負ヒテ日本人ノ生命財産及其ノ正當ナル事業ニ對シ再ビ同様ノ暴行及煽動ハ之ヲ發生セシメザルベキコトヲ併セテ聲明致候

尙本部長ハ當時共產黨ノ煽動ヲ受ケ此ノ不幸ナル事件ニ參加シタル當該軍隊ヲ既ニ解散シタルコト竝ニ國民政府ガ既ニ切實ナル辦法ヲ施行シ事件ニ關係アル兵卒及其ノ

他ノ關係者ヲ處罰シタルコトヲ茲ニ併セテ貴公使ニ通知致候

國民政府ハ國際公法ノ一般の原則ニ從ヒ日本國領事館、日本國官吏及其ノ他ノ日本人ノ受ケタル身體上ノ傷害及財産上ノ損失ニ對シ速ニ充分ナル賠償ニ應ズルノ準備有之此ノ爲國民政府ハ中日調査委員會ヲ組織シ以テ日本人ノ支那人方面ヨリ受ケタル傷害及損失ヲ實證スルト共ニ每件ニ付賠償スベキ數目ヲ査定センコトヲ提議致候

依テ本使ハ前記貴翰ニ於テ表示セラレタル提議ニ對シ同意ヲ表シ且國民政府ニ於テ前記貴翰御來示ノ責任ヲ最短期間内ニ於テ完全ニ履行セラルルニ於テハ南京事件ニ依リ發生セル各種問題ハ根本の解決ヲ告グルモノト認定致候

此段回答得貴意候 敬具

昭和四年五月二日

日本帝國特命全權公使 芳澤謙吉

國民政府外交部長 王正廷殿

(三) 南京事件損害賠償ニ關スル了解事項

甲 日本領事館及領事館員ノ損害賠償ニ就テ

國民政府ハ在南京日本領事館及領事館員ノ一切ノ損害ニ對シテハ申告次第審査ヲ經ルコトナク直ニ右申告額ヲ支拂フベキモノトス

乙 其ノ他ノ日本人ノ損害賠償ニ就テ

(一) 日本人ノ損害額査定ニ關スル日支調査委員會ハ日支双方ヨリ各二名ノ委員ヲ任命シテ之ヲ組織ス

(二) 右日支調査委員會ノ損害額査定ハ本件解決文書交換ノ日ヨリ三個月以内ニ終了スベキモノトス但シ双方合意ノ上右期限ヲ延長スルコトヲ得

(三) 損害額ノ査定見積ハ個人損害ヲ先トシ團體損害ヲ後トス

(四) 日支委員會間ニ意見ノ一致ヲ見ザル場合ニハ双方合意ノ上選定スベキ南京事件ニ關係ナキ第三國人ヲシテ仲裁セシムルコトヲ得

(五) 賠償金支拂ニ關スル一切ノ事項ニ關シテハ國民政府ハ日本人ニ對シ英米兩國國民ニ對スル同様ノ取扱ヲ爲スベキモノトス

昭和四年五月二日南京ニ於テ

日本帝國特命全權公使 芳澤謙吉〔印〕

國民政府外交部長 王正廷〔印〕

(右譯文)

關於南京事件損害賠償之了解事項

甲 對於日本領事館及領事館員之損害賠償者

國民政府對於南京日本領事館及領事館員一切損害照其所開失單不經審查即行支付其所開之損害之額數

乙 關於其他日本人之損害者

(一) 關於估定日人損害額數之中日調査委員會由中日兩國各派二人組織之

(二) 該中日調査委員會對於損害額數之估定應自解決本案文件交換之日起三個月內告竣但經双方同意得延長其期間

(三) 損害額數之證實估定應以個人損害爲先然後進行團體之損害

(四) 中日委員會意見不一致時經双方同意得選定與寧案無關之第三國人請其仲裁

(五) 關於支付償款之一切辦法國民政府與英美決定對於英美人民何等辦法對於日本人亦同樣辦理

中華民國十八年五月二日在南京

中華民國外交部長 王正廷〔印〕

日本帝國特命全權公使 芳澤謙吉〔印〕

（編注）  
二 漢口事件解決文書

（一）支那側來翰

大中華民國外交部長

王

爲照會事關於民國十六年四月三日發生之漢口事件茲本部長以國民政府名義向

貴公使聲明本案雖經查明證實因共產黨煽動而發生但鑑于中日友好關係對於本案殊爲惋惜所有日本領事館員海軍軍人及日僑身體財產所受之損害茲擬準據國際公法在合理及必要範圍內者予以賠償並組織中日調查委員會實地調查日本人民所受之損失以審定賠償之確數對於本案發生之始中國人民之被傷害者亦請予以相當之撫卹俾本案得以圓滿解決相應照會貴公使查照見復爲荷須至照會者  
右照會

大日本帝國特命全權公使 芳澤謙吉

王正廷

中華民國十八年五月二日

（右譯文）

以書翰啓上致候陳者民國十六年四月三日漢口ニ於テ發生セル事件ニ關シ茲ニ本部長ハ國民政府ノ名義ヲ以テ貴公使ニ對シ左ノ通聲明致候

本件ハ調査ノ結果共產黨ノ煽動ニ依リ發生セルモノナルコト實證セラレタルガ國民政府ハ中日間ノ友好關係ニ鑑ミ本件ヲ以テ頗ル遺憾ト爲ス就テハ日本領事館員、海軍軍人及在留民ガ身體上及財産上受ケタル損害ニ對シ國際公法ニ準據シ合理且必要ナル範圍内ノモノハ之ヲ賠償スルコトト爲スベク尙中日調査委員會ヲ組織シ日本人民ノ受ケタル損失ヲ實地ニ調査シ正確ナル賠償額ヲ審査決定スルコトト致度尙本事件發生ノ當初ニ於テ中国人民ニシテ傷害ヲ受ケタル者ニ對シテモ相當ノ撫卹ヲ與ヘラレ以テ本件ヲ圓滿ニ解決スルコトト致度右御了承ノ上何分ノ儀御回答相成度此段照會得貴意候 敬具

中華民國十八年五月二日

國民政府外交部長 王正廷

日本帝國特命全權公使 芳澤謙吉殿

（二）日本側往翰

以書翰啓上致候陳者一昨年四月三日漢口ニ於テ發生シタル事件ニ關シ本日附貴翰ヲ以テ御照會ノ趣聞悉致候依テ本使ハ日支調査委員會ヲ設置シ其ノ委員ハ双方ヨリ選定シ各日本人ノ受ケタル身體上及財産上ノ一切ノ損害ヲ審査算定シ以テ賠償ニ備ヘントスル提議ニ對シテハ同意ヲ表シ候本使ハ國民政府ニ於テ前記ノ責任ヲ最短期間内ニ履行セララルニ於テハ漢口事件ニ依リ發生セル各種問題ハ根本的ニ

解決ヲ告グルモノト認定致候

此段回答得貴意候 敬具

昭和四年五月二日

日本帝國特命全權公使 芳澤謙吉

國民政府外交部長 王正廷殿

編注一、二 「支那側來翰」の「右訳文」及び「日本側往

翰」は「条約集纂 第一巻改訂版（日本国及各  
国間諸条約）」より採録。